

Ⅲ 学校評価自己評価

1. 学園小中一貫教育報告一覧

学 園 名	「目指す子ども像」、教 育 目 標
1 峰山学園	「教育目標」 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 「目指す子ども像」 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） 思いやりのある子ども（徳） 進んで心と体を鍛える子ども（体）
2 大宮学園	（１）教育目標 自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成 （２）目指す子ども像 ○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知） ○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳） ○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体）
3 網野学園	「目指す子ども像」 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識をもち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 「学校教育目標」 将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進
4 丹後学園	「目指す子ども像」 ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 【知】 ②自分を大切にし、人を思いやれる子 【徳】 ③ねばり強く身体をきたえる子 【体】 「教育目標」 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成
5 弥栄学園	「教育目標」 故郷を愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成
6 久美浜学園	[教育目標] ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成 [目指す子ども像] (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

2. 京丹後市立こども園、学校評価自己評価報告一覧

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
1 峰山こども園	“笑顔でつながう。みんなの てとて!!” —はなそう・つたえよう・みんなのおもい— （１）生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 （２）主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 （３）身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
2 大宮こども園	「心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもの育成」 ○健康で安全に活動する子どもの育成 ○身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを表現できる子どもの育成 ○素直で思いやりのある、積極的に関わり合う子どもの育成
3 網野こども園	（１）園児自らが環境に関わり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 （２）自分の思いや考えを表現したり、行動したりする力を養う。 （３）園児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。 （４）常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。 （５）地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。
4 丹後こども園	一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」をテーマに、人とのかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。
5 弥栄こども園	「ともだち だいすき つながるえがお」 ～やってみたい！明日もやりたい！夢中になって遊ぶこどもをめざして～ ○さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ○生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体を育てる。 ○身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
6 かぶと山こども園	こども園教育・保育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》「ぼくもわたしも みんな大好き！」～包みこまれている安心感の中で、 のびのびと生きる子どもをめざして～ 1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
7 峰山小学校	社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら創造的に生きることができる力を育てる。 1 将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 2 ものごとの価値、生き方・在り方を深く考え自律的に行動する力を育てる。 3 学んだことを生かして、社会に貢献しようとする態度を育てる。
8 いさなご小学校	教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども
9 しんざん小学校	1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
10 長岡小学校	「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。 〈目指す子ども像〉 ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども
11 大宮第一小学校	◇ 一人一人が輝き、生き生き活動する学校【児童】 ◇ やりがいを持って自分の力を発揮する学校【教職員】 ◇ 安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇ 他地域に誇れる地域とともにある学校【地域の方】
12 大宮南小学校	大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」 ・学級づくりを基盤にして、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を研究し、確かな学力をつける。 ・人権意識の育成を図る。 ・体験活動の充実を図る。
13 網野北小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
14 網野南小学校	網野学園小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 目指す子ども像 ・ あかるく元気に進んで学ぶ子 ・ みんななかよく支え合う子 ・ のびのび生き生きやりぬく子
15 島津小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
16 橘小学校	【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 【学園経営の基本方針】 自然・人・社会とのつながり、郷土を愛する心を育てる。（特に重視）
17 丹後小学校	教育目標（丹後学園共通） 『夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成』 ＜目指す学校像＞ 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校
18 宇川小学校	「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ・将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】 ・目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】 ・保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
19 吉野小学校	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図る。 2 確かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、一人ひとりが大切にされる心の教育の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の小中一貫教育を様々な取組を充実させながら、推進する。
20 弥栄小学校	「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子
21 久美浜小学校	学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を意識した教育活動を推進する。 1 質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2 質の高い学力を培う基盤として、児童同士及び教職員と児童との好ましい人間関係の構築を一層進める。 3 中学校卒業時の生徒像を常に意識し、学園教職員として互いに理解し合い、学園経営と学校経営の連携を図りながら進める。
22 高龍小学校	意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 ― 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 ― 1 基礎基本の徹底 2 言語活動の充実（授業づくり） 3 家庭学習時間の確保
23 かぶと山小学校	久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成 めざす児童像 （知）意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 （徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 （体）心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子
24 峰山中学校	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 ・小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止
25 大宮中学校	1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼され、開かれた学校づくり 5 教職員の資質能力の向上 6 大宮学園小中一貫教育の推進
26 網野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を身に付けさせる。 2 未来を展望し、将来を切り拓く力をすべての子どもに身に付けさせる。 3 思いやりをもち、仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育成する。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育成する。
27 丹後中学校	開校6年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。
28 弥栄中学校	困難な出来事であろうとも、問題解決に向けて習得した学びをもとに、考えをめぐらし適切な改善策を仲間と共に力を合わせる人間性を涵養する。 ・仲間と共に描いた夢や希望をあきらめることなく、実現しようとする生徒の育成
29 久美浜中学校	○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前になれる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧に図りながら系統的に実践を積み上げる。 1 生徒の自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する。 2 学力の充実・向上方策を共有し、全教職員で実践を進める。 （1）学ぶ意欲の向上、基礎基本の徹底 （2）「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、言語活動の充実 3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ地域とともにある学校づくりを目指す。

令和元年度 峰山学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【目指す子ども像】

「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」「思いやりのある子ども（徳）」「進んで心と体を鍛える子ども（体）」

【教育目標】

「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動）」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。

(1) 確かな学力の育成

言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究）

※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。

ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める

授業の中で目指す児童生徒の姿（3目標）

- ①自己決定をしている
- ②自己存在感を感じている
- ③共感的な人間関係をはぐくんでいる



そのための指導方法（3視点）

- ①主体的に活動する場面が設定された授業
- ②本時の目標が明確で「わかる」授業
- ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業

イ 目標と指導と評価の一体化を進める

（ア）目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計

（イ）単元総括テストの蓄積と検証

(2) コミュニケーション能力の育成

確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動）

ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導）

イ 自己肯定感を高める取組（特別活動）

（ア）学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組

（イ）集団の中で豊かに人とかかわることができる取組

(3) 評価を見通した取組の充実

ア 学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実

イ 教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価（実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 学園内の全ての学校が、年度当初から目指す子ども像・教育目標を共通化 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け (3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け	(1) 児童生徒の実態や課題などや目指す子ども像、目標方針の共有について ○年度当初の研修会で、峰山学園の児童・生徒実態から明らかにした経営方針を全教職員で確認し、運営ができた。 ○児童・生徒の状況については、各会・部会で共通理解を図り、取組に生かしている。担任会でも、児童の状況について交流を行ったり、指導方法等を学び合ったりしている。 (2) 学校経営及び進行管理 ○経営会議を定期的に開催し、学園内の教育課題の把

		握・整理を行いながら、教育目標・目指す子ども像の実現を目指して経営を行うことができた。 ○経営会議で、運営部会、教育課程部会、生徒指導部会、教育支援部会、学習指導部会の取組等を把握することができた。 ○担任会の実践を進めるために、担当校長・教頭、教務主任、指導教諭が担任会に入り、中学校数学科の教員が5・6学年担任会に入り、学習指導部会と連携できる組織となり、より充実した活動ができた。 ○担任会で総括テストを交流することは、テストを作成するために単元の指導構想をつくったり、5・6年担任会では、中学校の先生方から意見をいただくことができたりして、自らの指導力の向上に役立った。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり (2) 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 (3) 単元総括テストの作成と交流 (4) 京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 (5) 学力充実期間等の設定 (6) 中1ふりスタ (中学校1年生集中振り返り学習) (7) 全ての学年でのふりスタ (8) 中学校体験授業 (9) 「5年生・6年生の心得」 (10) 二分の一人式(小学校4年生)、立志式(中学校2年生) (11) こども園、小学校の接続を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 (12) 小1アプローチプログラム・スタートカリキュラムの実践と検証と改善	就学前から中学卒業までを見通した一貫した指導の充実と教育課程編成を行う。 本年度、0期、I期～Ⅲ期をより意識した指導を行うことを年度当初で確認した。教育課程部会、担任会で峰山学園の児童生徒につける力の検討を行ってきた。このことが、一貫性・系統性のある教育課程による指導につながっていく。 (1) 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像の共有 ○経営会議で決定したことを各校へ持ち帰り、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。 (2) 就学前から中学卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 ○年間4回校園長会を実施し、連携を深め、10年間を見通した指導について取組を進めることができた。また、教育支援部会へのこども園の参加、1年担任会(こども園の参加)・教育課程会議の取組で、園児・児童の連携した支援を行うことができるようにしてきた。 ●こども園等から小学校へ、小学校から中学校への子どもに関わる情報については、個人情報であることを踏まえた対応と内容については、毎年確認をしてより良いものにしていく必要がある。小1アプローチプログラム・スタートカリキュラムも改善し、実践する。 ○本年度、教育目標、目指す子ども像の実現を目指して、0期、I期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしようと確認をして教職員が、協働して指導・支援を行ってきた。次年度以降もさらに0期、I期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしていく。 ○指導の重点である確かな学力の育成では、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを各小・中学校で進めることができた。また、秋季研修会と年度末研修会では、学習指導部会が中心となって取り組み、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた。 ○1中学校4小学校だから実施する必要性があること「中学校体験授業」「小学校合同校外学習」等に取り組むことができた。また、「乗り入れ授業(小中連携加配)」「(体育)」にも取り組むことができた。中学校の授業について児童は知ることができ、有用である。 ○児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5

		までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。 ○各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく、授業にも生徒指導の3機能を生かす取組ができ、おおむね落ち着いた状況で生活できている。 ○SNSに係る指導を小・中学校で進めることができた。 ●SNSにかかる指導については、PTAとの連携が必要であるので、運営会議とも連携して進める。 ○「二分の一成入式」「立志式」に取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。今後学園としてねらいや趣旨を共通化して、育成すべき力の実現を目指す。 ○今後も、「5・6年生の心得」などは、常に児童生徒の実態を踏まえ、検討を行い、全員で確認をしながら指導を進めていく。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 目指す子ども像の実現・目指す教師像の意識化に向けた教職員の協働及び教職員の交流 ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業を通じた研修会 ウ 担任会を通じた研修 (2) 「集団の中で豊かに人とのかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア 峰山中学校合唱祭 イ 部活動体験 ウ 合同授業・学びの交流等 エ 体育祭等 オ 生徒指導の3機能を生かした「わかる・できる」授業実践 カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組	○『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「生徒指導の3機能を生かした授業」について小中学校ともに授業研究に取り組むことができ、授業改善を前進させることができた。 ○全教職員の研修会での実践研究及び各部会での実践交流を通して、教職員の交流を図ることができた。 ○峰山中学校合唱祭・クリーンキャンペーン・部活動体験・体育祭・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校への不安を解消したり、自己肯定感を高めたりすることができた。 ○小学校合同校外学習・合同授業等を通して小中の交流を深め、豊かな学習を創り上げたりすることができている。 ○交流会等への峰山高等学校教員の参加など、高等学校との連携を今後も進めていく。
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 家庭・地域への情報発信 (2) 学校支援ボランティアの活用 (3) 家庭との連携	○学園の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）と連携した峰山学園PTA統一目標を策定したり、具体的にPTA挨拶運動（峰山学園PTAみんなでおはよう運動及び交通安全指導）を実施したりすることができた。 ○小中一貫教育学園コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を運営会議と分担したことで、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 ○地域コーディネーターの配置を受け、学校支援ボランティア等を活用し、市民が、学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができた。 ○SNSについて、各小中学校で実態に合わせてPTAと連携して取り組むことができた。今後もSNSに係る指導をPTAと連携して進めていく。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
《成果》 - 児童生徒、教職員アンケート結果より - 峰山学園の小中一貫教育の成果は顕著に現れ、峰山学園の児童生徒の課題解消や軽減等は着実に進んでいる。 - 峰山学園の教職員のアンケートによって確実に小中一貫教育で目指している指導が浸透しつつある。授業について小・中学校の教員が協議できるようになってきた。 - 学園経営及び進行管理について - 経営会議が運営会議、教育課程会議及び生徒指導部、学習指導部などを統括する必要がある、組織改編を行った。 - 担任会の実践を進めるためにより機能的な組織体制にして、担任会がより授業づくりの実践推進を担うよう学習指導部と連携できるようにした。 - 担任会の活動内容(総括テスト、学習の振り返り)を明らかにし、授業改善や学力向上に繋がる実践に取り組むことが出来た。 - 学園が標榜している授業改善の3つの柱(授業を見る視点、生徒指導の3機能、目標と指導と評価の一体化)に焦点化した実践を進めることが出来た。 10年間を見通して一貫した取組について 「目標と指導と評価の一体化」を具体化するための実践を担当会に位置付け学習指導部と連携しながら(言葉の力の育成:思考する力・判断する力・表現する力)に焦点を当てた評価テストの作成等に取り組むことができた。 - 生徒指導の3機能を育む授業の推進に向けて、学習指導部会と生徒指導部会が連携し、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた。 10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。 特に、0期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を具体化してその指導を行う。学園内で各期に身に付けさせる力を協議して明らかにすることができた。 - 児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。 「5年生・6年生の心得」の取組だけでなく、各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく授業にも生徒指導の3機能を生かそうとすることで、コミュニケーション能力を高めることができてきている。また、「二分の一人成式」「立志式」にも取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。 「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「生徒指導の3機能を生かした授業」について小中学校とともに授業研究に取り組むことができ、授業改善を大きく前進させることができた。	改善方策 ○令和2年度は、現体制(1中学校4小学校2子ども園の組織図及び組織体制)で運営していく。 ○担任会の取組の継続・発展 担任会…今年度の体制を維持し次の内容に取り組む。 ①学年の学習内容の復習のための課題づくり ②目標と指導と評価の一体化を具体化する総括テストづくりをすることによる指導力の向上を図る。 ③0期～Ⅲ期の指導目標を踏まえた指導の充実を図る。 ○小・中学校教員の研修会 授業づくりを中心とした協議を行い、小中学校で指導力の向上を図る。 ○令和2年度を目指す子ども像・教育目標・目指す教師像について、小中一貫教育推進の手引きをもとに検討を行う。 【令和元年度】 1 目指す子ども像 意欲を持って自ら学ぶ子ども(知) 思いやりのある子ども(徳) 進んで心と体を鍛える子ども(体) 2 教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 3 目指す教師像 教育的愛情と、使命感・情熱に満ちている教師 人間的魅力にあふれている教師 高い「専門性」と「授業力」を持ち、確かな学力をつけることができる教師 児童生徒、保護者、同僚、地域の人から信頼される教師 「京丹後」への理解と愛情と、国際的な視点に立った教育を進めることができる教師 4 学園経営方針 (1)一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園【児童・生徒】 - ア 自分の将来を展望し、意欲を持って学ぶことができる取組を進める。 - イ 自分の思いや考えが表現でき、共に学び、思いやることのできる取組を進める。 - ウ 粘り強く挑戦し、自らの心や体を鍛えることのできる取組を進める。 (2)「中学校卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】 - ア 児童生徒の願い・希望・悩みに正面から向き合い、共感的理解と指導に努める。 - イ 「わかる」「できる」授業・生活の創造に取り組み、専門性の向上を図る。 - ウ 10年間を見通して一貫性・系統性のある指導を行う。 - エ 互いに学び合い、協働的な教育活動を展開する組織を構築する。 - オ 保護者や地域の人達と連携して児童生徒の社会的自立を図る指導を進める。 (3)保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】 - ア PTA・地域と連携した自己肯定感を高める取組を進める。 - イ 保護者・地域へ双方向の情報発信を行う。 - ウ 市民が学校の教育活動を積極的に支援する取組を

きた。 ・小中一貫教育コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を運営会議と分担したことで、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 《課題》 1 令和2年度学園経営に向けて (1) 組織体制及び運営上の改善 ・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。特に、0期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を目指した指導をさらに進める。 (2) 令和2年度に向けての重点的な課題・取組方向 【教育目標・目指す子ども像・学園経営方針】 ・令和2年度についても、学園として教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子」の実現に向けて、PDCAサイクルで、学園経営を行っていく。 【学園指導の重点】 ・特に「確かな学力の育成」に関する取組では、「目標と指導と評価の一体化」を進めて行く。小小連携で、単元末総括テストの作成・実施・評価・改善に力を入れて取組を更に進める。 ・「目標と指導と評価の一体化」について、中学校での実践の分かる化を進める。 ・夏季研修については、教職員の指導力量を高めていく取組の大きな節としていく。特に授業づくりを重点として取組を行う。 ・授業研究については、学習指導部会が中心となって「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「目標と指導と評価の一体化」「生徒指導の3機能を生かした授業」を基に行う。小中全教職員が授業研究にかかわるためにも、各校で視点を明確にした実践を積み上げる。 ・「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」では、「言葉の力の育成」に焦点を当てた実践を進める。 ・生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、自己指導能力・人間関係力を身に付ける指導方法・取組について実践を積み上げていく。その中で、中学校卒業時に付けるコミュニケーション能力を明らかにしていく。同時に、指導者として各学年・発達段階に応じてそのためにどのような手立てが必要か検討していく。 ・学園評価について、方針に基づいて早い段階から、評価の計画・見通しを持ち、学園運営協議会での評価により指導の改善を図る。 ・教育評価（総括テスト等）から、教育指導を実践していく。ゴールや出口を明らかにすることでより質の高い取組を行う。保護者、地域の方々の評価については変更を加える。 【小中一貫教育の具体的な内容】 ・0期・Ⅰ期～Ⅲ期の実践を明確にし、小中一貫教育の姿を確認する。	進める。 ○学園指導の重点 指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動）」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。 教育課程部会が担任会等で協議して作成した（0）Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿一覧」を意識した指導を行う。 (1) 確かな学力の育成 生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究） ※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。 ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める 授業の中で目指す児童生徒の姿（3目標） ①自己決定をしている ②自己存在感を感じている ③共感的な人間関係をはぐくんでいる そのための指導方法（3視点） ①主体的に活動する場面が設定された授業 ②本時の目標が明確で「わかる」授業 ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業 イ 目標と指導と評価の一体化を進める (ア) 目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計 (イ) 単元総括テストの蓄積と検証 (2) コミュニケーション能力の育成 確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動） ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導） イ 自己肯定感を高める取組（特別活動） (ア) 学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組 (イ) 集団の中で豊かに人とかかわることができる取組 (3) 評価を見通した取組の充実 ア 学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実 イ 教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善 ○ 小中一貫教育の具体的な内容 1 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標方針の共有に向けて (1) 学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け (3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け 2 就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 (1) 峰山学園の目指す子ども像を見通した指導と教育課
---	--

(3) 令和2年度に向けての年間計画・行事の見直し	程の作成 ア 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり イ 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 ・小6児童の不安感や中1生徒の困り感の再検証 ・中1ギャップの捉え直し ・単元総括テストの作成と交流と検証 ・京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 ・学力充実期間等 ・乗り入れ授業 ・小学校高学年での一部教科担任制(音楽科) ・中1生集中振り返り学習 ・全ての学年でのふりスタ ・中学校体験授業(年2回) ・二分の一人式(小4生)、立志式(中2生) ウ 0期Ⅰ期～Ⅲ期の目指す姿を達成できる指導について協議、実践していく。 エ こども園と小学校の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導 ・小1アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証 3 子ども、教職員の交流と協働 (1)「目指す子ども像」の実現・「目指す教師像」の意識化 ⇒教職員の協働及び教職員の交流 ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業を通した研修会 ウ 担任会を通した研修 (2)「集団の中で豊かに人とのかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア 峰山中学校合唱祭 イ 部活動体験・作品展 ウ 合同授業・学びの交流等 エ 峰山中学校体育祭(自由参加) オ 生徒指導の3機能を生かした授業実践 カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組 キ クリーンキャンペーン 4 家庭、地域社会への積極的な情報発信 (1) 峰山学園運営協議会による評価の実施と学園の目標、教育活動の保護者・地域住民への積極的な情報発信 (2) 中学校区の家庭教育の課題(基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等)を踏まえた「峰山学園」PTA統一目標の設定 (3)「峰山学園」PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施 (4) 学園の教育活動に支援体制(学校支援ボランティア等)の機能化と充実
----------------------------------	---

令和元年度 大宮学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

- (1) 教育目標
自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成
- (2) 目指す子ども像
- 意欲的に学び、チャレンジする子ども (知)
 - 自他を大切にし、思いやりのある子ども (徳)
 - 心身を鍛え、活動的な子ども (体)

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- (1) 確かな学力の育成：「言語活用カリキュラム」の継続
- ①基礎学力の向上を目指した「主体的・対話的で深い学び」による授業づくり
 - ②小中接続を充実させるための授業づくり、授業計画の策定
 - ③「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指した授業づくり
 - ④保幼小の接続のためのアプローチプログラム・小1スタートカリキュラム
- (2) 人権意識の育成：「人権教育カリキュラム」の継続
- ①人権教育の理念に基づく「自他を大切にする心」を育成するための教育活動の充実
全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成
 - ②人権意識を育成するための人権学習の充実
- (3) 連携・体験活動の充実
- ①5歳児1年生・汽水域を中心にした効率的・効果的な連携教育活動、体験活動の充実
 - ②体験活動を通して「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成
 - ③効率的・効果的な共通した学校のきまり（学習・生徒指導・家庭連携）
 - ④夢・未来式（4年生・中3年生）
- (4) 目指す子ども像の実現を見通した教職員の交流と協働
- ①教職員の授業研究（主体的・対話的で深い学び）
 - ②合同研修会・実践交流会の実施
- (5) 家庭、地域社会への啓発、情報発信
- ①中学校区の家庭教育の課題を踏まえた「大宮学園」PTA統一目標の策定
 - ②大宮学園PTAによる「家庭のやくそく」の継続、親のための応援塾の継続
 - ③大宮学園PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施
 - ④大宮学園教育支援協議会による大宮学園教育環境づくりの推進
 - ⑤「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1)学園内の全ての学校が、教育目標、目指す子ども像を共通化する。 (2)学園内の全ての学校が、学園経営計画を各校の経営計画へ位置づける。 (3)学園内の全ての学校が、学園児童実態・課題、学園重点方針等を各校の経営計画へ位置づける。 (4)学園小中一貫教育推進部会による理	(1)学園教育目標及び目指す子ども像に向けて、学園内の2園所、3校での共通化に取り組んだ。 (2)学園経営計画を各園所、学校の経営計画に位置付け、経営の充実に取り組んだ。 (3)学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営を統括し、一貫した教育指導・活動の充実に努めた。 (4)経営会議で園所・校の連携を図り、10年間の一貫した指導の充実に努めた。

	論・実践研究成果を各校に波及させる。	(5) 学園小中一貫教育推進 3 部会の実践研修成果を、各園所・校の運営に波及することができた。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 大中校区小中一貫校教育課程の編成 ① 汽水域指導プログラムの推進等 ・小中学校での乗り入れ授業の計画・実施（加配の活用） ・5・6年生での一部教科担任制 ・中学校授業体験（年2回） ② I 期・II 期・III 期の学習への円滑な接続 ・アプローチプログラム、小1スタートカリキュラム（5歳児担任・1年担任） ・夢・未来式の実施（小4年生・中3年生） ・小4・中1ふりスタ ・春季休業中の共通宿題（6年生） ③ 家庭学習の充実 ・家庭学習の統一手引き ・家庭学習がんばり旬間 (2) 学力充実向上に関する取組の進行管理 ① 学力調査と分析 ② 授業充実・授業力向上 (3) 生徒指導・教育相談の一貫・接続 ① 5・6年生の心得 ② 共通の生活の決まり ③ 情報モラル教室 ④ 保園小中連携シート (4) モデルカリキュラムに係る推進 ① モデルカリキュラムの研修 ② モデルカリキュラムの年間指導計画への位置付け	(1) 大中校区小中一貫校教育課程の編成について ① 汽水域指導プログラムの推進等について ・小中連携加配に乗り入れ授業（音楽）を実施し、児童の実態把握や指導に効果があった。 ・人権教育加配が小学校での学習補助にあたることで、児童支援や児童の状況把握に効果があった。 ・英語指導について、小学校との授業研究を進めることで、授業づくりについての協働が進んだ。 ② I 期、II 期、III 期の学習への円滑な接続について ・保園と小学校との連携のもと、小1プロブレムの解消に向けての取組を行うことができた。 ・小4と中3で、夢・未来式に取り組んだ。 ・6年生を対象に共通テスト（数学）を実施し、中学入学後のテストに係る不安解消に向けて取り組んだ。 ③ 家庭学習の充実について ・家庭学習の手引き、家庭学習がんばり旬間により、家庭学習習慣の向上に取り組んだ。 (2) 学力向上に関する取組の進行管理について ① 学力充実部で学力分析を行うとともに、視点を明らかにした年間2回の大宮学園授業研究会を行い、授業づくりに取り組んだ。 ② 教科指導の連携・接続を目指し、担任会、小中連携による指導研究に取り組んだ。 (3) 生徒指導・教育相談の一貫・接続 ① 学園として小中各校、一貫校PTAで情報モラル学習を実施し、多くのことを学ぶことができた。 ② 事例研究、引き継ぎシート等の充実に取り組めた。 (4) モデルカリキュラムに係る推進について ① 学園としてモデルカリキュラムをもとにした授業の実施を行った。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 連携・体験活動 ① 人権意見発表会（学校毎） ② 合唱祭 ③ 体育祭（招待状） ④ 部活動体験 ⑤ 体験授業 ⑥ 花いっぱい運動（学校毎） (2) 幼児・児童・生徒交流活動 ① 児童会・生徒会交流活動 ② 挨拶運動 ③ 生徒会アドバイス ④ 児童会・生徒会スローガン (3) 教職員の交流と協働 ① 担任会（小小担任会、1年担任と5歳児担任、6年担任と中1担任） ② 授業研究 ③ 合同研修・実践交流会	(1) 連携、体験活動、幼児・児童・生徒交流について ① 「おおみや学園のうた」ができ、合唱祭等行事や取組の中で園所校で学園の歌として歌うことができた。 ② 児童会・生徒会交流活動、挨拶運動（ハイタッチモーニング）、部活動体験等、計画通りに取り組めた。 ③ 掲げた大宮学園スローガンを意識して、取り組むことができた。 (2) 教職員の交流と協働について ① 合同授業研究会で、授業づくりについて学ぶ機会は意義があり、今後も充実を図りたい。 ② 3部会での現状分析、実践交流に取り組んだ。

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 中学校区の家庭教育課題を踏まえた「大宮学園」PTA統一目標の策定 (2) 大宮学園PTAによる「家庭のやくそく」の取組 (3) 大宮学園PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施 (4) 大宮学園教育支援協議会運営と大宮学園教育環境づくり (5) 「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発	(1) 大宮学園PTAの目標策定とともに、「令和版 家庭の心得」を配布し、掲示することができた。 (2) 大宮学園PTA事業計画に基づき、「エプロンでおはよう 挨拶運動」や「情報モラル学習会」等、計画的に実施することができた。 (3) 大宮学園教育支援協議会による地域連携、教育支援を進めることができた。また、学園コミュニティ・スクールに向けた取組を進めることができた。 (4) 学園だより、ホームページの更新等で、教育活動の発信に努めた。 (5) 学園評価を実施し、今後に向けた評価をいただいた。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
【成果】 (1) 小中一貫教育の重点（学力・体験活動・不登校）と「大宮学園目指す子ども像」整合性を図り、『連携・体験活動の充実』を経営の重点として推進できた。 (2) 学園3会議（経営、運営、教育課程）及び3部会（学力充実、人権・生徒指導、教育支援）が機能させ、計画的に学園の事業・取組を進めることができた。 (3) すべての教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」の育成に向けて取組を推進することができた。 (4) 2度の授業研究会（市小中一貫教育授業研究会含む）や講師を招聘した学園研修等を通して、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を進めることができた。	【課題】に対して (1) 学園評価を受け、小中一貫教育の3つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。 ① 市の教育課題改善のため、小中一貫教育の目的についての共通理解を当初全体会で確実に行う。 ② その具現化に向け焦点化した大宮学園小中一貫教育の重点策定を行う。次年度も今年度評価に基づき、『連携・体験活動の充実』、特に「精選（効果的・効率的）」と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 ③ 指導の重点の具現化に向けて、学園で一貫して取り組むことの整理を行い、評価の充実を図る。 (2) 大宮学園小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。 ① 大宮学園3会議と教育課程推進3部会の経営及び活動の充実と各校への効率的な接続を図る。 ② 連携教育活動を効果的・効率的に進める。 ③ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業研究を効果的・効率的に進める。 ④ 担任会・教科部会等を効果的・効率的に進める。 ⑤ 3つの力（ことばの力・思いやる力・つながる力）の育成に向けた授業づくりを進める。次年度から大宮第一小学校が府小研特別活動研究協力校の指定を受けることとなり、特別活動での連携をさらに進める。 (3) 大宮学園教育支援協議会の学園運営協議会（学園コミュニティ・スクール）への円滑な移行を図り、より地域とともにある学園（学校）を目指す。 ① 大宮学園の教育課題を改善するための地域連携をこれまでの組織を発展させた学園運営協議会を活用して強化・充実させる。

令和元年度 網野学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【目指す子ども像】	
あ：明るく元気に進んで学ぶ子	【知】意欲的に学習に取り組む子ども
み：みんななかよく支え合う子	【徳】規範意識をもち、仲間と支え合う子ども
の：のびのび生き生きやりぬく子	【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども
【学園教育目標】	
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進	

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 規範意識の醸成	
ア 学習規律の確立	
(ア) 人の話を聴く	(イ) 時間を守る (ウ) 服装・姿勢を正す
イ 生活習慣の確立	
(ア) テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める	
(2) 確かな学力の育成	
ア 主体的・対話的で深い学びの実現	
イ 学びのスタイルの確立と活用能力の向上	
(ア) 本時の『めあて』を全体で共有し、提示する。 (イ) 「思考をくぐらせる」場面をつくる。	
(ウ) 「考えを交流する」場面 (ペア・グループ学習等) をつくる。	
ウ 家庭学習の習慣化	
(ア) 低学年：20分以上 (イ) 中学年：40分以上 (ウ) 高学年：60分以上 (エ) 中学：90分以上	
(3) 豊かな人間性	
ア 積極的な生徒指導	
イ コミュニケーション能力の育成	
ウ ボランティア活動	
エ 自立的に生きる基礎の確立	
(ア) 切れ目のない組織的な支援 (イ) 保護者との連携	

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針・目指す教師像を経営方針へ位置付け (3) 学園内の全ての学校が、「これだけは！」の各学校の経営方針へ位置付け	○ 経営会議で確認したことを各校、各会議・各部会で年間計画に沿って取り組み、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。 【児童・生徒アンケート（小学全19項目 中学全20項目）で肯定率80%以上の項目数】 小1（19項目）、小2（18項目）、小3（19項目） 小4（16項目）、小5（18項目）、小6（18項目） 中1（15項目）、中2（16項目）、中3（13項目） ○ 年3回の全体研修会を貴重な学びの場として研修し、網野学園全体の教職員が共有の学びをすることができた。 【教職員アンケート「教職員が互いに学び合い、協働的な組織となった」肯定率76%※昨年度69%】 ○ 「網野学園小中一貫教育だより」「網野学園小中一貫教育教職員だより」「網野学園教育応援会だより」

		を通して各校・各部会・応援会の取組を共有化することができた。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1)規範意識を醸成し、落ち着いた環境をつくる取組 ア 「これだけは!」・「これだけは!」(授業編)の取組 イ 5年生中学校授業参観 ウ 6年生中学校授業体験 エ 6年生部活動体験 オ 乗り入れ授業・小小連携授業の取組・小中連携授業等の取組 カ アプローチプログラム・スタートカリキュラムの検証 (2)未来を展望し、将来を切り拓く力を育成する取組 ア 家庭学習の手引き・家庭学習がんばり週間の取組 イ 6年生学年末テスト・6年生春季休業中の課題 ウ 中1ふりかえり集中学習・小4ふりかえり学習 エ 京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 (3)思いやりをもち仲間と共に生きる人間関係を築く取組 ア アルミ缶回収・ボランティア活動 イ 挨拶運動	○ 年間5回学園経営会議(園所小中)を開催し、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有しながら連携を深め、スタートカリキュラム・アプローチプログラムを実践したり、検証したりすることができた。 ○ 行動連携「これだけは」を基に一貫した指導を行い、どの学校、どの園所でも落ち着いた環境を創り出すことができた。 ○ 行動連携「これだけは」(授業編)を基に指導を行い、どの学校、どの園所でも「自分の考えを持つ」「授業で考えを交流する」を推進することができた。しかし、指導者として、更に一步踏み込んだ指導をするまでには至らない部分もあった。 ○ 小学校から中学校へ段差なく接続するために、「5年生中学校授業参観」「6年生部活動体験」「6年生体育祭取組見学」「6年生中学校授業体験」「乗り入れ授業・小小連携授業・小中連携授業」等に取り組むことができた。また、そのことにより規範意識を醸成することができた。 「5年生中学校授業参観」を今年度新たに実施したが、中学校の授業の「速さ」・「量の多さ」・「内容の難しさ」等を実感させることができた。 部活体験を6月に変更し実施した。中3から中1までいる中で、中学生は、小学生に対し中学生らしい態度を示すことができ、6年生は中学校への不安を減らすことなどができた。 土曜活用がなくなったため、今年度は6年生が平常日に体育祭の取組の見学を行った。チームごとに目的達成のために動く様子から、自分達で考える大切さ、行動の素早さ等多くのことを学んだ。 ○ 児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、家庭学習頑張り週間、小4ふりかえり学習・中1ふりかえり集中学習・6年生春季休業中課題・6年生学年末テスト(定期テスト対策)等に取り組むことができた。 ※今後の予定含む ○ 思いやりを持ち、仲間と共に生きる人間関係を築くために、アルミ缶回収・ボランティア活動、挨拶運動に小中合同で取り組むことができた。 ○ 情報モラルについての出前授業(学習会)を、小学4年生、中学1年生等を対象に、N I T情報技術推進ネットワークの篠原嘉一氏を講師として実施できた。SNS利用におけるトラブルについて具体的に知ったり、トラブルに合わないための方法を知ったりできた。

幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 目指す子ども像の実現に向けた教職員の協働及び教職員の交流 ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業研究会を通じた研修会 ウ 学年部会を通じた研修 エ 保幼小連携部を通じた研修会 (2) 落ち着いた学校・授業をつくることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア 6年生網野中学校合唱祭参加 イ 6年生体育祭取組見学 ウ 合同校外学習及び学びの交流 エ 小中合同交流事業（友だち交流会等）	○ 行動連携【しっかり考え学力をのばす「これだけは！」（授業編）】を基にして、各校で授業研究を進めることができた。 また、各校の授業研究を発表することで、網野学園の授業づくりについて発信することができた。 6月26日（水）網野北小学校「算数」 10月25日（金）島津小学校「外国語」 ※京都府小学校教育研究会外国語発表 ○ 年4回の学年部会を通して授業研究、学力充実の取組の交流、共通の校外学習・合同交流学习に取り組むことができた。小小連携の連絡、調整ができた。 ○ 小1学年部会（園所の参加）の中で、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有しながら、アプローチプログラム・スタートカリキュラムの検証をしたり、研修したりすることで、園所小の協働意識を高めることができた。 ○ 落ち着いた学校・授業をつくることを目的とした子どもの交流を図る行事、部活動体験、網野中学校合唱祭参加、授業体験等、児童生徒は交流を通して6年生は中学校への不安を解消したり、中学生は自己有用感を高めたりすることができた。また今年度は新たに、5年生は中学校の授業参観により中学校の授業規律、授業の速さ、内容の多さ等を実感することができた。 ○ 網野高校教職員の授業研究会・網野学園教職員懇親会への参加、小中教職員の網野高校授業公開への参加等により、網野高校との小中高の交流を深めることができた。
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 網野学園教育応援会の取組 ア 網野学園の教育や子育て環境について学校・家庭・地域が一体となり、必要な教育支援を協議し、具体的な取組を推進して、教育力のある地域社会を目指す。 イ 網野学園小中（保・幼）一貫教育の推進に向け、学校（PTA）、家庭、地域社会が連携して取り組む。 (2) 京丹後市PTA協議会網野小中一貫校PTAの取組 ア 網野学園PTAとして、「学園合同交通安全運動」等、一体となって取り組み、学園「目指す子ども像」の実現に向けて連携して取り組む。 イ どの家庭でも、幼児から大切に「これだけは！」（家庭編）の取組 （ア）基本的生活習慣の確立 （イ）規範意識の基礎の確立 （ウ）家庭学習の習慣化	○ 網野学園教育応援会の取組を通して、学校・家庭・地域が一体となり、挨拶運動等、必要な教育支援を行うことができた。 ○ 網野学園PTAとして、「学園合同交通安全運動」等に一体となり、「目指す子ども像」の実現に向けて取り組むことができた。 ○ 網野学園教育応援会により「下校時巡回パトロール」の取組が実施された。 ○ 学園運営協議会に係るモデル指定（市教育委員会）を受けた。教育応援会の運営を通しながら、「網野学園教育応援会が学園単位での学校運営協議会（コミュニティ・スクール）への移行が可能か」について検証し、検証結果を報告した。※予定含む ○ 今年度は網野学園と市PTA共催という形であったが、網野学園家庭教育委員会も受付担当をするなど関わりながら「子育て講演会」が開催された。佛教大学教育学部 原 清治 教授により「子ども達のいじめや不登校」をテーマに講義をして頂き、子育てについて深く考えさせられる機会となった。 ○ 【どの家庭でも、幼児から大切に「これだけ

		は！」(家庭編)】についてリーフレットを配布し、10年間を見通して保護者と連携することができた。 ○ 小中一貫コーディネーターが中心となり、学園日より・ホームページ・リーフレット等を通して、広く学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○ 学園評価計画に基づいて、アンケートをとり、改善に生かすことができた。 ○ 学校支援ボランティア等を活用し、網野町民が学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができています。
--	--	--

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
○ 経営会議を定期的に開催し、学園内の教育課題を把握し、目指す子ども像・教育目標の実現に向けて経営することができた。 ○ 学園経営の基本方針に基づいて、重点的な取組内容(①規範意識の醸成、②確かな学力の育成、③豊かな人間性)、行動連携を決定し、学園評価に結び付けることができた。 ○ 運営会議・推進会議、また、重点2部会(生徒指導部会・教育相談部会)及び3部会(給食部・特別活動部・道徳部)の取組の成果・課題を把握し、総合調整をしたり、改善に努めたりすることができた。 ○ 昨年度の評価に基づき経営・企画することで、小中一貫教育関連事業が6年生に集中していることに対する改善をすることができた。 ○ 経営会議までに事務局会議等により学園内の教育課題を把握し、目指す子ども像を実現するための調整及び事務作業を行った。 ○ 経営方針に基づいて、運営上の課題の調整をしたり、年3回の学園全体研修会を実施するための調整及び事務作業を行ったりした。 ○ 園所間・小小間・小中間の連携、各会議・各部会の連携を小中一貫コーディネーターが行うことで、目標に沿った連携や取組を行うことができた。 ○ 小中一貫コーディネーターを中心に、保護者・地域との連携及び網野学園教育応援会の取組を進めることができた。具体的にあいさつ運動等の取組も実践することができた。 ○ 網野学園「共同学校事務室」が、「京都市チーム学校推進校(共同学校事務室)」として、実践研究のテーマ・達成目標を設定し、定例会議(月2回)より、実務に関する共同での事務処理について実践	○ 令和2年度についても、学園として「目指す子ども像」、「教育目標」の実現に向けて、PDCAサイクルで、学園経営を行っていく。 ○ 園、所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を目標とした実践研究が意欲的に進められている。※1:健康な心と体、2:自立心、3:協同性、4:道徳性・規範意識の芽生え、5:社会生活との関わり、6:思考力の芽生え、7:自然との関わり・生命尊重、8:数量・図形、文字等への関心・感覚、9:言葉による伝えあい、10:豊かな感性と表現 これら「10の姿」を、子ども達の成長を連続的なものとして捉える際に役立てながら、園・所と小学校との日常的な連携を一層進める。 ○ また、重点的な取組内容として、平成29年度より、「規範意識の醸成」「確かな学力の育成」「豊かな人間性」に取り組んできた。令和2年度についても継続して取り組み、実践を積み上げていく。同時に、行動連携についても継続して取り組む。その際、Ⅱ期の授業づくりを中心に、研究を推進する。 ○ 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業デザイン、ゴールの姿をイメージした単元全体を通した授業について、研究、実践を進める。 ○ 網野学園の課題の一つとして、家庭学習が十分定着できていないことがあげられる。確かな学力の育成を図るためにも、系統的に家庭学習に取り組み、保護者と連携しながら、定着と内容の充実をさせていくことが必要である。 低学年、中学年、高学年、中学校と期待される家庭学習の時間は増えていく。今年度のアンケート結果をみると、低学年から中学年へはスムーズに移行しているが、中学年から高学年、高学年から中学校に向けての移行で躓いている実態がみられる。

的に研究した。また日常的な電子会議を通して各校の状況・情報を共有しながら、組織力により各校課題の解決に取り組んだ。 △ 経営会議は、今後も、学園内の教育課題、各会議・部会等の動きを把握しながら、年間を通して課題を整理したり、新たな取組を提起したりして、的確な学園経営を行う。また、各会議・部会担当校長教頭は、経営会議に連絡報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進める。 △ 来年度も、各校授業研究の教科等については、各校で決定し、行動連携【しっかり考え学力をのばす「これだけは！」（授業編）】を基にしながら、研究を深める。 ※Ⅱ期の授業づくりに、より深く研究を進める。 【教職員アンケート】 ・「思考をくぐらせる」 肯定率60% ※昨年度72% ・「考えを交流する」 肯定率68% ※昨年度87% △ 幼稚園教育要領・保育指針が、平成30年度より実施。また学習指導要領は、小学校では令和2年度、中学校では、令和3年度より完全実施される。児童・生徒がどのように学ぶかに着目して学びの質を高めていく必要があるため、「確かな学力の育成」をする際の大きな柱として、「主体的・対話的で深い学び」の項目を設定した。次年度、Ⅱ期の授業づくりを中心に研究を深め、実践を積み上げる。 △ 島津小学校が、京都府小学校教育研究会外国語活動部会研究協力校（令和元年度発表）として、発表を行った。研究内容の成果を学園の授業研究に活かしていく。 △ 重点2部会（生徒指導部会・教育相談部会）は、学期2～4回、その他の部会（給食部・特別活動部・道徳部）年2・3回と分け、運営した。今後も、課題に応じ、会議の精選を図り、運営していく。 △ 園所小中間の連携、各会議・各部会の連携を小中一貫コーディネーターが行った。来年度も小中一貫コーディネーターが、各小中学校への訪問、各園所への訪問、各会議・部会への参加を行い、連携を図る。 △ 特別支援教育コーディネーターに係る会議等が必要な場合は、教育相談部・特別支援学級部等が柔らかな連携をする。	○ 行動連携『どの家庭でも、幼児から大切にする「これだけは！！」（家庭編）』の中の、規範意識の基礎の確立の中で、「テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める」を挙げている。しかし網野学園生徒指導部会のアンケート結果からも、大きな課題となっている。次年度も情報モラルについての出前授業（学習会）を、小学4年生、中学1年生等を対象に、網野中学校を会場として実施する。経営会議、運営会議が担当する。PTAとの連携も図る。 ○ 不登校等学校不適応の児童生徒が高止まりとなっている。10年間を見通して、家庭と連携し、一人一人の児童生徒が、学校の中に居場所を創ることができる力を身に付けていかなければならない。また、多様で複雑な不登校の要因や背景をできる限りの確に把握し、切れ目のない組織的な支援をしていかなければならない。重点的な取組内容の中にも豊かな人間性に位置付け、「自立的に生きる基礎の確立」に向けて、家庭と連携し系統的に取組を進める。 中学校入学前に、4小学校の児童が顔見知りであったり、名前を知っていたり、話したことがあったりすることは、中学校入学後の人間関係づくりの上で大切である。全学年において、それぞれの学校規模等状況に応じて、柔らかな小小連携を強めていく。 授業の中で「学びの楽しさ」を感じさせたり、「生徒指導の3機能」を意識した指導をしたりすることは、不登校等学校不適応の減少につながるので今後も引き続き推進する。 ○ 第2回全体研修会で立命館大学 野田正人 教授（京都府まなび・生活アドバイザー）の講義を令和元年度に続いて計画する。内容については、授業改善に係るもので設定する。
--	--

令和元年度 丹後学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

- | | |
|-------------------|-----|
| ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 | 【知】 |
| ②自分を大切にし、人を思いやれる子 | 【徳】 |
| ③ねばり強く身体をきたえる子 | 【体】 |

教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- | |
|---|
| ①研究主題を『子どものコミュニケーション能力を育成する。』～生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係～として、コミュニケーション活動を重視する中で、「主体的・対話的で、深い学び」となる授業改善、確かな学力の育成につなげる。 |
| ②保育所・こども園・学校間が連携して、就学前から中学校卒業までを通して適時性、一貫性・連続性のある教育課程を編成し、小中合同事業・保育園接続に係わる事業・小小連携合同事業と3つの事業の充実を目指す。特に、今年度は、保育園に関わる事業を重点に研究を進める。 |
| ③丹後学園の取組や事業等を積極的に発信することで保護者や地域の方の理解を一層深める。 |

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	①子どもの交流を図る行事等の実施を通して、「集団生活の中で人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高める。 ②重点教科を「算数・数学」とし、他教科の指導についても同様に主体的な学びに向けた実践を積む。 ③全体研修会、授業を通した研修会（3回）、学年部会を通した研修を計画的に実施し、目指す子ども像の実現、目指す教師像の意識化に努める。 ④月1回の計画的な経営会議（校園所長会議）を開催し、正確な実態把握に基づく方針を策定し、全教職員への情報提供を行う。 ⑤「学園だより」を発行して、取組の成果・課題の共有を図る。 ⑥組織的な会議運営を行い、教職員が自覚的に取組に参画できるようにする。 ⑦各会議や部会をそれぞれ学園内の各学校を会場にすることで、各校での取組の様子や児童生徒の状況を把握する一助とする。 ⑧丹後学園教育応援会との連携を強め、学園の教育推進に理解と協力をいただく。	○経営方針や計画に従って、学園経営を予定どおり進めることができた。学園内の教育課題の把握・整理を行い、経営方針のもと学園の重点（「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」「評価を見通した取組の充実」）を意識した経営につなげた。 ○運営会議・教育課程会議と学力充実部会・教育相談部会・生徒指導部会・保育園接続部会の4つの部会の実践について成果・課題を明確にし、今後の方向性を示し取組を進めることができた。 ○教育フォーラムにおいて「なかよし交流会」の授業を公開し、丹後学園の取組の概要と教育応援会の紹介、保育園接続部会の活動の報告を行い、高い評価を受けた。 ○学年部会で取り組む研究課題を引き続き設定したことにより、学年部会が充実し教材研究や指導方法の共通化等に取り組むことができた。さらに、目標と指導と評価の一体化を目指した授業研究をすることにより単元総括テストを作成することができた。《事務局会議（代表・庶務・学園コーディネーター）》 ○事務局会議を開催し、各部の取組状況や学園内の教育課題の把握・整理を行い、教育目標を実現するための調整・事務作業を行った。 ○学園経営方針に基づき、運営上の課題の検討や調整を行い、年度初・末全体研修会、夏季研修会を実施するための事前準備、事務作業等を進めた。 ○経営会議の内容について即日コーディネーターがまとめ、各校・園・所に発信した。 ○教育目標、目指す子ども像を学園単位で設定し、その実現に向けて一貫性のある教育活動を進め、実践を積み上げることができた。

		○各学校等で課題に応じた教育実践を行い、校種を超えて連携を図り、全ての学校等が中学校を卒業する姿を想定し、目指す子ども像を共有していく意識が高まった。 ○夏季全体研修等において全教職員が一堂に会して、子どもの実態や今後の適切指導や評価のあり方について協議し、目指す子ども像を明らかにすることができた。 ○夏季研修会において、非認知能力についての理論研修をすることで、丹後学園が大切にしている保育園の接続の重要性を確認することができた。 ●次年度さらに小中一貫教育を推進していくため、子どもの成長につながった具体的な指導方法の資料化や子ども像への到達についての検証が必要である。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	①就学前から中学校までの一貫した生徒指導、自己有用感を高める生徒指導を進め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ②指導方法の系統性や一貫性を重視するために、「目標と指導と評価の一体化」の観点から算数・数学を研究し、指導の方向を2小学校でそろえる。 ③総合的な学習の時間を活用した「丹後学」を教育課程に位置づけ、実践研究を進める。 ④学習指導・生徒指導を大きな柱として、10年間を見通した取組を展開する。 ⑤小1プロブレムを解消するための、保育所や子ども園と小学校との連携を進める。 ⑥中1ギャップ解消のため小学6年生と中学生との交流事業や体験学習等を推進する。	○丹後子ども園長、宇川保育所長を含め経営会議を実施し、連携を図ることで一貫した指導について取組を進めることができた。保育園の取組では、子どもたちの交流により小1プロブレムの解消につながったことや、接続プログラム・スタートカリキュラムを見直し改善を図り、実践したことにより円滑な接続となった。 ○年3回の学園授業研究会を行い、コミュニケーション能力の育成を目指し生徒指導の3機能（自己決定、自己存在感、共感的な人間関係）を生かした授業研究「国語」「社会」「数学」の授業の研究ができた。 ○「中学校授業体験、部活動体験」「小学校合同校外学習」「1年生と5歳児のなかよし交流」等、内容の充実を図りながら計画的に進めることができた。 ○「丹後学園生活のきまり」「にこちゃんのはっぴいでー（交通安全・挨拶）」の取組だけでなく、各校で積極的な生徒指導の取組を行う中で、コミュニケーション能力を高める機会につながった。 ○交流行事や合同行事等の日程について、年度当初に確定することでスムーズでより効果のあがるものにしていくことができた。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	①2小学校が集合して実施する事業と各校で共通して実施する事業を行う。 【2小学校合同事業】 ②教職員全体研修会・授業研究会を年間3回実施するとともに、保育園接続部会や期別部会・学年部会を開催して、それぞれの課題の改善や解決に向けた取組を実践する。 ③中学校1年生入学後1カ月ごろの状況及び出口となる中学3年生の授業公開を行い、多様な視点で課題共有すると同時に指導について研究協議を行う。（第Ⅱ期及び中3の公開授業）【小中合同事業】 ④教職員間…学年部会での授業研究会・統括テストの作成 保育園接続部会でのスタート研修会【保育園接続に係わる事業】 ⑤保育園の子ども…5歳児と小1年生との交流会（2回） 保育園の教職員…5歳児と小1担任の夏季研修会、テーマは「話す・聞く」	○自己有用感を高め、言語活動をとおして主体的な授業を推進するために小・中学校で「丹後学園学びの指導（指導の視点、学びの力）」をもとに、授業研究を行うことができた。 ○夏季研修会で新指導要領の実施を控え、改定のポイントや全面実施までの動き等の理解を深めた。また各部会の実践交流を通して教職員交流を図ることが進んできた。 ○合唱祭・部活動体験・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校生活への不安を解消する機会になった。 ○合同修学旅行、校外学習、合同避難訓練を通して小・中・幼の交流が深まり、コミュニケーション能力を高めたり、豊かな学習を創り上げたりすることができた。 ○各校種での教師の動きや指導を参観することで、互いに学び合うことができ系統的な学習の意義が再確認できた。 ●行事の精選、研修設定を工夫し、適切な時期に実践できるようにしていくことが必要である。

家庭、地域社会との連携、情報発信	①「丹後学園教育応援会」の機能化と充実を図る。(年間2回) ②「丹後学園だより等」を発行し、保護者や地域に配付することで、理解を得られるようにする。また、各校のホームページにて、取組の状況を発信するように計画する。 ③学校支援ボランティアの方々による支援をいただき、教育活動の内容充実に取り組む。	○学園だより・ホームページ・リーフレット等により、情報発信を行い広く学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○丹後学園教育目標をふまえ、丹後小中一貫校PTAとして共通の目標と活動方針を設定し、連携・協同した取組を行うことができた。(6月、11月の15日を一斉挨拶運動) ○学校と家庭、地域社会の横の連携を深めるために丹後学園教育応援会の会議を年度当初より開催し、小中一貫教育の支援、協力、理解を得ることができた。 ○学園評価計画に基づいて、アンケート等を取り、改善に生かすことができています。 ●小中一貫教育の成果をさらに広く発信し、地域住民へ学園の重点が浸透するように本年度の取組を継続していくことである。
------------------	---	--

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
今年度の成果 ①導入準備期間を含め5年間行ってきた実践を活かして、本実施4年目の丹後学園の経営がスムーズにできた。組織や会議について当初計画したことが、予定どおりに実施できた。 ②発足4年目となる小中一貫教育支援協議会(名称:丹後学園教育応援会)に様々な支援をいただいた。 ③小・中学校だけでなく、こども園・保育所も含めた取組を実践することができた。コミュニケーション力の育成を研究主題に掲げ、各保育園中のそれぞれの実態に合った研究が進んだ。保育所やこども園の園児の状況を学園として情報共有を行うことができ、保育園の接続に関する学園としての研修が進んだ。 ④小1プロブレムを解消するための、保育所やこども園の園児の状況を学園としての情報共有と交流を丁寧に行い、令和元年度の「教育フォーラム」において、「丹後学園」として、計画的に研究を深めてきた内容を研究発表・授業公開を行うことで、京丹後市に広く発信できた。 ⑤小学校間(校区2小学校)の学年ごとの合同学習、修学旅行等ができ、児童の交流が深まると同時に教員の指導方法等の交流も深めることができた。 ⑥小学校と中学校との教職員の意見交流及び合同研修を通して、相互理解をさらに深めることができた。さらに、実態に応じた指導方法の工夫・改善について、3回の授業研究会を通して研究協議を行い、前進させることができた。また、ゴールとなるめざす中学3年生の姿を共有することができた。 ⑦昨年に引き続き、算数・数学の指導を中心に研究を行うことで、目標と指導と評価の一体化を目指す授業づくりの研究の充実を図ることができた。 今年度の課題 ①学力向上に資するための「モデルカリキュラム」の活用をさらに進める。 ②総合的な学習の時間の学習内容に重複があるので、丹後学園としての総合的な学習の時間の系統立てた内容づくりが課題としてある。	○経営会議は、次年度も、学園内の教育課題、各会議や部会等の活動状況を把握しながら、恒常的に課題を整理や新たな取組を提起し、学園経営を行う。 ○各会議・部会担当校園所長は、経営会議に事前連絡、事後報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進めていく。 ○部会は、学力充実部、教育相談部、生徒指導部・保育園接続部の4部会とする。 ○教育課程会議兼学力充実部会については、教務主任が担当し、学力の調査・分析や学力・授業力向上を図る計画・実践に関わる進行管理、検証等を行う。 ○令和2年度京丹後市給食研究会と、令和2、3年度京都府給食研究会に向けて、学園の中に対応する特設組織をつくる。 ○令和元年度と同様に、重点的な取組内容として「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力」「評価を通じた取組の充実」を設定していく。 ○夏季研修については、運営部会が企画、計画、運営をする。 ○授業研究については、「主体的・対話的で、深い学びの授業づくり～生徒指導の三機能を生かして～」を研究主題として学園で研究を行う。 ○授業研究の推進役は教務主任であるので、授業研究は教育課程会議・学力充実部会が所管する。 ○小中全教職員が積極的な授業研究にかかわるためにも、視点を明確にした協議をしていくことである。 ○「コミュニケーション能力の育成」に関しては、生徒指導の三機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定)を生かした取組を充実させていく。特に、授業の中にも生徒指導の3機能を生かした実践を積み上げていく、積極的な生徒指導を行う。また、学校や地域社会の一員として集団の中で人とのかかわる機会を生かし、コミュニケーション能力を身につける。 ○生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、中学校卒業時に身に付けるべき良好な人間関係を構築できるよう実践を重ねていく。 ○学園評価について、令和2年度については、目標を立て、指導し、評価をしていき学園経営を実践していく。また、教育目標の達成に向けた取組の成果と課題をより明確にさせ、具体性のある改善策を検討していく。

令和元年度 弥栄学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、
たくましく生き抜く児童生徒の育成」

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの推進
 - ・授業実践力等の向上（他校種研修、授業研究会、全体研修会等を通じて）
- (2) 自尊感情の醸成を目指し、生徒指導の3機能を生かした実践の推進
 - ・異年齢の交流活動、自尊感情、自己有用感、上級生への憧憬
- (3) 教育活動全体を通して「思いやる心」の育成

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	1 自立の基盤をつくる (1) 学園として小中一貫教育の取組を計画的に進める。 (2) 学園内の教育課題、各会議、部会等の把握、指導助言する。(経営会議) 2 教職員の連携 (1) 教育目標、目指す子ども像等を共有し、重点課題及び取り組みの柱を定め、実践する。 (2) 学力の定着、コミュニケーション力、規範意識向上、教職員の資質向上をめざす。 3 信頼される学園づくり (1) 学校、園、家庭、地域社会が連携した「横の連携」を深め、教育目標の具現化を目指す。 (2) 弥栄学園支援協議会との連携と教育環境づくりに努める。	○ 昨年、整理した組織体制によって役割をより明確にして各部会の取組の評価を行い、進行管理に努めた。計画的に会議を設定し、課題を整理し学園経営を予定どおり進めることができた。経営方針のもと学園の重点（「主体的・対話的・深い学びの実現を目指した授業づくり」、その土台となる「生徒指導の3機能を生かした実践」）の大切さを公開授業や事後の研究協議し、日々の授業に生かしてきた。 ● 継続、廃止を年度内で検討し、園、各校の行事と重なることを回避し行事計画の策定をする必要がある。目指す子ども像を意識した指導について、校種を超えて協議する機会を計画し、検証する時期も取組後に設定するなど具体的な動きが迅速にできるようにしていく。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	1 学力向上、授業づくり (1) 幼小中の接続を意識 ・こども園参観、実態報告後研修 (2) 授業研究等 ・夏季研での中学校からの実践報告 ・公開授業後の研究協議（日々の授業に生かすポイント、課題の整理等） (3) 深い学びへ誘う授業展開 ・学習意欲を高める ・安心できる学習環境	○ 教育目標、目指す子ども像について、今年度も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んだ。授業公開や小・中学校の教科担当者から児童生徒の実状や具体的な指導方法について実践報告があり、今後の教科指導について深く考える機会となった。 ○ 夏季全体研修では「こども園」の子ども達の活動を参観し、幼児期における指導や支援について報告を受け、幼小中学校の10年間を見通して教育する

	2 教育活動全体を通じた「思いやる心」の育成 (1) 子どもの実態を把握し、適切な指導について研究協議を行う。 ・合同研究会 ・公開授業 ・状況交流 (2) 交流活動の活性化を図る。 ・合同授業 ・児童と生徒の意見交流等 ・部活体験 (3) 生徒の3機能を生かした実践を推進する。 ・自尊感情、自信と責任 ・上級生への憧憬等を実感させる。	重要性を実感できた。(園児から児童、児童から生徒へ発達する過程を踏まえて、指導を展開していく) ● 今後の指導において、深い学びへ導く授業をめざすために、自力解決するために熟考したり、仲間と共にじっくりと協議したりすることが求められる。そのためにも日々の授業で考える活動の場を提供することや評価材料として複数回の思考を繰り返しながら解答を導き出す問題の設定を準備していくことが要る。言外の意味を汲み取る十分な読解力をつけることが迫られる。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	1 子どもの活動 (1) 幼・小 (2) 小・小 (3) 小・中 ・体験入学、合同授業、部活体験 - 児童会・生徒会交流 2 教職員 (1) 小中合同授業研 (2) 出前授業(中から小へ) (3) 夏季全体研修会 (中学校の授業実践報告等)	○ 英語を活用した合同授業では小学生の活躍の場が少なかったものの中学生の自己有用感や中学生の姿に憧憬の気持ちを持つ機会になった。 ○ 部活動体験については、小中ともに意義のあるものとなった。関心を寄せる小学生は多くいた。 ● 各校ともに学校行事等の取組と並行して準備していくこともあり、形ばかりを取り繕うことになった感もあるため、発展的解消として英断していくことが要る。 ● アンケート結果等をもとに進めるべき取組については、時期とねらい、円滑な運営となるよう計画的に行うことである。
家庭、地域社会との連携、情報発信	1 連携を図る (1) PTA、地域ボランティアの協力 ・登校時のあいさつ、交通安全指導 ・マラソン大会時の交通安全 ・学校行事参観 (2) 情報発信 ・リーフレット作成 ・たより、HPによる行事等紹介	○ 行事の事前連絡や行事後、速やかに活動内容を整理し、学園ニュース(教職員向け)、小中一貫教育だより(保護者、地域向け)、学園ホームページにより情報発信を定期的に行った。また年度初めにはリーフレットを活用し、広く発信ができた。 ○ 弥栄学園教育目標を弥栄小中一貫校PTAの共通した目標と設定し、連携・協同した取組を行うことができた。(学園P家庭教育委員会 音楽を通した親子のふれあい、交通安全、挨拶運動) ○ 校外でのマラソン大会時の交通安全指導は、地域の、支援協議会、PTAの方々に協力が得られた。(情報発信、協力依頼等) ● 小中一貫教育の手法を用いた学園としての教育活動について、理解や成果を今後も定期的に発信し、地域住民へ教育目標がより浸透していくことである。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
○経営会議 年間を通して、運営会議、教育課程会議、3つの部会の取組の成果を束ね、教育実践の方向性や到達点を明らかにし進めた。 ○月1回のペースで定期的に会議を設定し計画の進捗状況や園・各校の状況も交流しながら計画を進めることができた。 ＊肯定的評価、課題（アンケートから） ・授業に関して・・・話し合い活動を積極的に取り入れることが増えた。 ・安定した学園・学級経営が、児童生徒の落ち着いた生活を担保している。 ・自己肯定感は、小学校、中学校とも全国平均より低い結果となった。 ＊体験授業を受けて、児童の授業や勉強への不安は少し和らぎ、中学校への入学を楽しみする児童が昨年より増えた。 ＊弥栄学園の取組はよいことだと8割を超える肯定的な回答があったが、地域の特徴を生かした小中一貫教育については、わかりづらいとする地域、保護者からの回答があった。 ＊教員の主体的な事前準備や協力により子どもの活発な活動を見ることができた。さらに効果的な取り組みになると成果が期待できる。	1 次年度の京丹後市小中一貫教育授業研をととして、小・中学校での授業づくりに力点を置き第Ⅱ期、Ⅲ期の充実をめざした研究を深める。 ・幼小中学校10年間を見通した指導展開をしている。（園から小、小から中への発達過程を踏まえて、系統的な計画を意識して進める。） ・教育活動全体を通して「思いやる心」を育成し、人権風土に包まれた安心安全な教育環境づくりに全力を尽くす。 ・他者の意見を尊重し、自分の意見を持ち、発信する力をつける。 2 交流・連携活動により体験活動を活性化する。 ・園と小、小と小、小と中との活動により、自信と責任、自己有用感を身につける機会とする。 3 学園の教育目標の具現化を図るために、機能的な動きに加え、効率よく取組の運営ができるように組織を整理する。 ・教育課程会議と学力充実部会は、今年の実績に沿った教育課程を中心に行う部と学力・授業研究を行う部にすみわけをしてそれぞれの活動を充実させる。 ・園、小接続部会の担当は、こども園園長が代表となり、教育課程会議担当校長が代表とともに取組充実を図る。 ・特別支援学級部会は、学年会の一つとして位置付ける。

令和元年度 久美浜学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

[教育目標] 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成」 [目指す子ども像] (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 中期的な展望(取組の見通し)

年度	教職員の意識	学力	ギャップ (不登校)
28年度 (1年次)	各校の取組の共通点をベースに取り組む	共通項をもとにした取組	保幼小の接続・各校の取組交流
29年度 (2年次)	学園中心の事業の展開・10年間のカリキュラム (必要な教科) 検討	授業についての論議・これだけはの推進	児童生徒の情報共有・指導の継続性
30年度 (3年次)	中3卒業までに付けたい力と指導についての教職員による論議	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の在り方確認
1年度 (4年次)	指導の充実期・新学習指導要領と新教科書への対応 (小)	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の系統性確認
2年度 (5年次)	久美浜学園保幼小中一貫教育の継続した取組の整理とまとめ・新学習指導要領と新教科書への対応 (中)	授業スタイルの充実	情報共有・学園としての指導の継続

(2) 重点目標

「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

(3) 指導の重点

『学力向上』①基礎・基本の徹底 ②言語活動の充実 ③家庭学習時間の確保

(4) 取組の柱

ア	10年間(就学前から中学校卒業まで)の幼児児童生徒の成長発達に全教職員で責任をもつという意識の向上
	(ア)久美浜学園全教職員がチームとして、みんなでやるという協働意識を醸成する。
	(イ)目指す授業として、次期学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識する。その上で、学園テーマとして、「言語活動の充実」を設定し、すべての教職員で幼児児童生徒が自らの考えを深めるための教育活動を志向する。
イ	各校園所における規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校(園)づくり、授業づくり
	(ア)生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした「わかる授業」により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育てる。
	(イ)基礎・基本を徹底し、基盤となる力を十分付けきる。
	(ウ)系統的な「話し合い活動」の指導とスキルの向上を目指した取組を進める。
ウ	子どもの交流行事並びに教科指導交流の推進による行動連携強化
	(ア)共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける保幼小、小小、小中における交流行事
	(イ)豊かな教科指導を目指す指導交流(保幼小連携、小小連携、小中連携)
エ	保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組を進める。
	(ア)PTA、学校地域連携推進協議会、地域本部事業との連携
	(イ)家庭学習時間の確保に向けた連携

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 経営会議を中心に組織的且つ丁寧に、実態や課題、目標、方針等の共通認識を図り、久美浜学園としての共通確認・共有を図る。 ア 年度当初の学園全体会での提起と全体研修会での全教職員による学びを通して、共有を進める。 イ 年3回の公開授業と交流会で、教職員同士の「理解と対話」の充実を図る。 (2) 保幼・小・中で共通指導内容を確認し、PDCAで改善を図りながら共通理解を深める。	○久美浜学園7校園が一つの目標に向かって取り組むことができ、また意識としてもさらに共通理解が進み、小中一貫教育を手段として取り組む素地が整ってきた。今後も「理解と対話」を進め、その上で具体的に取組を進める。 ○テーマや子ども像を受けた様々な取組の中で、教職員が交流し、相互理解が一步步進んでいることが大きい。今後も丁寧に進めていく。 ○共通指導事項を確認し、指導を継続していく。今後も、常に目標やめあてを振り返りながら進めていく。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 子どもの育ちと指導の一貫性を目指した教育課程編成 ア 考えを深め、コミュニケーション能力を高める学習の推進 イ 郷土への愛着と誇りをもち、人となつながら力を育てる学習の推進 ウ 保幼小の接続を中心とした教育課程編成 (2) 重点指導 ア 学力向上 (ア) 授業規律の確立 (イ) 基礎学力の定着と活用力を育てる授業づくり イ 不登校の解消 (ア) 規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (イ) 学級活動の充実と児童会・生徒会活動等自主活動の活性化 (ウ) 自尊感情の高揚 (エ) 保幼・小・中の連携強化 ウ 今日的課題(情報機器の安全な取り扱い) (ア) 「法やルールに関する教育」の推進 (イ) 人権教育の推進	○学園テーマ「言語活動の充実」を各校で追求するとともに、全体交流会のテーマに設定し、中3卒業時の姿について一歩ずつ共有できてきた。また、その成果として『10年間を見通した言語能力表』を作成し活用できた。深い学びについての理解や各校種での目指す姿について協議できた。 ○学園独自で作成したアプローチプログラム、小1スタートカリキュラムの実施状況を検証し、よりよいプログラム等になるように改善した。 ○久美浜学園「授業心得」や小中共通指導事項を継続して取り組んだ。 ○4教科の「これだけは」は小学校でつける力として意識できた。6年生の春休みの課題を見直すことができた。 ○ICTを活用した授業づくりについて、どの場面で、どのように使うのか各校で研究を進めた。今後は授業スタイルの中にICTを組み入れ、より効果的な活用についての研究を深める。 ○PTA・保護者を巻き込んだ久美浜学園共通の「家庭学習がんばり週間」の取組を進めることで、学習習慣の定着を進めた。また、メディア・コントロールを学園全体で進めた。特に小中では、教育課程会議から家庭学習時間の確保、養護部会では保健指導を行いメディア・コントロールについて取り組めた。 ○教育相談部を毎月開催し、情報の交流と指導方法の連携を進めた。 ○学校生活の充実感を味わわせることや基本的な生活習慣の確立を各校で図ることで、不登校の解消に取り組んでいる。 ○情報機器の望ましい活用(情報モラル)のための特別講演会を小4、全中学生、保護者対象に実施し、学ぶことができた。

幼 児 児 童 生 徒、教職員の 交流と協働	(1) 全体会、全体研修会、学校園公開授業 と分散会、学力・授業づくり部会、生 徒指導・不登校防止部会、学年部会を 中心とした教職員の交流と協働 ア 中学校卒業時の生徒の姿を常に意 識した協議 イ 児童生徒の実態交流に基づく具体 的な取組の推進 ウ 「言語活動の充実」の系統性を意識 した指導を目指す授業研究 (2) 学校、校種間をまたがった指導の推進 ア 小小連携、小中連携、専科教育、出 前授業等、人的交流をもとにした協 働 イ 振り返りスタディ等指導面での協 働 (3) 幼児児童生徒の行動連携 ア 保幼の連携 イ 保幼小の連携 ウ 小小連携 エ 小中連携	○全体会・公開授業、交流会等の教職員の行動連携に つながる取組では、学びが深まったとか、いろいろ な意見が得られ自分の取組に活かしたという肯定的 な意見が多い。実際に子どもの姿を見ることで、保 幼小中の指導の連続性を図っていく。 ○一方で、行動連携の内容としてもっと具体的な教科 や内容にすべしという意見もある。 ○教職員の行動連携においても、交流の継続の大切さ と同時に、資料の相互提供など工夫ができる。 ○子どもたちの行動連携事業についても、どの取組に も価値を見出し、そのことを活用して日々の指導に 活かすなど、単に事業として終わるだけではなく、 そこから広げて学びの機会になっている。それぞ れの交流事業の良さを感じている。 ○特に小小連携事業の内容や時期については再検討を 望む意見がある。 ○ねらいは中学校での出会いのための「仲間を知る」 ということにしぼり、負担の無いように進めていく。
家庭、地域社 会との連携、 情報発信	(1) 久美浜学園小中一貫教育に係る目標、 活動等の広報及び啓発 ア たよりの発行(学期1～2回程度)、 有線放送による取組紹介 イ リーフレットの作成(4月保護者参 観等で配布、説明) ウ ホームページによる広報活動(久美 浜学園のページ作成) (2) 基本的生活習慣の確立に向けた共通 指導の確認と指導の推進 (3) 学校地域連携推進協議会の取組を通 した「久美浜を支える人」の協議 (4) 地域学校協働本部事業の積極的な活 用等による久美浜町民の学校教育活 動への参加と積極的支援 (5) 久美浜学園PTA・保護者会との連携 による家庭教育支援	○小中一貫コーディネーターの活動により、様々な取 組をいろいろな機会を通じて広報できた。その結果、 保護者アンケートによると、学園の取組に対する肯 定的な意見が年々増えてきており、また、分からな いという意見が減ってきている。旧小学校ごとの6 つの地区の区長会等に校長、コーディネーターが参 加し発信する場を設けた。 ○学校地域連携推進協議会では、学園の取り組みを紹 介し、支援を求めるだけでなく、設立当初より「久 美浜を支える人づくり」について各団体との協議を 進めることができた。次年度からの学園運営協議会 に移行に向けて準備ができた。 ○多くのボランティアの皆さんの協力を得て、学園内 各校園所の活動が広がっている。 ○保育所園・こども園も一緒になった久美浜学園独自 のPTA・保護者会が設立され2年目となり、一緒 に取り組むことで、より多くの家庭との連携が進め られた。「あいさつ運動」「家庭学習がんばり週間」 「スマホ講演会」等10年間を見通した取組に一步 ずつつながってきている。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
○テーマ「対話と理解」が授業公開と交流会各部の取組等を通して一層進んできた。交流会で「みんながわかる授業づくり」について話し合い、小中一貫の意識化につながった。 ○幼児教育・保育における取組について学べ、幼児から小学校への接続やその意義について理解が深まってきた。 ○各会議、各部のミッションをより明確にしたことで、限りのある部会ですることが明確になった。また、経営会議の方針のもと企画運営会議が運営し、教育課程に関しても一致して進めるシステムがさらに機能してきた。 ○10月の公開授業の際、全体会でタブレットの操作方法、活用法についての講習を受けた。試行錯誤しながら、どのような活用が効果的かを各校で研究できた。 ○小中連携事業のほか、小小連携事業や園・所の連携事業も確実に実施でき、将来につながる取組にできた。 ○コーディネーターの活躍により、広報・会議のまとめ・幼小中のつながりが確実に進んだ。 ○4PTAと3保育所園・こども園の保護者会も一緒に活動でき、学園PTAの基盤が確かなものになった。 ○学校地域連携協議会で「久美浜を支える人」についての話し合いがより進められた。 △久美浜学園の児童生徒の現状として、後ろ向きの雰囲気流されてしまうところがある。前向きに継続していく力をつける必要がある。 △連携部会の取組は回数に限られている中で、ミッションを成果が見えるところまで高めることが難しい。また、事務局のコーディネートがますます多くなっている。 △学校授業公開と交流会の成果は非常に大きなものであった。授業研究に踏み込むため、各校の重点研究をベースに担任会での学び合える機会を設定したが、日程的にも難しく活かせなかった。	・令和2年度（5年次）を深化の年ととらえ、成果の検証を行う。これまで積み上げてきた保幼小中教員の「対話と理解」をベースに、次の段階にステップアップしていく。市小中一貫教育推進計画の更なる共通理解を図り、更に学校園所公開や交流会を引き続き進める中で指導方法等の継続性について論議していく。具体的には、テーマを「主体的に学ぶ力の伸長」と設定し取り組んでいく ・児童生徒の生徒指導上の課題や不登校の課題について、肯定的評価を基盤に学園の教職員の指導観を見つめ共通化していく。 ・ICTの活用方法を整理し、学習効果の上がるICTの活用法について研究を深める。 ・指導方法の具体的な継続性を図るため、保幼小のアプローチ・プログラムやスタート・カリキュラムのほか、小中間の教育課程上の様々なギャップの解消に取り組む。 ・授業研究に踏み込むため、各学校の重点研究をベースに担任会での学び合いを進めるため、研究授業に参加しやすくするための日程調整、授業に関する資料の配付等を行う。 ・運営面ではこれまで進めてきた部会・会議や事業が一定落ち着いてきたことを受けて、より精選していく。 ・学園運営協議会発足に向けて、規則等を確認しながら進める。

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら創造的に生きることができる。 1 将来に生きたる高い学力を育てる。 2 ものごとの価値、生き方・在り方を深く考える。 3 自律的に行動する力を育てる。社会に貢献しようとする態度を育てる。	重点目標	○児童相互の学び合いを大切にしたい授業づくりが進展し、児童の学習意欲や主体的な学習態度、家庭学習習慣などが一層向上した。 ○児童相互の共感的な人間関係が深まり、学校不適応、問題行動や不登校(傾向)の減少・改善につながった。 △児童が主体的・対話的に深く学び合う指導を教育課程全体で一層進め、質の高い学力と自立・自律の力を確かなものにする。	人とつながり、かかわり合いながら、将来の社会的な自立を目指して力を付ける学校づくりを行う。 ①学び合う力をつける。(将来に生きて働く学力) ②学び合う力をつける。(豊かな生き方・在り方) そのために、 ①学び合いによる学習を充実する。 ②問題解決の力を付ける特別活動を充実する。 ③その子らしさを伸ばし合う児童支援を充実する。
	評価項目	具 体 的 方 策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	○学び合いによる学習を通して、学ぶ意欲と学ぶ力を高め、 ○教科指導を通して、将来の自立に生きて働く知識・技能・思考力、自律的に判断し行動する力、他者と協働する力を高める。	①児童相互のかかわり合いの中で学ばせる。話し合い、伝え合い、聴き合い等を通じた教科指導に改善する。 ②ペアワークなど、協働して学ぶための方法(学び方)を指導する。 ③電子黒板やタブレット端末等のICT機器を効果的に活用する。 ④峰山学園共通方針の下、生活習慣の自立と運動させ、主体的に家庭学習に取り組むための系統的指導を行う。 ⑤学習する動機を太らせるため、校区の環境・社会・人材や地元企業・高校、大学を積極的に活用する。	○児童への意識調査では、95%が「相談したり話し合ったりすると学習がよく分かる」と回答しており、結果として「授業は分かりやすい」と思う児童が95%となるなど、授業改善の効果が上がった。学力診断から見える学力も良好な結果となった。 ○電子黒板がほぼ毎日活用され、授業改善が進んだ。 ○宿題を毎日すると回答した児童は95%以上で、家庭学習の量や時間等を自ら調整・計画できる児童が増加した。 ○ボランティア多数、企業経営者等10社・10名以上、高等学校等連携・出前10講座以上など、多数の人材を活用し、学習動機を太らせるキャリア教育が進展した。 △新学習指導要領の理念の一層の浸透を図る。
生徒指導	○育ち合う力をはぐくむ指導を通して、将来の自立につながる共感的な人間関係を一層醸成する。 ○組織的な児童支援を通して、学校不適応やいじめを未然防止する。	①従来の行事・取組を見直し、将来の社会的な自立を目指した目的・内容・方法に改善する。 ②自ら決定し、話し合い、問題を解決し、成長に気付き合う自律的・自治的で問題解決的な特別活動をつくる。 ③教育活動全体を通して、多様性を認め合い、インクルーシブ環境で育ち合う指導を行う。 ④児童支援に係る分掌活動、支援会議、ケース会議等の質・量を高め、計画的・組織的な児童支援を進める。 ⑤スクールカウンセラーや関係機関、医療、福祉等との情報連携・行動連携を一層進める。	○多くの行事・取組を、児童主体の問題解決型に改善した。結果として、意識調査にトラブルを話し合いで解決すると回答した児童は97%、困っている人のために自分の力を使うとする児童は96%となった。 ○インクルーシブ環境での育ち合いを重視し、継続的ないじめは0件、特定児童への差別的・排他的言動もななく、学校で楽しいことがある児童は97%など、良好な社会的関係構築できる児童が増えた。 ○年間を通して多様な関係機関との連携を継続し、不適応や発達課題を改善できた児童が多数にのぼった。 △不登校(傾向)児童・家庭への支援、愛着形成等の心理的課題、発達障害等への支援を一層進める必要がある。

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体 育）・安全	○楽しく運動する意欲と習慣を育てる。 ○望ましい自立につながる基本的な生活習慣を確立させる。 ○児童の命と安全を守る。特に交通事故防止を徹底する。	①取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなどの体力づくりに取り組む。 ②基本的な生活習慣を確立するために、児童が自ら生活を点検・改善する取組を行う。 ③家庭やPTAと連携し、SNS・ゲーム等による生活の乱れや安全上の問題に対して、児童・保護者の研修・啓発・実践を進める。 ④PTAや地域の安全ボランティア組織等と連携し、登下校の安全確保と事故防止の取組を行う。	○自分の健康に目を向ける児童が増え、インフルエンザ流行期にも学級閉鎖を行う必要がなかった。 ○非行防止教室やPTAスマホ・ケータイ安全教室など、安全や生活習慣等に対する取組が昨年度より進んだ。 ○PTAや安全ボランティア組織による登校等の見守りとパトロールが毎日実施され、交通事故は0件であった。 △家庭で関わってもらっていると感じている児童はまだ85%以下に留まっており、家庭と連携した基本的な生活習慣確立等への取組を一層進める必要がある。
特別支援教 育	○将来の社会参加に向けた自立を支援するという立場に立ち、すべての児童が学校・学級とつながって育ち合い、その子らしさを伸ばし合えるようにする。	①苦手や特質・特性を修正するのではなく、その子らしさ、その子の得意を伸ばす支援に転換する。 ②どの児童もわかりやすい一斉指導や、どの児童も参加できる集団活動を基本にして、授業や行事を設計する。 ③個別指導に終始せず、育ち合いの視点から、友達の困りに気付いて動ける個と集団を育てる指導を進める。 ④保護者と定期的な懇談の場をもち、児童の将来についての願いを共有し合意形成を図りながら、一人一人に応じた合理的配慮を実現する。	○児童意識調査では、先生は自分の良さを分かっている94%、気軽に相談できる先生がいる98%となった。 ○全ての児童が参加できるよう行事を見直し、個別の環境調整を当たり前として取り組んだ結果、運動や集団活動が苦手な児童も全ての行事に参加できた。 ○困っている人に力を使うとする児童は96%（再掲）など、様々な場面で他者に気付き自ら判断して動くようになる児童が増えた。 ○児童の将来を共有した保護者懇談を重ね、特別支援教育・特別支援学級等への理解や入級希望が高まった。 △児童に対する気付きを即座に共有し、指導や環境調整につなげる態勢を一層強化する。
研修（資質 向上の取 組）	○授業研究等の実践的な校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。	①「つながりの中で学び合う力が豊かに育つ授業づくり」をテーマとした研究を設定して重点的な研修を行う。 ②授業づくり月間（毎学期1回、年間3回）を設定し、すべての教員がオープン授業等によるスキルアップに取り組む。 ③他校に対して積極的な授業公開や実践成果の発信を行う。	○教職員意識調査では、職能を積極的に伸ばせる学校であると94%が回答するなど、研修が充実した。 ○全ての担任が年間複数回の授業を公開し、授業を見合う具体的な研修を行ったことで、授業改善が加速した。 ○峰山学園での複数学年の授業公開、他校の視察受け入れ、府内研究会への実践報告等、多数の発信ができた。 △特別支援教育、児童心理の研修を充実する。
次年度に向けた 改善の方向性	○新学習指導要領の理念を全ての教育活動に浸透させるために、授業・特別活動・取組等の特長、学び合いによる学習、児童が自ら問題解決に取り組む活動、多様性を認め合う取組を一層充実する。 ○不登校（傾向）児童・家庭、愛着形成等の心理的課題、発達障害等に関する教職員研修を充実し、具体的支援を一層進める。 ○児童に対する気付きを即座に共有し、指導や環境調整につなげる態勢を一層強化する。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立いさなご小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども	重点目標 1 ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。 2 家庭学習や個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。 3 知識・技能を用いて活用する力を育成する授業づくりを進める。	具体的方策 1 算数を研究の柱とし、規律があり、ねらいが明確で児童がわかる授業を研究授業等によって教員が学び合う。 深い学びになる「指導」と「評価」の研究をとおして確かな学力の育成を目指す。 2 発達年齢に応じた家庭学習の指導を進め、個に応じた指導を充実させる。 3 身に付けた知識・技能を用いて考える、言葉で表現する力を育成し、振り返りなどを通して学習意欲を高める指導を行う。	成果と課題（自己評価） ○1時間1時間ねらいを明確にした授業づくりを進めることができた。 ○峰山学園の家庭学習の習慣化を図る取組において、自らが開始する時刻、内容、時間を計画して行った。 ○主体的、対話的で深い学びの児童の姿をイメージして研究授業を行うことができた。児童アンケートによると授業が分かると回答した児童の割合が増加した。	目指す子ども像を具体化する重点 1 自ら考え、判断し、表現する力を向上させる。 2 自ら正しく判断し、行動し、感謝の気持ちを持てる。 3 自ら根気強く、頑張る力を育てる。 4 保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。
教育課程 学習指導				
生徒指導	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 2 規範意識を身に付けさせ、いじめを許さない心を育て、行動できようにする。また、発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。 3 良さを認め合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。	1 特別支援教育部、教育相談部を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、連携した指導を進める。 2 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他への思いやり」についての指導を重視する。 3 教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的に伝えることで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。	○要支援児童について共通理解を図り、組織的に支援をすることができた。 ○指導の基本に規範意識の高揚と他を思いやる心を位置付けて指導を積み上げてきた。 △児童アンケートによるルールを守って生活することに課題が見られた。3学期重点的に指導を行い、集合の仕方など改善が見られた。 △肯定的な評価活動を大切にして教育活動を進めてきた。今後も継続して評価活動を進める。	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	1 全般的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにもねばり強く挑戦していきこうとする態度を育成する。	1 体育部、健康安全部等が中心となり、期間を決め、集中的に朝マラソンや朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、体力（特に持久力）向上と粘り強く頑張ろうとする意欲を高める。 2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階にに応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。	○体育の授業、また、朝マラソンなど、期間を決めて持久走の取組を行うことができた。児童も一生懸命に取り組みることができた。 ○当番活動、係活動、委員会活動など日常の活動を大切にして指導を行ってきた。発達年齢に応じて、粘り強く取り組む姿勢が見られた。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信による積極的な学校公開を進める。 2 信頼される学校経営を行いPTA、地域の関係機関、子ども園・中学校等との取組により連携を進める。	1 学校だよりや学級通信、HP等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も紹介したりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 無理のないPTA活動を通して積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。 3 学校として目指す授業、学校行事等に対する保護者、地域の方々の意見、思いをくみ取り、改善に役立てる。	○定期的に学校だよりを発行し、また、ホームページも定期的に更新し、情報公開を行った。 ○授業参観、行事参観を実施して本校の教育を広く紹介する場をもった。 △保護者アンケートなどから本校の教育に対して肯定的な意見をいただいている。その内容を今後も学校教育の改善に役立てていく。
研修（資質向上）	1 職員の指導力向上に向けた研修を行い積極的に進める。 2 峰山学園が目指す10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。	1 峰山学園研修会、校内の授業研修会等とおして、職員の指導力向上に向けた研修を行う。 2 峰山学園の目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組のあり方（Ⅰ期、Ⅱ期における指導の在り方）について研修を進める。	○峰山学園研修会、校内で算数科における「深い学び」の指導のあり方について研究を進めることができた。 ○小中一貫教育の各期の児童の姿を意識した指導を進めることができた。
次年度に向けた改善の方向性	本年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指す指導の在り方について研究を進めてきた。深い学びの具体的な姿を全教員で確認することには不十分さがあるが、今後さらに新学習指導要領で目指す学力について研究を深めていく。「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け教育を進める。また、小中一貫教育の各期の児童の姿をイメージして指導をするようにしていく。	本年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指す指導の在り方について研究を進めてきた。深い学びの具体的な姿を全教員で確認することには不十分さがあるが、今後さらに新学習指導要領で目指す学力について研究を深めていく。「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け教育を進める。また、小中一貫教育の各期の児童の姿をイメージして指導をするようにしていく。	

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立しんざん小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】	評価項目	重点目標	成果と課題 (自己評価)	
	教育課程 学習指導	1 児童実態を的確に把握し学習力向上に向けた組織的な研究を行う。 2 新学習指導要領の主旨を理解し、本格実施に向けた準備を組織的に行う。 3 豊かな人間関係を構築し、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。	〇新たな学校作りを機に生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業作りを努め、安心して学べる学校を築いた。 〇社会的なルールやマナーを意識させ「当たり前のことが当たり前にできる」規範意識の醸成に向けた取組を教職員が一体となって進めることができた。 〇家庭背景に配慮が必要な児童や発達課題を有する児童への教育相談、対応を組織的に行うことができた。 △基礎的な学力の定着には課題が見られる。学力の向上を目指し、取組を進める必要がある。	
生徒指導		1 生徒指導の3機能を生かした授業作り、学級経営を行う事で、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、豊かな人間関係を築く力を育む。 2 いじめ事象、不登校傾向児童、問題事象等の早期発見・未然防止に努める。	〇どの学級においても生徒指導の3機能を生かした学級経営を心がけ、落ち着いた状況が生まれ出した。 〇朝会等で常に「何のための取組か」「どんな力を高めたいのか」を意識できるよう話をした。各学級でも児童に意識化させ、目的意識をもって自分の力を高めようと努力する児童が増えた。 △家庭背景等から学校を欠席しがちな児童があり、保護者への働きかけや教育相談等を行うことで後半改善したケースがある。継続的・組織的な支援が必要である。	

健康(体育)・安全	1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体力作り、スポーツに親しむ能力や態度を育成する。 2 家庭・地域との連携を図り安心安全な登下校を目指す。 3 基礎的な生活習慣の確立を目指す。	1 朝マラソン、朝縄跳び、日々の体育等を通して基礎体力の向上を図る。委員会の取組を活用し「ギネスに挑戦」させ、スポーツに関する興味関心を育む。 2 発達段階に応じて薬物乱用教室、非行防止教室、SNSに関わる教室に取り組み。保護者への啓発を行う。 3 安全ボラレンティアと連携し見守り活動を充実させる。 4 「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した「生き生き頑張る週間」を設定し生活習慣を確立する。 5 栄養教諭による「食」に関する講話を給食試食会の際に設定し、家庭の意識化を図る。	○朝マラソンに積極的に取り組み、苦手を克服してきて児童があり、マラソン大会に繋げることができた。冬場の朝縄跳びに関しても全校的な高まりのもとに、高度な技を低学年が克服し跳べている。 ○薬物乱用防止教室、非行防止教室を計画的に実施できた。SNS使用に関わっては学級懇談会でも学校から話題提起を行い保護者の意識喚起を行った。 △生活習慣の確立において「早寝、早起き、排便」において課題が残った。迫り切れない家庭の実態もあり、児童の意識の持たせ方にも課題が残った。
特別支援教育	1 障害への理解、多様性を認め合い、好ましい人間関係を築く。 2 発達障害等の特性に応じた個別の支援のあり方を組織的に検討する。 3 自閉・情緒学級新設に伴い、特別支援教育の視点を全教育課程に反映させる。	1 発達障害等を含む個別の支援が必要な児童に対して合理的配慮をはじめとする支援の方策を他機関と連携しより効果的な支援を目指し検討、改善を加えていく。 2 保護者との定期的な懇談のもとに親の願いを反映させた支援計画を作成し、児童の発達を促す。 3 様々な障害に対する理解教育を進める。見える障害、見えない障害等、様々な視点から理解教育を進める。 4 特別支援学級児童や学級に対する理解教育を機会ある毎に関連させて行う。	○特別支援学級が2クラスになったこともあり全校への児童理解や通常の学級児童との交流(交流給食、どんと焼き、学習発表会への援助出演、等)や発信を大事にすることで自然な形で理解が深まった。 ○巡回相談を活用したり障害に関わる研修会を行ったりする中で効果的な支援の方策を検討し、児童の発達を促す指導に努めることができた。 △児童の発達の状況に合わせた特別支援学級だからこそできる支援や指導のあり方をさらに追及していく。
研修(資質向上の取組)	1 小中一貫教育「峰山学園」指導の重点を教職員が共通理解し、確かな学力を育む校内研修を実施する。 2 初任者研修を活用し、教師の指導力向上を目指す。 3 教師力の向上に向けた研修や教師の学び合いを重視し教師としての資質能力の向上を図る。	1 峰山学園が目指す「確かな学力」の育成に向けての共通理解を図った上で、重点研究を進める。 2 児童実態に基づき、確かな学力育成に向け、何をどのような方法で育むのか、その取組内容の視点を明確に持ち組織的に研究を推進する。(学年の基礎学力定着に向けた数値目標の設定、学力充実の取組び合いの場になるよう、事前に運営委員会、企画委員会を通して目的を明確化した研修会を実施していく。研修会を企画運営させることで各主任の力量アップを図る。	○確かな学力の育成に向け、重点教科を国語科とし、「読む」力に焦点を当てた研究を行った。形成テスト、単元総括テストを自作し、指導と評価の一体化を目指した。「読む」力を伸ばすことができた。 ○新学習指導要領本格実施に向けた校内研修会を行った。移行に対しての準備を計画的に進め教職員の理解を図った。 △前半期は計画的な運営委員会、企画委員会を遂行できなかった。後半はタイムなスケジュールのもとに実施したが、年間を見通した運営が必要であった。
次年度に向けた改善の方向性	・特別支援学校適と判断された児童が入学していただくために個別のニーズに合った支援を行っていくために特別支援教育、理解教育をさらに進めていく必要がある。 ・「チームしんさん」の組織的・協働的な取組をした学校運営を行い、地域・保護者から信頼される学校作りを進める。 ・新学習指導要領の趣旨に基づく教育の充実、教職員の力量アップを図る研修会を充実させていく。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立長岡小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。 (目指す子ども像) ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども	重点目標 ○質の高い学力の育成 (1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業の推進 (2) 目標と指導と評価の一体化の推進 ○コミュニケーション能力の育成 (3) 言葉の力の育成(対話的学び、ノート指導、トークタイム) ○基礎的・基本的な知識・技能の習得 (4) 全校でドリル活用 (5) 峰山学園家庭学習が伸びる週間を活用 (6) 放課後・長期休業の補習	○研究発表会を目標に、生徒指導の3機能とユニバーサルデザインの視点を意識した授業づくりを取り組み、目標と指導と評価を一体化した授業づくりを工夫することができた。 ○特別支援コーディネーターを中心に、児童支援のあり方について検討し、家庭との共通理解を図ることができた。 △長岡トークタイム、ペア学習、授業の振り返り活動等、児童に表現する機会を多く設定したが、さらに主体的に表現する力を付けていく必要がある。	笑顔あふれる学校づくり「なががおか大作戦」 な何ごとも最後までやりぬこう。ががまん強くつなろう。 おお思いを伝え合おう。がが考えをもち行動しよう。 ◎ユニバーサルデザイン(UD)の視点を活かし、主体的・対話的で深い学びを充実させ学力向上を図る。 ・質の高い学力・コミュニケーション能力の育成 ・一人一人を大切に個性や能力を最大限に伸ばす指導 ・人を思いやる豊かな人間性の育成 ・たくましく健やかな心身の育成 ・安心・安全で信頼される学校づくり(環境整備、保護者・地域連携)
	評価項目 本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	具体的方策 (1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業づくりを目指し、UDの視点、生徒指導の3機能とユニバーサルデザインの視点を意識した授業づくりの推進を目指す。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、市小研の研究とも連動し「深い学び」を追究する。さらに、楽しい授業の工夫と学ぶ意欲を育成する。 (2) 児童実態に応じた目標設定及び学習指導要領完全実施を見据え、評価まで見通した授業づくりを行う。(単元構想・目標の明確化・意欲を高める評価) (3) ノート指導、トークタイム等の工夫、系統性のある指導を進める。 (4) 全校で週2回(月・木)のドリル、週1回(火)補習の活用・充実を図る。 (5) 学期1回の峰山学園家庭学習が伸びる週間では、意欲付け、目標の明確化、家庭との連携等、学校全体の動きをつくる。 (6) 放課後・長期休業等の補習では、「ジュニアわくわくスタディ」「プラスワンスタディ」等を活用する。	成果と課題(自己評価) ○算数以外の教科・領域の指導目標に、UDと生徒指導を意識し、目標と指導と評価を一体化した授業づくりを工夫した。 ○校内研修を充実させ、工夫・改善を行い授業改善に努めた。 △目に見える学力の課題改善に向けて、さらに少人数であることとを活かしたきめ細やかな指導を進め、個別の課題に迫る取組を継続する。 ○トークタイム、ペア学習、授業の振り返り等、表現する機会を多く設定し、表現力の育成を図ることができた。 △主体的に表現する力を付ける。 ○総括テストを作成する等、目標を明確にして授業づくりを進めることができた。 △各家庭・PTAと連携し、児童の家庭生活における課題を共有し、家庭学習の習慣化を図る取組をさらに進める。
生徒指導	○人を思いやる豊かな人間性の育成	(1) 生徒指導の3機能を活かし積極的な生徒指導を行い、安心できる居場所のある学校、学級をつくり、学級づくり	○児童の状況を全体で共通理解し、課題となる事象には生徒指導部会・教育相談部会をもち組織的に対応した。

	(1) いじめの根絶を目指し、安心して自己表現できる居心地よい学級・学校づくり (2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組	と授業づくりをつなぐ。 (2) 特別な教科道徳の授業を中心に、「法やルールに関する教育」「人権教育」などで豊かな人間性をはぐくむとともに、異年齢活動を通して、温かいつながりをつくり居心地のよい学校・学級づくりを進める。 (3) いじめ防止委員会を定例化し児童の実態把握、全教職員で情報共有、早期発見・早期対応・早期解消に努める。	△ 学校行事や児童会行事に教職員が協働して取り組み、児童と教職員、児童同士の温かな関係づくりを進める。 △ 居心地のよい学校、学級づくりを目指し、指導のスタンセス、発達段階、個別の課題等、その原因をしっかりと分析し、課題に迫る。 ○ いじめアンケートを活用し、実態把握・解消に努めた。	△ 学校行事や児童会行事に教職員が協働して取り組み、児童と教職員、児童同士の温かな関係づくりを進める。 △ 居心地のよい学校、学級づくりを目指し、指導のスタンセス、発達段階、個別の課題等、その原因をしっかりと分析し、課題に迫る。 ○ いじめアンケートを活用し、実態把握・解消に努めた。
健康（体育）・安全	(1) 健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成 (2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備	(1) 不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実と取組を推進する。 (2) 目標を明確にし継続的な体力づくりの取組を充実する。 (3) PTAのテーマにある「早寝、早起き、朝ごはん」を児童自身にも意識させ、家庭生活ががんばり週間を活用しながら、家庭と連携して健康的な生活習慣を確立する。 (4) 生命やからだ、健康に関する正しい知識と実践的な態度を育成する。	○ 中間マラソンや縄とび等、計画的に取組を進め、児童の体力向上を図った。 ○ 避難訓練を実施し、安全行動の確認ができた。 ○ PTA 活動の中にここにこのカーの運行を位置付け、登下校の見守りを継続できた。 △ 長岡っ子安全ボランティアの方々の協力体制をさらに拡充する。	○ 中間マラソンや縄とび等、計画的に取組を進め、児童の体力向上を図った。 ○ 避難訓練を実施し、安全行動の確認ができた。 ○ PTA 活動の中にここにこのカーの運行を位置付け、登下校の見守りを継続できた。 △ 長岡っ子安全ボランティアの方々の協力体制をさらに拡充する。
特別支援教育	(1) 児童の特性を踏まえ、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進	(1) UDLのよさを活かした指導を充実する。 (2) 誰もが安心して生活できる学習環境づくりを進める。 (3) 行事や体験活動を工夫して自己肯定感を向上させる。 (4) コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制を構築する。（他機関との連携）	○ 特別支援コーディネーターを中心に、支援のあり方を検討し家庭との連携も含め取組を進めた。 ○ UDLを意識した授業づくりについて学び、充実を図ることができた。 △ 特別支援教育の意義等について、機会をとらえて保護者・地域に発信し、家庭との連携を図り支援を充実させる。	○ 特別支援コーディネーターを中心に、支援のあり方を検討し家庭との連携も含め取組を進めた。 ○ UDLを意識した授業づくりについて学び、充実を図ることができた。 △ 特別支援教育の意義等について、機会をとらえて保護者・地域に発信し、家庭との連携を図り支援を充実させる。
キャリア教育	○ 夢や希望、将来への展望をはぐくむ (1) 小中一貫教育（丹後学） (2) 体験活動	(1) 小中一貫教育推進計画基本計画を踏まえ、系統的な「総合的な学習の時間」を活用した丹後学を実践すること等で、ふるさとへの愛着をもたせ、身近な仕事を知り、将来の生き方・働き方について考えさせる。 (2) 米作り、社会見学、修学旅行等の社会とのかかわる活動や体験活動を充実させることを通して、興味・関心の幅を広げ自らの役割や働くこと、夢や希望、将来への展望をはぐくむ。	○ 「総合的な学習の時間」等で、京丹後市小中一貫教育基本計画を踏まえ、丹後学をカリキュラムの中に位置付け実践することを通して、自分を見つめ将来への展望をもたせることができた。 △ 地域の方々、専門的に優れた外部の方々から力添えをいただき、体験活動や学びを充実させることを目指し、調整する。	○ 「総合的な学習の時間」等で、京丹後市小中一貫教育基本計画を踏まえ、丹後学をカリキュラムの中に位置付け実践することを通して、自分を見つめ将来への展望をもたせることができた。 △ 地域の方々、専門的に優れた外部の方々から力添えをいただき、体験活動や学びを充実させることを目指し、調整する。
次年度に向けた改善の方向性		(1) 居心地のよい学級づくりと「わかる」「できる」授業づくりについて研究を進め、どの教室でも「主体的・対話的で深い学び」を実現し、どの児童へも基礎学力を定着させるなど、児童の学力向上を目指す。 (2) 特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。 (3) 居心地のよい学級づくりや地域と連携をした体験活動、学校行事・児童会行事の内容を工夫・充実等カリキュラム・マネジメントを行い、児童が自己肯定感を高め安心して学ぶことができるようにする。 (4) 生活習慣の乱れやSNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「よい睡眠」の大切さを児童が理解できる取組を進め、規則正しい生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。	(1) 居心地のよい学級づくりと「わかる」「できる」授業づくりについて研究を進め、どの教室でも「主体的・対話的で深い学び」を実現し、どの児童へも基礎学力を定着させるなど、児童の学力向上を目指す。 (2) 特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。 (3) 居心地のよい学級づくりや地域と連携をした体験活動、学校行事・児童会行事の内容を工夫・充実等カリキュラム・マネジメントを行い、児童が自己肯定感を高め安心して学ぶことができるようにする。 (4) 生活習慣の乱れやSNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「よい睡眠」の大切さを児童が理解できる取組を進め、規則正しい生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。	(1) 居心地のよい学級づくりと「わかる」「できる」授業づくりについて研究を進め、どの教室でも「主体的・対話的で深い学び」を実現し、どの児童へも基礎学力を定着させるなど、児童の学力向上を目指す。 (2) 特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。 (3) 居心地のよい学級づくりや地域と連携をした体験活動、学校行事・児童会行事の内容を工夫・充実等カリキュラム・マネジメントを行い、児童が自己肯定感を高め安心して学ぶことができるようにする。 (4) 生活習慣の乱れやSNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「よい睡眠」の大切さを児童が理解できる取組を進め、規則正しい生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第一小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校 【児童】 ◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校 【教職員】 ◇安心して子どもを任せられる学校 【保護者】 ◇他地域に誇れる地域とともにある学校 【地域の方】	○組織的授業研究による授業改善、全校体制による補習・補充、家庭との連携充実による基礎学力の安定 ○組織的な学校教育活動の充実 △特性等を踏まえた個に応じた支援による不登校課題等の改善 △大宮学園経営の充実と校内組織推進の強化	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	・読む力・書く力・確実に計算する力等、基礎学力を定着させるため、ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。 ・組織的で個に応じた指導・補習・補充体制を確立させ、基礎学力の確実な定着を図る。 ・知識・技能を用いて活用する力を育成するため、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を積極的に進める。	・研究推進委員会を中心に、基礎学力の定着のため、ねらいが明確で児童がわかりやすい(具体的手立てのある)授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合う。 ・学力診断テスト等の結果分析に基づき、補習・補充、発展学習等を組織的に行うことで、国算の基礎学力の定着と個に応じた指導・支援の充実を進める。 ・身に付けた知識・技能を用いて考える力(活用する力)を育成するため、研究推進委員会を中心となって主体的・対話的で深い学びの実現による授業改善を研究授業の視点とし、日々の授業の中での積極的な実践につなげる。	○校内ICT研修等、自校の教職員の実践から学ぶ実践的研修の有効性が確認された。また中学校との外国語活動や道徳の授業での連携が進み、ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を様々な教科等で実践していく流れができた。 ○△各学年の放課後補習、朝ドリルについても計画的に実施できたが、今後は朝学習等で読解力をつけていくための手立てを考えていく必要がある。 ○ODRTにおいて国算とも全ての学年で全国平均を上回った。 ○活用する力を育成するために、先行授業を含む学年による教材研究や2学年同時の授業研究等、本校ならではの授業研究が研究の質を落とさず会議の精選も図りながら推進された。また学園でも共通した授業の視点で研究授業を推進できた。	
生徒指導	・発達段階に応じた「友だちとなかよくし、助け合う」気持ちを育成する指導を進める。	・特別活動、学級活動、道徳科を中心に、全教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「他の人とのかわりに関すること」2-(3)についての指導を重視する。	○人権旬間・月間の取組をきっかけとして、児童が自他のよさを見つたり、再確認したりする機会となっていた。また学年ごとに、指導計画に即した人権学習が進められた。 ○保護者・児童アンケート結果も、数値目標を大きく上回るなど、「友だちとなかよくし、助け合う」気持ちが確実に育成されてきている。	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

	・「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、自己肯定感を高める等、未然防止の視点での積極的な生徒指導を充実させる。	・教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的・継続的に伝えていくことで、自己肯定感を高め、明るく積極的な学校生活への態度を促進させる。	○△不登校傾向の児童とその家庭の様々な状況に対し、教育相談部を中心に多くの教職員が関わりながら、丁寧な対応や支援がなされたことで、長期の欠席が防止できているが、不登校傾向児童の解消には至っていない。 ○いじめ及び自己肯定感に関わる保護者・児童アンケートの数値目標を上回るなど、日頃の指導や調査に基づく対応への理解が深まっている。
健康(体育)・安全	・2020 東京オリ・パラを踏まえた全体的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない意欲を高める。 ・感情をコントロールする(協調性)、集団の中で自分を律する(自制心)、自主的に粘り強く取り組み(やり抜く力)態度を積極的に育成する。	・体育の授業と運動し、期間を決め、集中的に朝マラソンや縄跳び等の取組を行ったり、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発を進めたりすること、体力(特に持久力)向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。 ・協調性・自制心・やり抜く力を育成するため、指導のねらいを明確にした学級、学校の取組及び日々の指導を発達段階に応じて意図的・計画的に推進する。	○マラソン・大縄の取組は、意欲的に取り組ませる手立てを持ち、全体で確認し実施したことにより、体力の向上につながった。 △児童数が多いとはいえ、現時点で欠席ゼロの日がなく、休まず学校に来ようとする意欲を家庭と連携してさらに高めていく必要がある。 ○学年や学校の取組等では事前指導やタイムリーな指導によって、着実にレベルアップが図られている。特に音楽発表会での取組では、この3つを意識した指導が意図的・計画的に推進された。
特別支援教育	・学校生活で配慮を必要とする児童へのきめ細かな支援を組織的に推進する。	・支援会議を中心に配慮を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援方法を明確にしながら、担任・保護者と連携した組織的な指導を進める。	○支援学級の校内授業公開は全ての教員に多くの学びがあった。 ○△個別の教育支援計画について確実な作成がなされた。今後は計画に基づく実践の効果を確実に引き継いでいくことが重要である。
開かれた学校づくり	・丁寧で分かりやすい双方向の情報発信による積極的な学校公開を進める。 ・PTA、地域の関係機関、こども園、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。	・学校だよりや学級通信、HP 等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 ・PTA との積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。またこども園(保育所)と中学校と学園の幼小一貫教育にかかわる研修、取組をねらいを明確にして確実に実施する。	○毎日の HP の更新及び各種通信の発行等によって、タイムリーに学校の教育活動や泊を伴う学校行事の様子を保護者・地域に発信できている。【HP のアクセス数 2 学期約 2 万回】 ○中学校との幼小一貫教育に係るニーズに応じた連携の取組(道徳・外国語活動等)が推進された。今後も精選した学園の取組と合わせその充実を図っていく。 ○PTA 活動が、本部役員を中心に計画的で積極的な取組が無理のない範囲で進められている。
次年度に向けた改善の方向性	1 本年度重点目標の学校評価を踏まえ、より実態に合った充実の視点での次年度重点目標の設定と週・月・学期での進捗管理を徹底する。 (1) 保育所・こども園、中学校との連携強化及び家庭とのさらなる連携強化による学力の充実のため、読解力の育成と個に応じた指導をさらに推進 (2) 活用する力の育成、学習意欲向上のための組織的な取組の積極的な実施と新学習指導要領の趣旨を踏まえた特別活動の研究推進 2 重点目標を踏まえた学級経営方針・分掌経営方針・具体的方策の作成と成果の全体の全体での確実な確認によって教員の意欲向上及び資質向上を図る。 (1) 学期ごとの個々の教職員への評価と改善の道筋への指導助言 (2) ふれあい三者での指導助言による教職員との信頼関係のさらなる構築		

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮南小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもを育成」 ・学級づくりを基盤にして、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を研究し、確かな学力をつける。 ・人権意識の育成を図る。 ・体験活動の充実を図る。	評価項目	重点目標	具体的方策	大宮学園 めざす子ども像 (1) 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 (2) 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 (3) 心身を鍛え、活動的な子どもの育成
	本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	(1) 中学校との接続を意識した連続性のある指導の充実 (2) 基礎基本の定着と活用する力の育成	・わかる・できる授業作りのため、研究授業を行う。 ・言語活用カリキュラムを活用する。(話し合い活動で表現力を高める。) ・生徒指導の3機能を生かした授業作りをする。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究をする。(算数科を中心に) ・新指導要領全面実施に向けて、道徳・外国語に加えて、プログラミング学習についての研修を行う。	○京丹後市小中一貫教育授業研究会に向けて、校内だけでなく、学園全体で事前研・事後研を行うことで、算数の授業改善を図ることができた。 ○総合教育センターの出席授業を活用し、主体的・対話的で深い学びについて学び、自校の実践につなげることができた。 ○△教職員の努力により、どの学年も落ち着いて学習に臨むことができた。しかし、さらに授業改善の必要な学級もあるので、今後授業研を実施する中で、力をつけさせたい。
生徒指導		(1) 児童の人権意識、自尊感情、規範意識を高める。 (2) 児童理解を深める。 (3) いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底させる。	・事例研究を行う。 ・自尊感情を高める取組をする。 ・週に1回は児童の実態交流をし、共通確認を図る。(会議後に時間をとる。) ・実態交流の中で、児童の見方について若い教師に学ばせる場を作り、人権感覚を磨かせる。 ・連絡・報告・相談を欠かさないことを意識づける。	○毎週1回会議後に児童の実態交流の時間を作る とともに、気になる事象があった時は、生徒指導部を中心に事実確認を行い、方向性を決め、複数で早期対応を図ることができた。 △担任によつては、報告が遅れることがあるので、今後連絡・報告・相談を密にするよう指導していくとともに、児童・教職員の様子を観察し、気が付いたことは早期に指導することが必要である。

健康(体育)・安全	(1) 体力・運動能力の向上 (2) 健康安全教育の充実 (3) 食育・給食指導の充実	・体力テストの結果を踏まえた授業改善をする。 ・ルールを守り、自他を大切にすると安全教育、命の教育をする。 ・昨年度の研究を生かし、PTAとも連携を図り、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識づける。	○SNSの安全に関する学習会を、全校児童を対象に実施することにより、児童に安全な使い方を考えさせることができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールを実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 ○学級園で育てた作物で調理をしたり、給食で使ってもらったりする活動を通して、食育を深めることができた。	○SNSの安全に関する学習会を、全校児童を対象に実施することにより、児童に安全な使い方を考えさせることができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールを実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 ○学級園で育てた作物で調理をしたり、給食で使ってもらったりする活動を通して、食育を深めることができた。
(A)危機管理	(1) 状況を判断し主体的に行動する態度を育てる。 (2) 児童・教職員の様子を観察し、未然防止・早期発見早期対応を図る。	・避難訓練等で学んだことを生かし、災害が起こった時最善の方法を自ら考え行動できる児童を育てる。 ・日々の様子から情報収集をし、危機について未然防止・早期対応ができるよう、連絡・報告・相談を徹底させる。 ・教職員の観察等を通して、実態を的確に把握し、健康管理を図るために働き方を工夫し、超過勤務時間の削減に努める。	○不審者の侵入を想定した避難訓練や防犯教室を実施することができた。 ○△超過勤務時間を削減するために、会議時間を削減するだけでなく、個々の教職員の意識改革を図ることができた。(一部課題の残る教職員もある。) △異常気象が続く中、今年度は災害時の引き渡し訓練を実施しなかったもので、来年度は実施する。(不審者対応と隔年で行う。)	○SNSの安全に関する学習会を、全校児童を対象に実施することにより、児童に安全な使い方を考えさせることができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールを実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 ○学級園で育てた作物で調理をしたり、給食で使ってもらったりする活動を通して、食育を深めることができた。
(B)特別支援教育	(1) 障害のある児童の実態に応じた的確な支援をする。 (2) ユニバーサルデザインの実践を進める。 (3) 児童・保護者のニーズに応じた特別支援教育を進める。	・教科指導・教室経営にユニバーサルデザインの視点を取り入れる。 ・適切な児童の見立てをするとともに、効果的な個別の指導計画が作れるよう、学校体制で取り組む。 ・保護者面談を行い、必要があれば外部機関と連携し、保護者のニーズに応えられるような取組を行う。	○教室環境、授業の流れなどに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることができた。 ○電子黒板を活用して、特性のある児童にも、集中しやすい授業になるよう工夫することができた。 △児童の実態に合った学ばふ場所の提供ができるよう、さらに面談を続け、理解を図る必要がある。	○SNSの安全に関する学習会を、全校児童を対象に実施することにより、児童に安全な使い方を考えさせることができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールを実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 ○学級園で育てた作物で調理をしたり、給食で使ってもらったりする活動を通して、食育を深めることができた。
次年度に向けた改善の方向性	・人権教育を基盤にし、互いの違いや良さを認められる学級・学校づくりを推進する。 ・小中一貫教育の視点を大切に、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を意図した授業改善を進めることにより、児童の学力向上を図る。 ・外国語・道徳・プログラミング教育などについての実践交流を行い教職員の授業力を高める。			

元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野北小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	評価項目	重 点 目 標	
	教育課程 指導	1 新学習指導要領へのスムーズな移行を図る。 2 単元全体を通して学力向上に取り組む。 3 網野学園学力向上プログラムを計画的に積み上げ、基礎・基本の定着を図る。 4 児童が意欲的に学習できる場の設定を進める。	1 年間を通して、生徒指導の三機能を大切にしたい指導を積み上げ、児童アンケートの結果において、年度始めと比べ年度末は、満足度を12ポイント増加させ、不満足を4ポイント減少させることができた。 2 安定した学級経営を基盤に、落ち着いた授業をし、国語・算数共にAB層を増加、DE層を減少させた。 3 多人数学級の経営がより安定することを重点目標とし、組織的・継続的に取り組む。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として		1 校内研修で評価等について研修し、認知能力・非認知能力のバランスのよい授業づくり等授業改善に繋げる。 2 単元全体を通して、基礎基本の力、活用力等をつける計画をし、実践する。その結果を単元末テスト等で評価し、次の単元実践に繋げるサイクルについて、算数科の研究授業・公開授業を行い、学び合う。 3 学力補充・スキルタイム・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 4 児童が意欲的に学習できる多様な学習形態を取り入れた授業・環境づくりの設定を進める。	成果と課題 (自己評価) ○ 単元全体を構想した授業研究により、認知・非認知能力のバランスのよい授業づくりについて具体的イメージを共有でき、単元末テストの結果も向上傾向が見られた。 ○ スキルタイム、家庭学習における反復練習などにより基礎基本の力を付けることに努めた。 国語AB層(3P↑) DE層(5P↓) 算数AB層(3P↑) DE層(3P↓) h30,h31DRT比較 △DE層の児童に対して、より多くの時間をかけて学習補充をしたが、時間確保が難しい。 ○ 年度末漢字・算数テストを目標にさせながら、家庭学習の内容の充実を図った。
生徒指導		1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。	○ 年間を通して生徒指導の3機能を大切にしたい指導を継続することで、多人数学級を含めて、学級生活に満足な児童を11ポイント増、満足な児童を10ポイント減等、いざこちのよい学校づくりを推進できた。 ○ いじめに関わる事象が生じた際は、「本校いじめ防止基本方針」により、組織として早期に事実関係を掌握する等して、事象の早期解決に繋げることができた。 ○ 道徳の時間において、ペア学習・グループ学習など対話を重視した授業形態は進んだ。次のステップは、対話の内容を深めることである。

健康(体 育)・安 全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図った。基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにも粘り強く挑戦して、いこうとする態度を育成する。 3 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 全員登校27日以上	1 期間を決め、体力づくりの取組を行い、体育の授業と連動することで、体力(特に持久力)向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。 2 学校、学級での取組において個々の目指す目標を達成段階に応じて明確にし、特にA「主として自分自身に關すること」[希望と勇気、努力と強い意志]についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。 ※持久走、遠泳等との計画的、意図的な関係づけ 3 教育相談部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを打つ。	△「全員登校27日以上」を目標とし、生活点検、配慮児童の家庭と定期的に面談を持ったりする等丁寧な指導を継続したが、全員出席日は16日であった。3/2現在 保護者アンケート 基本的な生活習慣確立 肯定率90% ○本校伝統の「遠泳大会」に向け、計画的で継続的な指導を積み上げること、6年児童が八丁浜沖を泳ぎ切ることができた。○駅伝競走大会での成果 8人入賞 保護者アンケート 粘り強く挑戦 肯定率85% ○配慮児童に係る個別的教育支援計画、個別の指導計画を保護者と共に作成、教育実践を積み上げ、評価・改善するサイクルを地道に継続できた。 △深夜におけるUSBメモリー時紛失という不祥事を起こした。その後は、「京丹後市学校情報通信ネットワーク利用ルール」の徹底を図り、「原則午後8時までの退勤」に努めた。 ○校長通信を活用するなどして、「学校危機は児童の指導の際生じること」「教職員の高い人権意識が必要であること」等、年間を通して危機意識を高めた。 ○緊急対応が必要な場合、PTA本部役員を中心に、情報の共有化を図る等、連携を密にして対処した。 ○見守り隊と連携しながら登校指導をしたり、下校時巡回パトロールの実施をしたりして、安全を確保した。
危機 管理	1 コンブライアイアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待にこたえる。 2 いじめ等問題事象の早期発見・早期解決に努める。 3 超過勤務の縮減に努める。 4 安全な登下校の為の環境づくりを進める。	1 コンブライアイアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。 2 「人権」を大切にしたい学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 3 PTA役員等密接な連携を図りながら、課題解決に臨む。 4 超過勤務時間の実態共有化と年間を通して縮減の働きかけ、校務改善に努める。 5 見守り隊と日常的な連携を図る。	△学校により、学級通信や、ホームページ等で児童のがんばりの様子を伝えることで、学校の取組状況について情報発信できた。保護者アンケート 肯定率94% ※ホームページのアクセス数1日に約250件 ○学校公開日 6月 8日(土) 祖父母参観、給食試食 11月 9日(土) 学習発表会 等 ○不登校傾向児童、教室に入れない児童、家庭への対応 △学力DE層への学力補充の一層の具体 △働き方改革を具体化するための年間指導計画作成、行事・PTA行事などの見直し 家庭訪問の希望制
開 か れ た 学 校 づ く り	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校によりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 学校公開日を設け、保護者や地域住民の学校参観を促進する。 3 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○学校公開日 6月 8日(土) 祖父母参観、給食試食 11月 9日(土) 学習発表会 等 ○不登校傾向児童、教室に入れない児童、家庭への対応 △学力DE層への学力補充の一層の具体 △働き方改革を具体化するための年間指導計画作成、行事・PTA行事などの見直し 家庭訪問の希望制
次年度に向けた 改善の方向性	△カリキュラムマネジメントによる学校経営構想 △人数の多い特別支援学級の経営 △牛乳パック、フッ化物洗口への対応 △新学習指導要領完全実施に伴う評価の具体 △情報の危機管理などの徹底の継続 △年間を見通した計画的な環境整備	△不登校傾向児童、教室に入れない児童、家庭への対応 △学力DE層への学力補充の一層の具体 △働き方改革を具体化するための年間指導計画作成、行事・PTA行事などの見直し 家庭訪問の希望制	

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名〔 京丹後市立網野南小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
網野学園小中一貫教育の目標から「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 ・目指す子ども像 ・あかしく元気な進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやめく子	評価項目	重点目標	具 体 的 方 策	成果と課題 (自己評価)	
	教育課程 学習指導 生徒指導	○「よく学ぶ」学校 基礎的・基本的な学習内容の習熟と、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育成する。 ○「いざこちのよい学校」 互いのよさでつながり合える人間関係を構築する。とともにも、規律を守り、いじめ・暴言等を許さない機運を高める。「(いじめ)等問題事象の早期発見・早期解消に努める。」	・網野学園と校内研究と連動させ、「ものの見方・考え方」に着目した授業づくりを進める。 ・授業及び学力補充の取組や網野学園学力向上の取組を効果的に実施し、基礎学力(読み・書き・計算等の習熟)や学習習慣の定着、家庭学習の充実に努める。 ・来年度の学習指導要領の全面実施に向け、資質・能力の育成に向け、校内研究体制を整え、「主体的、対話的で深い学び」を意識した授業改善を行う。 ・日々の関わりの中で、生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を大切にしながら教育実践を推進する。 ・教育活動を通して、それぞれの目標や目的、児童の姿勢等について、具体的な評価と行動の振り返りを積み重ねる。(指導者としても、児童自身も振り返りを重視する。) ・網野学園「これだけは」(授業規律確立と規範意識醸成)等で、ルールの大切さの価値付けや共有化を図る。 ・いじめや問題事象等の対応については、窓口の一本化(教頭)とし、正確に事実を確認することを原則として、迅速に、丁寧に、組織的に行う。	1 学校再配置6年目。児童が安心して学校生活を送り、各自の力を最大限発揮できる教育環境をつくる。 2 網野学園小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育を推進する。 3 「いざこちのよい」「よく学ぶ」「毎日登校できる」をキーワードとした学校経営を行う。 4 基本的な学校運営システムを構築する。	

健康（体 育）・安全	○「毎日登校できる」学校生活リズムを整えて毎日登校し、その目標に向かって挑戦しようとする態度を培う。	・網野学園「これだけは！家庭編」をもとに、各家庭やPTAとの連携を図り、生活リズムの確立を目指す。 ・家庭支援の必要な児童については、ケース会議やSSWの活用により、個に応じたきめ細やかな支援を行える体制を構築する。 ・毎朝の児童の様子及び登校の状況を把握し、該当分掌と連携した指導や取組を行い、より安全な登下校の確保や不登校（登校しぶり傾向）の早期発見を行う。 ・非行防止教室・乗物乱用防止教室、自転車教室等を早期に実施し、安全についての意識を高める。 ・情報モラル教育を進め、家庭でのルール作りやネットやゲームとの上手な付き合い方についての意識の向上を目指す。	○毎朝の登校の様子を見守ることで児童の状況を把握するとともに、登校しづらい児童への対応を教育相談部を中心に組織的にを行い、不登校の未然防止や早期解決を行うことができた。 ○配慮の必要な児童について、特別支援コーディネーターを中心としてSC・SSWとの連携、校内ケース会議の実施により、個に応じた丁寧な支援を行うことができた。 ○学級懇談会やPTA総会でネットやゲーム使用の現状や上手な付き合い方等について情報提供し、家庭で考えうる機会を作ることができた。また4年生対象のSNS講習会を通して情報モラル教育を進めることができた。 △ネットやゲームの使用時間（就寝時間含む）について、自律できる力を付ける必要がある。
危機管理	コンプライアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待に応える。 超過勤務の縮減に努める。 安全な登下校の為の環境づくりを進める。	・コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。 ・児童、教職員の人権を大切にしたい学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 ・超過勤務時間実態共有化と年間を通して縮減の働きかけをする。 ・PTA活動の一貫としてあいさつ運動を進めるとともに、民生児童委員、スクールガードリーダー、警察との連携による、登下校の見守り活動を推進する。	○セクハラ、わいせつ等失墜信用行為について研修したり、校内で起きた問題や新聞報道された内容について情報共有したりすることで再発防止や注意喚起することができた。 ○長時間勤務の実態把握を行い、各教職員の自覚を促すとともに、その縮減に向け、行事や取組内容の見直しや業務内容の改善を進めることができ、勤務状況アンケートでは昨年度に比べ負担が軽減された項目が増えた。 ○PTAで朝のハイタッチ運動を年間通して実施していただいたことや地域の方々の見守りにより安全に登校することができた。 △勤務時間の縮減を更に進める。
開かれた学校づくり	保護者、地域、関係機関との連携を大切にしたい学校経営をする。	・PTA役員等と丁寧な連携を図りながら、課題解決に臨む。 ・地域の人材を生かした教育活動を推進する。 ・学校や児童の様子を知ってもらうため、学校関係者については、年間を通して授業参観の機会を広報する。 ・学校便り、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。	○学習支援ボランティアや読み聞かせボランティアなど地域の人材や地域の事業所と連携し教育活動を進めることができたことで、地域への愛着を深めることができた。 ○ホームページの更新をこまめに行い、学校の様子を保護者、地域の方々に広く知っていただくことができた（1日の閲覧数300件～500件） △学校関係者の方への授業参観や行事の案内が十分であった。
次年度に向けた改善の方向性	1 基礎基本の定着と言語活動の充実を目指した授業づくり 2 主体的・対話的な授業を通して深い学びの実現 3 人権教育を基盤においた心の教育の充実 4 家庭との連携による情報モラル教育の推進 5 業務改善による働き方改革の推進		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立島津小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業による学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	重点目標	○外国語・外国語活動の研究推進により、コミュニケーション力の向上と必然性のある言語活動の授業スタイルが確立してきた。 ○ニュージージーランドの小学生とのライブ交流が実現し、英語を学ぶ意欲の向上と世界への視野が広がった。 △低・中学年では学校で甘えを出す傾向が見られ、遊びの中でのトラブルが多く起きた。 ○丹後学での学びを通して地域のことを知り、地域とつながり、地域の方々へ発信することができた。		1 府小研「外国語教育部」教育研究大会を一つのゴールとして、教職員の指導力向上、児童の学力向上、学校力の向上を目指す。 2 全ての教育活動において、合言葉(短期目標)を位置付け、「島小システム」による学校運営を進める。 3 網野学園の教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育を生かした連携を進める。(学力、生徒指導) 4 生徒指導・教育相談の組織的な対応力・指導力を高め、いじめ・不登校の未然防止に努める。 5 勤務時間縮減に努める。
	評価項目	具 体 的 方 策		成果と課題(自己評価)
本市の小中一貫教育の諸計画を基盤として		・網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組を進める。 ・網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。		○網野学園「これだけは！」を意識した授業改善や取組を組織的に推進することができた。 △教科・領域によっては授業改善の状況に課題が残った。 ○学力充実の取組は、学力向上プログラムにそった基本的な取組はできた。図書の貸し出し冊数も三千冊を超え昨年度を上回った。 ○家庭学習がらばり週間には課題を焦点化して取り組み、時間の改善が見られた。
生徒指導		・生徒指導の三機能を学校の教育活動全体に生かし、主体的に判断し行動する児童の育成に努め、いじめのない学校を目指す。 ・学期毎に内部評価アンケートを実施し、指導の検証をして改善に活かす。 ・全ての計画に、短期目標「合言葉」を実践する内容を意図的に取り入れる。 ・生徒指導部を中心とする、問題事象の早期発見・早期解決を組織的に行う仕組みを定着させる。 ・児童会活動を通して異年齢活動やチームの活動を活発にする。		○生徒指導部を中心として、生徒指導の三機能を意識した授業づくり、学級づくりを行い、いじめや問題事象の早期解決・未然防止につながった。 ○評価アンケートを活用し、改善の必要な点を全校の場を生かして指導できた。 ○2カ月サイクルで示した「合い言葉」は、児童に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。 ○児童会活動でも生徒指導の三機能をふまえた指導が日々積み上げられ、児童の変容が見られた。

健康（体 育）・安全	・網野学園家庭編に基づき取組を、他校と連携し進める。 ・健康の保持増進と体力の向上を図る。 ・安全への実践的態度の育成を図る。 ・食育の推進を図る。	・網野学園「これだけは(家庭編)」に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・朝の体力づくりを、教育活動全体を見通して効果的な内容に改善し、充実を図る。 ・日々の生活・活動を通して「安全」を考えさせ、実践させる場面を作る。 ・実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。	△基本的な生活習慣への意識は高いが、寝る時刻に30パーセント課題が残った。 ○朝の体力づくりは行事とリンクさせて計画的に行うことで、児童が目標に向かって意欲的に取り組んだ。 ○集団生活の中で安全な生活への指導を行い、誰にとっても楽しい学校への意識が高まりつつある。 ○米作りの学習や栄養教諭による食育授業は、食に関する学習意欲を高めた。	○「外国語・外国語活動」の授業の中で大切に指導してきた3点が、その他の授業や取組に大きく影響し、間違ふことを恐れず考えを出し合って学び合う基礎ができた。(肯定的評価が98%) ○研究大会では、児童の姿として研究の成果を発信することができた。 ○イングリッシュ小学校とライブ交流が3回実施でき、英語への興味や意欲がさらに高まった。 ○生活科の校区探検や丹後学等で、「琴引浜」や地域の自然や遺跡に関心をもち学習を行うことができた。その学びを学習発表会等で発信することでもできた。
特色ある 学校づくり	・外国語活動指導力の向上を図る。 ・豊かな体験を基にした国際理解教育実践を推進する。 ・「琴引き浜」をテーマとして、積極的に地域に学習の成果を発信する。	・「外国語・外国語活動」の授業を通して、コミュニケーション力を高める。また、その力を他教科に生かし、自分の考えを活発に出し合い主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを進める。 ・3年次の教育研究大会を通して、3年間の外国語教育の研究成果を広く発信し、今後の教育活動に生かす。 ・イングリッシュ・プライマリー小学校との交流を年間計画に位置付けて、ライブ交流を行い豊かな異文化体験を行う。 ・「琴引き浜」学習を通して、地域の方々に「教えていただく」、「発信する」機会を積極的に設け、つながりと地域の良さを実感させる。	・特別支援学級を年度当初から丁寧に行う。 ・個別に配慮の必要な児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。	○「外国語・外国語活動」の授業の中で大切に指導してきた3点が、その他の授業や取組に大きく影響し、間違ふことを恐れず考えを出し合って学び合う基礎ができた。(肯定的評価が98%) ○研究大会では、児童の姿として研究の成果を発信することができた。 ○イングリッシュ小学校とライブ交流が3回実施でき、英語への興味や意欲がさらに高まった。 ○生活科の校区探検や丹後学等で、「琴引浜」や地域の自然や遺跡に関心をもち学習を行うことができた。その学びを学習発表会等で発信することでもできた。
特別支援 教育	・支援を必要としている児童に 対して、組織的な取組を進め るとともに、児童理解の力量 を高める。 ・就学指導の充実を目指す。	・特別支援学級を年度当初から丁寧に行う。 ・個別に配慮の必要な児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。	○特別支援学級の存在が、学校全体に温かさを与え、心地よさが広がった。 ○外部の医療機関やSC・SSWと連携した継続的な取組を丁寧に進めた。 ○個別の支援計画・個別の指導計画を作成し、配慮の必要な児童への具体的な指導・支援を行い、一人一人の自立を目指した取組が進んだ。 △引き継ぎを丁寧に行い一人一人の自立を目指した取組を保護者と連携し継続する。	○特別支援学級の存在が、学校全体に温かさを与え、心地よさが広がった。 ○外部の医療機関やSC・SSWと連携した継続的な取組を丁寧に進めた。 ○個別の支援計画・個別の指導計画を作成し、配慮の必要な児童への具体的な指導・支援を行い、一人一人の自立を目指した取組が進んだ。 △引き継ぎを丁寧に行い一人一人の自立を目指した取組を保護者と連携し継続する。
次年度に向けた 改善の方向性	① 外国語科の評価の在り方について授業研究を重点とし、今年度までの成果をさらに発展させる。 ② 外国語教育で付けたコミュニケーション力を他教科や領域に生かし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ③ 小小連携・小中連携をもとにした研究の視点もさらに充実させ、網野学園としての取組を効果的に進める。 ④ 在籍が2名となる次年度、更に特別支援学級を学校教育の軸にして教育的ニーズに応じた支援を適切に進める。			

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名〔京丹後市立橘小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
		【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子ども 【知】意欲的に学習に取り組む子ども 【み】みんななかよく支え合う子ども 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども 【体】のびのび生き生きやうにぬく子ども 【自然・人・社会とのつながり、郷土を愛する心を育てる。(特に重視)】		【教育活動の目標】 「つながりが、たくましく生き抜く たちっ子」の育成 ～智慧を磨き、場を大切に、何事もやり抜く～ ～「元気に、笑顔で、挑戦」する姿を目指し～ (平成31年度 京丹後市指導の重点 目指す教育「子ども像」心豊かにたくましく…」「ふるさとへの愛着と誇り…」(将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶ子ども)に着目) 【教育活動の具現化に向け】 プロジェクトT(たちばな、つながり、プロジェクト)たちばな 智慧をみがこう：知・主体的・対話的で深い学び」場を大切にしよう：徳・豊かな人間関係の追究 ばな 何事も最後までやりぬこう：体・強い心と体	
本市の小中一貫教育の基盤として	教育課程 学習指導	◇学習意欲を高める指導工夫の交流 ◇算数科を重点教科とした研究を推進し、主体的・対話的で深い学びの授業改善を行う。 ◇先行実施となった「外国語活動」「外国語」の効果的な授業に向けた実技研修 ◇「考え、議論する道徳の時間」を全担任が指導・評価するための早期の校内研修と取組のPDCA ◇担任とSSが連携し効果的な指導を行い、特別支援学級、2・5年生の学力課題の改善につなげる。 ◇生活科、総合的な学習の時間の学習を通して、丹後学を参考に地域の魅力をまとめ、発信する力の育成 ◇市小研給食研究会の指定校として、地域の食等を考え、食育の意義を校内外に広く発信する。		○学校教育目標の具現化を一定意識した教職員、児童の動きと家庭、地域への発信が進んだ。 ○教務主任を中心に組織の中核的な役割を果たすミドルリーダーの活躍 ○市給食研究会を開催し、地域の食等を考え、食育の意義を校内外に広く発信した。 ○生徒指導の三機能(自己存在感・自己有用感・共感的人間関係・自己決定の場)の視点を大切に、授業づくりや異年齢活動を実施させることができた。 △新4年生の学力補充のさらなる改善 △特性のある児童への指導の生徒指導の困難さとその体制づくり	
	生徒指導	◇教育活動全般に生徒指導の三機能の視点を大切にする。(自己存在感・自己有用感・共感的人間関係・自己決定の場) ◇道徳教育、人権学習の充実を図り、豊かな人間性を培う。 ◇話し合い活動を通して自分の考えをもち伝える力を培う。 ◇学級活動、異年齢活動、児童会活動を通して、つながりを通して互いが認め合えることができるようにする。 ◇教育相談部会、生徒指導部会の機能化を図り、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期解消を行うために何でも話せる風通しの良い職員室を目指す。		○生徒指導の三機能(自己存在感・自己有用感・共感的人間関係・自己決定の場)の視点を大切に、授業づくりや異年齢活動を実施させた。 ○「児童会活動と学校目標の一致した動き」の活性化児童会目標に「つながる(学校目標)」が入り、それをもとにした、月目標、学級目標の設定した。 △日々の道徳教育や人権学習等の取組を通して、温かいものの見方、違いを認め合える関係づくりに努める。	

健康 (体 育)・安全	1 何事も最後まであきらめずに取り組む 強い心を育てる。 (教育活動の具現化④何事も最後までやりぬこう : 体・強い心と体)	◇生徒指導部と特別活動部との連携により、月目標の設定・提案をし、全学年が具体的な取組を行い生活の向上を目指す。 ◇オパパーク教育を取り入れた授業づくり。 ◇朝の体力づくりの取組等を通して、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付ける。(市小学校駅伝、ジョオパーク駅伝大会に向けた取組の重視) ◇生活習慣の乱れから、学習意欲が減退しがちな児童に対して、養護教諭、担任を中心にきめ細やかな指導の徹底 ◇6年生を中心にチーラン配りや看板作り、全学年の交通安全教室などに取り組む、安心安全な学校を目指す。	○市小学校駅伝、ジョオパーク駅伝大会に向けた取組により、本校の強みを大いに発信した。 ○朝の体力作り継続し粘り強く取り組んだ意義が大きい ○月目標を設定し、各学年で具体的な動きをすることで、自ら学校生活を高める機運が高まった。 △ゲームの楽しさを約束で約束を守れず、生活習慣の乱れのある児童に対して家庭と連携をさらに深める。 △自転車の正しい乗り方について、繰り返し指導を行い交通安全に対する実践力を高めたい。校内でも危機管理意識を高め、怪我を減少させたい。
開かれた学校づくり	1 学校や地域の特色を踏まえつつ、社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラムマネジメントの推進を図り「地域とともに育つ学校」を目指す。 (教育活動の具現化①つながろう、たくましく生き生きと)	◇網野学園におけるコミュニティスクール趣旨理解の促進を図り、学校運営協議会を核に地域の声を学校運営に生かす。 ◇地域学校協働活動本部の事業、地域やPTAの支援を積極的に教育課程に取り入れ、教職員の働き方改革につなげる。	○「地域とともに育つ学校づくり」の推進 ア地区運動会、マラソン大会、海の検定等で地域に発信した。地域に元気を！ イ公民館会議等に積極的に参加し、子どもの頑張りを地域で発揮できるように働きかける。 ウ児童会・老人ホームの方の声を聞き、マラソンコースを変更し保育園、発表会を地区文化祭と共催し文化の発信地として盛り上げ、芸術の秋、地区の文化的行事を学校として盛り上げる。 オ授業の外部講師を年間約70日、延べ約100名以上の方にお世話になる。「本物に触れる教育」を推進(地域の方を講師に、招待する) △外部の窓口となる教頭の業務過多(地域連携担当教員の設置)
研修 (資 質向上の 取組)	1 学校課題に見合う研修テーマとし課題克服を図る。 2 教職員が自己課題を設定し えた研修テーマを設定し指導力を高める。	◇新学習指導要領移行期として、全教職員が趣旨を十分理解し、学び合う研修の設定 ◇「教員等の資質能力の向上に関する指標」に基づいたキヤリアスデザインにふさわしい資質の向上を図られるよう日々の声かけ等含む教職員の長所の伸長を図る。 ◇働き方改革の校内研修を実施しより効率的な業務改善が進むように教職員の意識改革を図る。	○教務主任がリードし授業改善、教育課程の進行管理、学習評価の研修など積極的に実施し研修が深まり個々の資質向上に寄与した。 ○働き方改革を具体的に推進した。教頭・教務を核に企画会議、職員周知を行い実践した。 ア休憩時間の確保・1時限を早め、昼読書を設置、AB交代制で指導と休憩を確保 イ業務の精選・行事、児童会、PTA、分掌、対外業務、学習指導等の月毎に仕分け ウ会議の精選・職員会議、校内研修会、PTA、各部会の会議数の削減、連絡調整事項へ移行、会議時刻を19:00開始、開始時刻厳守等 △教員個々に見合う資質向上の指導助言とその進行管理
次年度に向けた改善の方向性	方針 『中学校進学後を含む社会に出た際、つながり、たくましく生き抜く人材』の育成を図る ① 地域とともに育つ学校づくりをさらに推進・橋の強み生かし、子どもの元気を地域に 館、民生委員、等目指す子ども像の共有②本物に触れ、出逢う「社会に開かれた教育課程」・外部授業・学校の働き方改革に ③ 学びに向かう力の育成(自力解決力)・自ら考え主体的に課題解決に向かう心の育成 指導 ① 学習指導要領全面実施を見越した業務改善による働き方改革の推進 ② 風通しの良い明るい職員室「チーム橋」協働性の向上 ③ 個に応じた 教育目標具現化 ～プロジェクト T (たちばな、つながり、プロジェクト) ～ ・ つながろう、たくましく生き生きと ・ 智(ち)恵をみがこう ・ 知・「主体的・対話的で深い学び」の追究 ・ 場(ば)を大切にしよう : 徳 ・ 豊かな人間関係の追究 ・ 何(なに)事もやりぬこう : 体 ・ 強い心と体の追究		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標 (丹後学園共通) 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 1 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 2 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 3 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 4 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成	学校経営目標 1 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 2 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 3 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 4 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成	○基礎基本を定着させる学習を、全校チャレンジとして取り組むことができた。 ○異年齢活動をとおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年へ配慮ができるようになった。 △学力向上を目指して、個別指導に取り組んだが、学習の定着に課題が残った。 △研究推進からの提起による授業研をもつことができ、学ぶことができ、コミュニケーション能力の育成を意識した日常的な実践に引き続き心がける必要がある。	・新学習指導要領の理念である地域に開かれた特色ある学校を目指し、児童・保護者・地域の人間性とともに「丹後小学校」ができてよかったと思えるように、児童同士のつながりを大切にしたい学校経営を行う。 ・少人数である旧豊栄小学校区の児童に配慮をしながら、お互いのよさを生かしていき、学力課題や不登校問題の解決を目指していく。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として 教育課程 学習指導	・単元の指導構想をもとに、単元を通してどんな力をつけたのか、何をどこまで、できるようにするのか、学び合いを通して、「わかる」「できる」を実感させ、「深い学び」につなげる授業づくりを進める。	・丹後学園の研究主題である「子どものコミュニケーション能力を育成する」～生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)を生かした取組の充実～と併せて、本校の研究推進部からの提起を受け授業における「学び合い」の充実を図っていく。 ・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。 ・家庭との連携を密にし、学習習慣の確立に向けて取り組む。	○新学習指導要領の理念や育成すべき資質・能力について共通確認し、単元の指導構想のための単元シートを導入し研究を進めることができた。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善につなげて、点の知識をつないで、高次の深い学びにつなげる授業づくりの研究を進めてきた。 △学力向上に向けて少人数指導を実施して、効果を上げることができたが、少人数指導ができていない学級によって課題が残った。
生徒指導	・生徒指導の3機能を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進める。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。	・丹後学園の生活のきまりを守り、教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを学級活動や多様な異年齢集団での活動の中で、意識して伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・いじめ、不登校の未然防止のために教育相談部を中心に面談の実施を行うとともに情報共有し、組織的な対応を行う。	○異年齢での学級掃除に取り組み、児童の頑張りやあいさつ、生活面での良さを玄関ホール、トイレ、ポスターボードに毎日掲示することで、相互理解が図られ規範意識が高まってきている。 ○不登校傾向の児童については、ほぼ毎日登校し、大幅に改善を図ることができてきている。中学校とも連携をして、受け入れ態勢についても準備している。 ○いじめアンケート以外に教育相談部を中心に年3回のアンケートと面談を実施していじめ防止を行った。

健康（体育）・安全	・全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。	・全年体育育の時間にサーキットトレーニングを継続して行う。 ・基本的な生活習慣の確立に向けた取組を、家庭と連携しながら進める。	○年間を通じて学校を休む児童が少なく、元気に学校に来ることができている。 △家庭環境の厳しさから、基本的な生活習慣の確立に向けて十分に指導ができなかった児童がいる。 - ケース会議等で、引き続き改善に向けて努力をしていく。
危機管理	・3つの安全（生活・交通・災害） ※安心安全な学校生活ができる。	・登下校時のこここカーの運行や、学校支援ボランティアとの連携により安全な登下校につなげる。 ・登下校のみならず、校外のきまりを守り交通安全を含め安全指導の徹底を図る。 ・校内の危険箇所点検を行い、適宜、修繕などをするこ - とで教育環境を整える。 ・児童の欠席があった場合、理由の確認と担任からの働きかけを確実にを行い、連続欠席とにならないように、いろいろな機会を通じて児童にも保護者にも呼び掛ける。	○登下校時に『こここカー』（巡回指導車）による巡回を1年通して行ってきたことによりタイムリーな指導ができ、交通事故の発生を抑えることができた。 ○校外のきまりを守ることを意識させることで、生徒指導に関わる問題事象もほとんどなくなってきた。 ○児童の欠席は、いじめや不登校の予兆と考えて、理由について確実に把握するようにしてきた。
開かれた学校づくり	・丁寧で分かりやすい情報発信を行う。 ・PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。	・学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子を積極的に発信する。 ・新設校などでPTA行事の見直しを行い無理なく実施可能な行事や取組を行っていく。また関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 ・児童の欠席があった場合、理由の確認と担任からの働きかけを確実にを行い、連続欠席とにならないようにする。 ・全員登校の日教が多くなるよう、いろいろな機会を通じて児童にも保護者にも呼び掛ける。 ・読み聞かせボランティア・図書館指導員により、読書への興味を高め本好きな児童を増やす。	○開校1年目の学校であるので、各行事の実施に際しては、PTAの全面的な協力を得て、実施に際しては綿密な打ち合わせと準備を行い実施した。実施後に総括をして、改善点を出し次年度に引き継ぐ内容を決めることができた。 ○図書館指導員による、ブックトークなど読書に興味を持てる取組を実施することができた。 ○児童の欠席があった場合の担任からの働きかけを確実に行ったことで、連続欠席にならない学校風土をつくることができた。
次年度に向けた改善の方向性	・今年度の少人数指導による効果が確認できたので、学力課題の大きい学年への少人数指導を行い学力向上に向けて学校が一つになって取り組む。 ・令和2年、3年の京都府給食研究会発表校として、学校組織を再編して令和3年の発表に向けて組織的に学校経営を行っていく。 ・再配置2年目となる丹後小学校が、安定した学校運営ができるように引き続き教職員全員で不断の努力をしていく。	○今年度の少人数指導による効果が確認できたので、学力課題の大きい学年への少人数指導を行い学力向上に向けて学校が一つになって取り組む。 ・令和2年、3年の京都府給食研究会発表校として、学校組織を再編して令和3年の発表に向けて組織的に学校経営を行っていく。 ・再配置2年目となる丹後小学校が、安定した学校運営ができるように引き続き教職員全員で不断の努力をしていく。	

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立宇川小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ・将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】 ・目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】 ・保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】		○全国へき地研に向け、学校一体となった研究活動により、多様な人とのコミュニケーションや話し合い活動が充実し、児童の伝え合う力が高まった。 △個に応じた指導や学力向上を図る取組は充実したが、授業改善と学力の定着は課題である。 ○児童同士の人間関係や思いやりの心は育ってきた。自己肯定感を更に高めていきたい。 △地域や学園と連携した学習を充実させることができたが、児童に付ける資質・能力を明確にした教育活動を実施していく必要がある。		(1)小規模校の特性を踏まえた効率的、効果的な学校運営を行う。 (2)小中一貫教育と本校の研究を連動させ、児童のコミュニケーション能力や主体性の育成、授業改善による学力向上を図る。 (3)家庭と連携し、基本的生活習慣の確立や自己肯定感を高める。 (4)へき地・小規模校として、地域と連携した教育活動を充実させ、宇川への愛着の気持ちを育む教育を推進する。	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）		
教育課程 学習指導	1「分かる・できる」授業、主体的・対話的で深い学びの授業を行い、学力向上を目指す。 2個に応じた指導や家庭学習、読書活動を充実させ、基礎学力を定着させる。	1国語の授業研究を全学年で実施し、生徒指導の三機能を生かした授業、新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善を行い、児童の資質・能力を高める。 2実態把握を基に、個人カルテの活用やドリルタイム・放課後補習等、個に応じた指導を進める。学力強化月間の設定し、学習意欲の向上と家庭学習、読書活動充実の具体化を図る。	○国語を重点に講師招聘、全学級の授業研究会や公開授業、丹後学園の研究で学び合い、教師の授業実践力を高めた。児童アンケートでは、ほぼ全員が「わかる」「主体的に取り組んでいる」と回答した。○学力強化月間の計算チャレンジや自主学習の取組、放課後補習を全員対象にする等、基礎学力向上の取組を強化することができた。家庭学習の習慣がほぼ定着し、読書量も増加した児童が多い。 △深い学びに繋がる授業改善を進め、個人カルテを基に全児童の学力向上を目指していきたい。		
生徒指導	1児童自らが課題解決する実践力や自己管理能力、自己肯定感を高める。 2人権意識・規範意識の高揚を図り、いじめのない安定した学校生活を送らせる。	1目標設定と具体化を児童が考え実践し、達成させる指導を行う。その中で振り返りや互いの良さを認め合い伝え合う場を設定する。 2道徳の時間や人権月間を中心に人権意識を高める取組、日常的な指導と併せていじめアンケートを実施し、児童の実態を把握しながら、年間を通じた計画的な指導を行う。 3生徒指導部と特別活動部が連携した月目標を設定し、児童の規範意識・実践力を高める。	○児童会の取組や行事等、児童が主体的に考え創る過程を大事にしなが、学年を超えて友達の良いところや感謝を伝える活動が実施できた。児童アンケートの「協力」「仲良く」「良い所を見つけた」「は昨年より良い結果で、ほぼ100%の児童が肯定的評価をしている。 △安定した学校生活であったが、児童・保護者アンケートにも自己肯定感の低さや自分の思いを伝えることに課題が見られる。 ○「挨拶」や「廊下歩行」等、児童課題に応じた月目標を設定し、学級や児童会等、学校一体の取組ができ、徐々に改善が図られた。 △取組がなくても、常に自分で考え判断し、正しい行動が継続できる実践力を付けたい。		

健康（体育）・安全	1 体力の向上と基本的な生活習慣を確立させ、強い体をつくる。 2 安全に生活するための知識や判断力、行動力を育成する。 3 粘り強く挑戦する態度を養う。	1 全校の体力づくりや行事・運動を連動させた取組、家庭と連携した「元気貯金」等の取組を計画的に行い、体力向上と基本的な生活習慣を確立させる。 2 安全に関わる行事や学級指導、外部講師による学習等、安全に関する意識と実践力を高める取組を行う。 3 粘り強く挑戦し、継続するための手立てや指導を体育・道徳・学級指導等で行う。	○年間を通して中間マラソンや縄跳び、運動会、遠泳大会等、行事・授業・放課後練習等で全校の体力づくりや運動能力向上を図った。また年数回「げんき貯金」の取組で基本的な生活習慣の啓発を行った。 △外遊びは増えたが運動の2極化が見られ、「早寝早起き」の課題や長時間のゲーム等、気になる課題がなかなか改善しない児童もいる。 ○避難訓練、交通安全、非行防止教室等、外部講師等の協力などで、様々な機会に安全指導が実施でき、知識や意識は高まってきている。 △児童は全員「最後までやり遂げる」と答えているが、保護者のアンケート結果の評価は低い。更に意識して様々な場面で指導したい。	○サポート委員会（特別支援教育部+教育相談）を中心に個別の支援計画・指導計画の下、保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進める。 2 特別支援学級児童と交流学級との学習や全校児童との交流の機会を増やす。また地域の障害のある児童や人との交流の場を設定する。	1 学級だけでなく全校や異年齢、学年の園児・児童・生徒、地域の方等、多様な場で様々な人と関わり、コミュニケーションを図りながら、個々が活躍できる教育活動を実施する。 2 生活科や総合的な学習の時間等で、家庭や地域と連携し、地域素材・地域人材を生かした探究学習を充実する。	○コミュニケーション能力の育成を意識した取組の中で、自分から他の学年や地域の人へも積極的に対話できる児童が増えた。 ○他校や保育所との合同学習等、大きな集団の中でも自分達で計画、協力しながら、各自が責任持ってやりきる力が付いてきつつある。 △まだ声の小さい児童もいる。自信を持って自分の考えが言え、主体的に取り組む力を更に高めたい。 ○様々な教育活動で地域の方の協力や交流の場を多く持ち、地域学習のまとめや思いを学習発表会等の場で積極的に発信できた。 △地域との交流や人材活用を図った学習を更に取り入れたい。
特別支援教育	1 教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に行う。 2 障害児者理解教育を進める。					
特色ある学校づくり	1 へき地・小規模校及び地域の特性を生かし、児童の活躍と主体的な学びがある教育活動を進める。 2 地域のことを学び、地域への愛着と地域の未来を考える児童を育成する。					
次年度に向けた改善の方向性	○へき地、小規模校の特性を生かし、保幼小中一貫教育や地域連携、教育課程の工夫により、特色ある学校づくりを行う。 ・個々への丁寧な指導と授業改善、家庭や地域人材の協力で、児童の確かな学力を向上させる。 ・多様な人との関わりの中で、主体的、創造的な活動と最後までやり切らせる指導で、自信や自己肯定感を高める。 ・規範意識・人権意識を向上させ、何事も自分で考え、判断し、より良い行動や生活ができる自立の力を高める。					

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立吉野小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図る。 2 確かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、一人ひとりが大切にされる心の教育の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の中小一貫教育を様々な取組を充実させながら、推進する。	評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりの推進 2 主体的、対話的で深い学びの授業づくりの推進(授業改善)		1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を行い、主体的・対話的で深い学びの授業改善を図り、基礎・基本の確実な習得と定着、質の高い学力の育成を目指す。 2 様々な活動を通して、思いやりの心や豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」を推進する。 3 家庭・地域、関係機関との連携を深め、信頼される学校・特色ある学校・開かれた学校づくりを通して、「生きる力」の育成に努める。 4 就学前から中学校卒業までを見通した弥栄学園小中一貫教育の推進及び充実を図る。 5 中堅教員の指導力、対応力の向上を図り、人材育成を行う。
		具体的方策 1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を一体化させた指導を推進する。 (1)授業をデザイン化し、指導と評価を一体化した授業づくりを推進する。 (2)授業づくりを通して学習意欲の向上を図るとともに、主体的に自主勉強に取り組む指導と環境づくりを進める。 (3)学園の取組とも連動させながら、学級や児童の学力課題克服のための取組を推進する。 2 主体的、対話的で深い学びの授業づくりの実践(授業改善)を積み上げる。 (1)新学習指導要領を意欲した移行期の教育課程を編成し、実践する。 (2)小中一貫モデルカリキュラムを活用し、各教科等の指導計画を改善し、主体的・対話的で深い学びの授業改善を推進する。 (3)校内や学園の授業研究会や研修、出前講座、その他関連の研修を通して、教員の指導力向上を図り、児童の学力の充実・向上につなげる。		成果と課題(自己評価) ○各学年とも、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を進めることができ、学習意欲や落ち着いた学習に向かう力を高めることができた。 ○学園の取組と連動させながら、自主勉強の取組を進め、家庭学習の充実や主体的な学びへつなげることができた。 ○移行期の内容を教育課程に位置付け、基礎・基本、内容や量・スピードにも対応できる力を育成するための授業づくりと「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を進め、学力の定着や向上につなげることをできた。 ○教員の指導力や資質の向上を図るため、校内、学園等の研修を充実させ、学び合う教員を育成し、授業改善と児童の学力向上につなげることができた。 △安定した学級経営や授業改善を通し、実践を進めたが評価テストでの高得点につながらない課題がある。 △高位層や中間層の更なる伸びにつながりにくかった。

生徒指導	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営実践を行い、自尊感情の醸成を目指す。 2 望ましい集団活動や多様な体験活動を充実させ、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。 3 非行防止教室、法やルールに関する教育、情報モラル等の指導を通して、いじめ等の未然防止や規範意識の高揚を図る。 4 児童の内面理解に努め、児童、保護者との信頼関係を構築し、取組や対応等を丁寧にもたせ、迅速に進める。	○生徒指導の3機能を生かした学級経営や異年齢集団活動を通して、高学年のリーダー性の育成と良好な人間関係づくりを進めることができた。 ○各学級や学校全体の安定につながった。 ○非行防止教室等や様々な事象の教材化、家庭との連携等を通して、規範意識の高揚やいじめ、不登校の未然防止、早期の発見、対応ができています。 △児童一人一人の内面理解や状況把握に努め、家庭との連携を強化しながら適切な指導を継続していく。	○年間を通して体力づくりの取組を組織的に進め、基礎的な体力を身に付け、大会等で成果を発揮することができた。 ○家庭と連携して毎学期生活点検を実施し、学期始めの生活習慣づくりにつながった。 ○安全等に関する取組を保護者や地域ボランティアと連携して行い、安全な登下校、交通事故0や防止につながっている。	○家庭と連携して、個別の支援に係る資料の整備を行い、障害や特性に応じて児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。 ○定期的な懇談を実施し、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた教育支援や就学指導を進めることができた。 △更に実施に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧な、組織的、継続的に行う。 ○伝統や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。
健康(体育)・安全	1 食育、健康な心と体づくりの取組を推進する。 2 危機管理意識の高揚を図り、学校等の事故の未然防止に努める。	1 食育の推進と、年間を通して朝の体力づくり(マラソン、縄跳び)、毎学期の生活点検による生活習慣づくりを進める。 2 危機管理意識を高め、事故等の未然防止に努める。 3 校内安全点検を実施し安全な施設管理を行うとともに、登下校等の安全指導を徹底し、PTAや地域のボランティア等と連携した取組を進める。	1 支援が必要な児童の教育支援計画、個別の指導計画等を整備する。 2 障害のある人を正しく理解するための理解教育を計画的に進める。また、特別支援教育に係る研修を行い、指導に活かす。 3 本人や保護者のニーズに合わせた教育支援に向けた懇談を丁寧な組織的、継続的に行う。 4 個々の合理的配慮を明確にし、個に応じた指導の推進及び充実と関係機関との連携を図る。	○伝説や校風を大切にしたい教育活動を展開する。 2 郷土への愛着と誇りをはぐくむために保護者や地域の人材等を積極的に活用し、連携・協働による教育活動を推進する。
特別支援教育	1 特別な教育支援が必要な児童の課題、障害に応じた支援や指導方法の改善、充実を図る。 2 家庭や関係機関との連携を図る。	1 特別な教育支援が必要な児童の課題、障害に応じた支援や指導方法の改善、充実を図る。 2 家庭や関係機関との連携を図る。	1 特別な教育支援が必要な児童の課題、障害に応じた支援や指導方法の改善、充実を図る。 2 家庭や関係機関との連携を図る。	○伝説や校風を大切にしたい教育活動を展開する。 2 郷土への愛着と誇りをはぐくむために保護者や地域の人材等を積極的に活用し、連携・協働による教育活動を推進する。
特色ある学校づくり	家庭、地域との連携を深め、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。	家庭、地域との連携を深め、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。	家庭、地域との連携を深め、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。	○伝説や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。
次年度に向けた改善の方向性	1 校内研修を充実させて指導力を高め、「基礎・基本の定着に向けた授業」と「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の推進と学力の向上を図る。 2 教育環境の充実を図るとともに生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業づくりを推進し、児童一人一人の内面理解に努め、望ましい集団活動を通して、郷土を愛し、豊かな心をはぐくむ教育の充実を図る。 3 弥栄学園保幼小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた学園経営を行い、園小、小小、小中の連携及び一貫した取組の実践と評価を重ね、円滑な接続を図る。 4 家庭・地域との信頼関係を構築し、連携を深めながら、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。	1 校内研修を充実させて指導力を高め、「基礎・基本の定着に向けた授業」と「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の推進と学力の向上を図る。 2 教育環境の充実を図るとともに生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業づくりを推進し、児童一人一人の内面理解に努め、望ましい集団活動を通して、郷土を愛し、豊かな心をはぐくむ教育の充実を図る。 3 弥栄学園保幼小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた学園経営を行い、園小、小小、小中の連携及び一貫した取組の実践と評価を重ね、円滑な接続を図る。 4 家庭・地域との信頼関係を構築し、連携を深めながら、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。	1 校内研修を充実させて指導力を高め、「基礎・基本の定着に向けた授業」と「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の推進と学力の向上を図る。 2 教育環境の充実を図るとともに生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業づくりを推進し、児童一人一人の内面理解に努め、望ましい集団活動を通して、郷土を愛し、豊かな心をはぐくむ教育の充実を図る。 3 弥栄学園保幼小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた学園経営を行い、園小、小小、小中の連携及び一貫した取組の実践と評価を重ね、円滑な接続を図る。 4 家庭・地域との信頼関係を構築し、連携を深めながら、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。	○伝説や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立弥栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子		○複数体制指導、個に応じた指導を進めることで、落ち着いて学習に臨ませることができ、学習規律も身に付けさせることができた。 ○いじめの未然防止や不登校傾向等、課題となる状況に対し組織的に取り組み、早期発見・改善に導くことができた。 △学力定着には課題があり、活用力、書く力に弱さがある。 △自らの課題に気づき、解決していこうという意欲や判断力に課題が見られる。		1 学級経営を基盤とした授業づくり 2 新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善 3 人権教育・道徳教育の充実 4 小中一貫教育の推進 5 信頼される学校づくり	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	1 学力実態と課題に応じて個に応じた指導の充実を図る。 2 新学習指導要領の趣旨に沿った教育課程経営を行い主体的・対話的で深い学びを重視した授業改善を進める。 3 学園課題・学校課題克服に向けた小中一貫教育の推進	1 楽しく学び、わかる授業づくりを進め、基礎基本の徹底・個に応じた指導(TT・少人数授業)・家庭学習充実等の取組を行う。 2 新学習指導要領実施に向けての研修、カリキュラム・マネジメントを進める。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校内・学園研究授業を推進する。 3 学園の取組が学園課題・学校課題克服に向けた効果的なものとなるよう推進する。(園小連携、家庭学習の取組・授業研究・教科・領域部会等)	○算数は複数体制指導で、わかる授業づくり・個に応じた指導を進め、学力の定着を図ることができた。国語の研究授業を行うことで主体的・対話的な深い学びについて指導力向上が図れた。また、学園課題に向けて1年・6年の授業公開をし、園小接続、小中接続の指導の系統性について連携を進めることができた。課題であった書く力の向上には成果が見られた。 △弥栄学園の課題でもあるが、発達段階に応じた指導を更に工夫改善し、系統的に行っていく必要がある。		
生徒指導	1 好ましい人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成する。 2 規範意識を醸成する。 3 組織的にいじめの未然防止、早期発見・早期対応を進める。	1 学級活動や児童会活動、異年齢集団活動を通しての育成・児童会と学級が連動する特別活動実践 ・よりよい学級・学校生活づくりのための学級活動・話し合い活動の充実(月目標の設定と取組) 2 約束やきまりを守って生活できる力を付ける。 ・学園共通「学びのルール」の指導 ・非行防止教室、インターネット安全教室等 ・丁寧な登下校指導 3 児童の変化や危険信号を見逃さないよう日頃からの児童の見守り、信頼関係の構築に努め、いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組を進める。	○よりよい学校生活を築けるよう、児童会本部の提案のもと、各学年が学級目標を設定して自治的な動きができるようになってきている。 ○約束やきまりを守り、互いに思いやりをもつて過ごせるよう、生徒指導部と特別活動部が連動・連携して取組を進めることで、児童の意識が変革した。 ○いじめ対策委員会や生徒指導部で児童の気になる状況に対しタイムリーかつ組織的に対応することができた。 △更に一層、児童と教職員との信頼関係を深め、悩みごとがあれば相談できる関係性を深めていく必要がある。		

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	1 体を動かすことを楽しみ、遊びや運動の仕方を工夫する力を付ける。 2 生活習慣の改善 3 生活安全・交通安全・災害安全の指導を推進し、安全な生活を営む判断力と実践力を養う。	1 児童の体力・運動能力実態を把握し、体育指導・体力向上の取組を充実させる。 2 家庭と連携した生活習慣改善の取組 3 児童自ら災害や事件・事故等から、安全を守るための能力を身に付ける安全教育を保護者・地域と連携して行う。（地域安全ボランティアとの連携） ・毎月の安全教育指導（便りの発行、朝会指導） ・交通安全、防犯教室、防犯訓練、引き渡し訓練 ・ここにこカーパトロール、見守り指導等	○マラソンやなわとびなど、体力づくりの取組を行い、市小学校駅伝競走大会では2年連続入賞ができた。 △年度末の体力テスト結果分析では、全学年柔軟性と一部の学年を除いて腹筋・背筋力に課題が見られた。怪我の多さとも関係していると考えられ、授業の工夫改善と家庭との連携が必要である。 ○安全に関する取組を定期的に行い、地域連携を進めるとともに児童の意識を啓発することとできた。 △広域の校区で安全に登下校ができたのは、多くの地域ボランティアのおかげであるが、下校時には、子どもの気も緩んで危険な状況も見られた。
開かれた学校づくり	1 学校からの発信の充実 2 地域学習、丹後学を通して、児童が人とつながり、ふるさとを愛する心や感謝の心を育む。 3 地域人材の活用	1 学校や学園の取組・様子を積極的に発信し、理解と協力を得る。（学校便り全戸配布・学園便り・ホームページ） 2 丹後学をはじめ、広い校区の地域教材を積極的に取り入れ、地域から学ぶ。 3 学校支援ボランティアを活用し、学習効果をあげるとともに地域とのつながりを深める。	○定期的なホームページ更新、地域全戸への学校便り配布で広報することができた。 ○地域教材や地域人材を活用した生活科、社会科、総合的な学習の時間（丹後学）の授業を行い、地域から学ぶとともに地域への愛着を深めた。
特別支援教育	1 障害や特性を踏まえた個別に応じた指導・支援を充実させる。	1 配慮を要する児童への指導支援を学校体制で行う。 2 研修（特性把握、合理的配慮・自立活動等指導・支援）を実施し、個別の指導計画・個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実させる。	○個別の教育支援計画の整備し、家庭と共通理解を図り、指導支援を行った。 ○外部と連携した指導支援の検討・充実を図ることができた。（カウンセラー、学びアドバイザー、臨床心理士等） △より一層ユニバーサルな視点で教育活動を進めていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	① A 部会（学力充実・授業研究）・B 部会（自主性・規範意識の向上）・C 部会（配慮児童・家庭への指導支援）を中心に学校課題改善にむけた動きを更に推進する。 ② 信頼される学校づくりに向けた情報発信、迅速・誠実・丁寧な対応を行うとともに、危機管理意識を全教職員がきっかけも、日々の教育活動にあたる。 ③ 働きがいがあり、かつ健康的な職場づくりを進める。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立久美浜小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、見える学力として12月のDRTの結果(標準得点)を昨年度よりも学級平均の向上並びに個人別に伸ばす児童を増やすことを目指す。 2 話し合い活動を含めた、学び合いのスキルを高め、総合的な学力を一步高める。	1 「分かる」「考える」授業づくりをICTの活用等も含め工夫して進めるとともに、ドリルタイムや家庭学習では習熟を目指した「量の確保」を進める。 2 一斉による指導のほか、個別に配慮しながらの指導も組み合わせ授業を構想していく。 3 単元全体を見通し、「読む・書く」の活動を適切に位置付け、考えたり表現したりする力を伸ばす。 4 「話し合い活動」の系統表をもとに指導を継続し、「対話」に係る力を積み上げる。	「すべては久美小の子どもの成長のために」～子どもに力をつけることを強く意識する～ 1 教育活動のキーワード 『チーム久美小 「尊重」「協働」「サポート」』 2 そのために大事にすること (1) 目標・目的を明確にした上で具体的な方策を考え、評価を踏まえた具体的な改善策の検討を重視する。 (2) 肯定的評価や指導のあり方等、教育活動を進める指導観について学び合い、教職員自身がコミュニケーションを大切にしていく。 (3) 児童一人一人の力を伸ばすための学習指導力や学級経営力を高める努力をする。
	生徒指導	1 気持ちよく生活できるための必要なマナーやルールを考え、必要に応じて行動できる力、相手を思いやる心の育成を進めるための授業や取組を進める。 2 「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な指導、相談活動をさらに充実させる。	1 豊かな人間性を育むために、児童会活動を通じた異年齢活動を更に進める。 2 生徒指導の三機能による学級づくりを進め、児童相互及び教職員との深い信頼関係に基づき好ましい人間関係を育成する。 3 日々の子どもたちの様子を全教職員で見守り、情報交流を丁寧に行うことで、「いじめ」や「不登校」の芽を逃さない。また、常に起こりうることを想定しながら危機感を持って教育活動を進める。	○6年生を中心とした児童会活動や各学級活動により、つながりを広めたり深めたりする取組が今年も進められた。学級内での人間関係による問題を常に解決しながら日々の成長を促すことができた。 ○「いじめ」については、年3回のアンケートを中心に常に様子の変化を見守り、日々解決していくことができた。 ○昨年度は3名の児童が登校のしにくさがあったが、本年度は1名と減少し、改善傾向にある。 △児童の衝動性による問題が継続しているため、保護者連携を含め、適切な指導や環境づくりを行う必要がある。
評価項目		重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)

健康（体 育）・安全	1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせるとともに、様々な取り組みを通じて我慢強く活動する心を育てる。 2 安全な生活を営むための対応力を育成する。	1 日常生活で当たり前のことが当たり前にできている子どもに育てるために、基本的な生活習慣や学校生活、家庭学習等、1日のルーティンの確立を目指して、粘り強い声かけと保護者連携を進める。 2 交通ルールの順守や不審者への対応、日々の安全な生活等を進めるために、事例を教材化し情報を正しく判断できるようにする。	○学校内での基本的な生活習慣づくりについて、「久美小当たり前ルール」から重点的にテーマや期間を設定して、全学年による意識化を図ることができた。家庭でも、がらんどり週間等の取組を通して、家族一緒に前向きに取り組んでいたという家庭が多かった。 ○1年間地域の見守り活動や家庭での指導のおかげで登下校中や自転車による交通事故はなかった。 △家庭での生活リズム（睡眠時間・メディア視聴・SNS・家庭学習等）の改善に向けての継続的な取組が必要である。
研修（資 質 向 上 の 取 組）	1 新学習指導要領への対応としての「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と本校重点課題である「ことばの育成（話し合い活動の充実）」を関連付け、解決につながる校内研究・研修の充実を図る。	1 新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業改善に向けて、具体的な子どもとの姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。 2 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点による評価のあり方の研修を進める。 3 「話し合い活動を通してことばの力の育成と主体的で対話的な学び」について、実践しながら研究を進める。	○久美浜学園の取組と運動させるとともに、校内でも「話し合い活動」を中心とした指導のあり方を学び合った。さらに、スキルのな力と話し合わせる視点・内容の大切さも研究することができた。 ○学習過程におけるICT活用の効果的な位置付けや、ノート指導や板書との使い分け等、指導のあり方を互いに学び合うことができた。 △これまでの「話し合い活動」の研究を土台にして、主体的な学びやICT活用についての授業展開を模索していく必要がある。
特色ある 学校づく り	1 保幼小中10年間を見通し、中学校卒業時の生徒のあるべき姿を明確にしながら教育活動を推進する。 2 地域に学び、地域とともに歩む学校にする。	1 昨年度のシステムや方向性を継続し内容充実を図る。特に、「理解と対話」のキーワードのもと、学園教職員で常に交流しながら、「中学校卒業時の生徒のあるべき姿」を検討し、本校の教育活動において常に意識していく。 2 教科や総合的な学習の時間等において、様々な地域の資源から学ぶ。また、様々な機会をとらえ地域の方々の交流や学びを大切にする。	○「理解と対話」を重点として、特に保小連携において児童・園児の姿を中心に取り組んだ。また、6年生と中学生の姿や現状を交流・協議する中で、学力充実に向けた学園共通する取組（事後交流・学習課題「中学校への道」・小中学生の意識の差異等）の焦点化や具体化を進めることができた。 △教科や総合的な学習の時間において、地域の資源（商店・自然・グストディチャー・伝説等）から、多くを学ぶことができた。一方で、準備や展開に係る時間確保が難しく、今後も行事の精選と共に、地域から学ぶ視点を大事にしていく。
次年度に向けた 改善の方向性		1 これまでの久美浜学園全体の10年間を見通した教育活動の積み重ねを土台として、小中間の様々な教育課程上のギャップについて、より具体的に点化した取組を通して一歩ずつ改善していく。 2 本校の重点課題である「学力向上」に向けて、現在の重点研究や学力向上の取組を継続するとともに、①肯定的評価を基にした生徒指導の3機能を生かした学級づくり、②学習内容を確実に定着させる授業づくり、③「基礎基本の徹底」と「主体的な学び合い」のある授業づくり、④ICT（電子黒板・タブレット等）を効果的に活用した授業づくりを進めていく。 3 学校の取組全体や会議設定の工夫等を通して、教職員の授業準備や研修の時間確保を更に進め、そのことを通して授業実践や学級経営力の向上を進める。	

令和元年度 学校評価自己評価報告書

学校名 [京丹後市立高龍小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 — 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 — 1 基礎・基本の徹底 2 言語活動の充実(授業づくり) 3 家庭学習時間の確保		○素直に反応し、取組を進めようとしたことができた。 △規範意識を高める必要がある。 △「わかる授業」「できる授業」を通して国算の基礎・基本の力を身に付ける取組を進める必要がある。 △児童の実態を把握し、必要な支援を行い、一人一人の自己肯定感を高める必要がある。		「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」 1 自分の考えを表現することができる。 2 自分や友だちのよいところを見つけることができる。 3 いろいろなことに挑戦することができる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	1 ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を進め、知識・技能の習得を図る。 2 全校体制で個に応じた指導・学力補完体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付けた知識・技能を用いて思考・判断・表現する力を育成する授業を進める。	1 研究推進部を中心に、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の算数科の研究授業・公開授業を行い、知識・技能の習得を図り、学び合う。 2 学力補完・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 3 児童が主体的に学習に取り組むことができる多様な学習形態を取り入れた単元・授業のデザインの及び環境づくりを行う。	○一人年1回の授業公開・研究授業に取り組み、導入を工夫し、児童が主体的・対話的に学ぶ授業を行うことができた。 ○授業のユニバーサルデザイン化をすすめだれもが「わかる」「できる」授業研究を進めることができた。 ○保護者アンケートで約97%が、児童に意欲的に学習する場が設定できているとの回答が得られた。 ○意欲的に学習する場である漢字検定に71名(49%)が挑戦することができた。 ○久美浜高校と連携しプラスワンスタディに取り組みことができた。 △家庭と連携し基礎・基本の定着を図らなければならない。	
生徒指導	1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。	1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。また、いじめについて、未然防止に重点を置き、規範意識の醸成を図る。 2 「特別な教科 道徳」を中心に、道徳教育・人権教育を推進する。特に「主として人とかかわりに関すること【親切、思いやり】」を重視する。	○生徒指導部・特別活動部が連携し、全校で「時間を守る」「話を聞く」等の月目標に取り組み、児童が相互によさを評価したり、全校集会等で評価したりすることができた。 ○6年生をリーダーとして、運動会・チーム遊び・大縄大会に取り組み、友達の良い所を見つ取る取組を行うことができた。 ○保護者アンケートで約97%が、児童に「思いやり」の心が育成できているとの回答が得られた。 ○11月の人権月間に、「道徳」の授業を中心に人権教育に関わる授業公開(地域へも公開)を行い、児童に親切・思いやりについて考えさせることができた。	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、強い心と体を作る。 2 困難なことにも粘り強く、調整しながら挑戦していいこうとする態度を育成する。	1 期間を決め、体力づくりの取組を図るを行い、体育の授業と連動することで、体力の向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、強い心と体を作る。 2 個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にし、特に「特別な教科 道徳」を中心に「主として自分自身に關する事【希望、努力と強い意志】について指導し、粘り強く、調整しながら挑戦する態度を高める。	○基本的な生活習慣の取組と合わせて、メディアコントロールについて指導することができた。その取組を京都府学校保健会で発表することができた。 ○天候不順の中、地域の山「高龍ヶ岳」に4・5・6年生で協力し、登山することができた。 ○絵画の取組では、粘り強く取り組み、全国教育美術展で21名の入賞者を出すことができた。 △生活習慣が身に付いていない児童に対して、今後とも家庭と連携して取組を進めなければならない。
特別支援教育	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1 支援部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援の手立てを明確にし、担任と連携した指導を進める。 2 保護者との懇談を実施し、個々への合理的配慮を明確にするとともに個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する。	○教育支援部会に、一人一人のニーズに応じた指導方法を検討したり、見直したりすることができた。SC・SSW・臨床心理士・巡回教育相談を活用し、児童の指導に生かすことができた。 ○年間を通して保護者と懇談することができた。保護者の願いを取り入れた個別の指導計画・教育支援計画を作成することができた。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校だけでなく学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○6月に学校公開日を設定し、保護者地域住民に広報することができた。また、授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行し、学校の方針の理解・保護者との連携が一層進んだ。 ○ホームページの来訪者が一日約200件あり、1月27日現在235,986のカウンタとなっている。 ○稲作・読み聞かせ・書初め・スキーマ・ミシン等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行うことができた。
次年度に向けた改善の方向性	久美匠学園の教育目標・目指す子ども像を更に成果の見える取組を行う。 1 個に応じた指導と一斉指導の充実を図り、規範意識を醸成し、誰もが安心して学習に参加できる環境を創り上げる。 2 算数科の授業研究・公開授業等を行い、互いに授業を見合いながら、児童が主体的・対話的で深い学びができる授業を行い、誰もが「わかる」「できる」授業研究を進める。 3 ドリルタイムの充実、放課後補習・学期末・学年末補習等に取り組み、基礎・基本の力を身に付ける。 4 児童に自分なりの考えを持って表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。また、読書の量と質を高め、児童の語彙力を高める。 5 困難なことにも粘り強く、調整しながら挑戦する態度を育成し、学力の安定を図る。	今後、より児童の実態と合わせた短期の課題設定・達成目標を設定し、	

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立かぶと山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成 めざす児童像 (知)意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (徳)自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (体)心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子	評価項目	重点目標	(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 (2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進 (3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進
	教育課程 学習指導 生徒指導	具体的方策 ・「やってみよう・できた」を実感させる授業を展開し、学ぶ意欲と根気強く努力する力を向上させる。 ・言語活動の充実を図るため、話す・聞く・書く活動を取り入れながら自分の考えを伝え、学び合いのよさを実感させる。 ・単元構想をもち、どんな力をつけるのか、各時間のつながりを意識して授業を行う。 ・学習規律の確立を図る。 ・学習内容の習熟のため、家庭との連携を深め、家庭学習を充実させる。 ・生徒指導の3機能を活かした学級経営の推進により、望ましい人間関係を育成する。 ・友達とのトラブルを解消する取組を通して、自己と他者の折り合いのつけ方を学ばせる。 ・日々の肯定的評価を積み重ね、自己肯定感を高めるとともに、お互いの良さや頑張りを認め合える集団づくりを進める。 ・児童理解に努め、個に応じた指導を行う。個と集団との関わりの中で、認め合い、成長できるようにする。 ・ルールやまじりの意味を理解させ、全員がルールを守ることを大切にす。	成果と課題 (自己評価) ○授業研を全学級実施し、事前研事後研の充実により、主体的・対話的で深い学びについてどのように授業を構想するかポイントを絞って実践・検証が行えた。 ○児童同士の交流、教師との対話により理解を深められるように、何を理解させるのかを明らかにして授業展開に組み入れた。 △基礎基本の問題について、時間内に多くの問題を解くスピードについて改善が必要である。 △家庭学習では、進んで取り組めない実態がある。一斉の指導と個別の支援が引き続き指導が必要である。 ○肯定的な声掛けに心がけ、お互いの良さを見つめるように進めることができた。 ○学級全員で取り組むことの良さや、勝負だけではない取組過程での値打ちを認めることにより、自分の成長や集団の成長について児童が実感できることを積み重ねた。 ○自分の思いを伝え、相手の気持ちも理解しようとする中で学級集団も落ち着いている。 △不登校の児童に対して、教育相談部を中心に対応した。不登校未然防止として必要なことを分析する。 △感情に任せ、自己中心的な言動があり、その都度指導した。 見つけた時が指導の機会ととらえ指導を継続する。

本市の小中一貫教育の諸計画及び全学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	○規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる。	・朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）を計画的に実施する。 ・家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。 ・登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々と連携した取組を進める。（付添い登下校、にこにこカーによる見守り、毎月の登校指導等）	○朝マラソンを実施し、取組期間中は一生懸命取り組みることができた。 ○長期休業明けに生活リズムを整える取組を行い、学校の生活リズムに戻せるように指導した。 ○学園の取組として「メディアアカウントロール」の指導を行った。 △登下校の安全については、ボランティアの方々と連携してきたが、安全という点では、歩き方など課題として残った。
特別支援教育	○配慮を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を心がけ、適切な支援を行う。	・特別支援学級在籍児童にとどまらず、各通常学級に在籍する配慮を必要とする児童への支援の在り方について研修を深める。 ・スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザー、市臨床心理士と連携し、配慮を要する児童への適切・有効な支援の仕方を探る。また、必要に応じて保護者への啓発を進めていく。 ・個に応じた指導について、保護者と方向性を確認しながら個別的教育支援計画を作成し、指導に活かす。 ・保護者と今後の進路についても確認し、適切な就学指導を行う。	○配慮を要する児童の交流を丁寧に行い、教職員間で児童理解を進めることができた。 ○スクールカウンセラー、学び生活アドバイザー、市の臨床心理士と連携し、児童理解や対応について助言を受け適切な支援が行えた。 ○保護者との面談を重ねながら、効果的な支援を検討し実践できた。 △児童の教育支援計画、指導計画を作成することはできたが、活用につなげることが不十分な部分もあった。今年度の振り返りを次年度の支援につなげる。
開かれた学校づくり	○学校や児童の様子等を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。	・授業参観や行事への参加、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 ・学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。そのために、取組の目的や方法を分かりやすく伝えられるように工夫する。 ・年度初めに本年度の経営方針等を示し、年度末にそれについての評価を得るというサイクルで進める。学校評価や保護者アンケートを活用し改善に活かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを活用して、地域の方とのつながりを広げる。	○授業参観は毎回多くの参観者があり、行事への参観・協力もPTAと協力して行うことができた。 ○行事や取組の様子を学校便りや学級だより、ホームページにより発信することができた。 △教育活動に対する保護者アンケートの結果を分析し、学校改善につなげていく。 △地域や外部人材の活用について、ねらいを明らかにし計画的に行う。
次年度に向けた改善の方向性	・児童の学力向上に向けた研究活動の活性化。「深い学び」につなげる授業改善を行う。 ・安定した学級経営の実現に向け、生徒指導の三機能を踏まえた指導を継続する。 ・特別活動を中心として児童の豊かな人間関係づくりと日々の授業づくりを関連させる。 ・個に応じた児童への支援の在り方を進めていくため、実態の把握と指導の方向性を明確にする。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)			前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 ・言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を小中一貫して研究する。 ・指導方法の工夫改善により学力向上と学習意欲の向上を図る。	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 ・小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止	【授業改善と学力の向上】 ○ベア学習、グループ学習が定着し、生徒の学び合いの場面が増え、そのことが学力の向上につながっている。 ○少人数、T T 加配の配置された英語科で、個に応じた指導が推進され、学習意欲の向上が見られる。また、英語科を柱に峰山高校との連携が進んだ。 △教科部会を充実させ、学力課題の大きい生徒を授業に巻き込み、生徒がより主体的に授業に臨めるよう毎時間の課題設定を工夫する。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○SSW(スカーフ・シャカ・カ：社会福祉士)の配置を受け、福祉の専門家からの見立てができた。カウンセリングで直接生徒に関わり、不登校の未然防止につながったケースもある。 △不登校に対応する組織体制は確立したが、結果として2学期から、特に2年生で新規不登校があった。今年度以上にSSWを活用すること、関係機関とのさらなる連携が必要である。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 【授業改善と学力の向上】 ・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。 ・外部講師を招き校内授業研究会を活性化させる。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ・不登校解消に向け①管理職の教育相談部会への参加②心の教室相談員、SC、SSWの教育相談部会への参加③迅速な校内ケース会議の開催)を継続する。 ・考え、議論する道徳の授業の研究を進める。 ・問題事象やいじめの早期発見・早期対応を組織的に進める。
			具 体 的 方 策 ・①生徒が主体的に活動する場面が設定された授業②本時の目標が明確で「わかる」授業③多様な学習形態を取り入れた授業の研究を進める。 ・5・6年担任と数学科教員が協働して総括テストを作成し、目標と指導と評価の一体化を進める。 ・各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 ・週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。 ・少人数、T T 授業(英語)を効果的に実施する。	成果と課題(自己評価) ○小中一貫教育の成果として、中学校における授業改善が進み、教師の講義型授業からベア学習・グループ学習を取り入れた生徒主体の授業に変わっている。 ○授業改善が学力向上に結び付き、各種学力調査でもおおむね京都府・全国平均を上回る結果を上げている。 △一部の教科・学年では、学力差が広がり、基礎学力の定着に課題がある生徒が少なくない。学校全体で学習への意欲を喚起する取組を継続している。 ○峰山学園全体で、家庭学習充実の取組を年3回実施し、保護者の協力も得られ、学習への動機づけができた。

生徒指導	・生徒の実態を早期に把握し、不登校の解消と未然防止を図る。 ・生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。 ・生徒の主眼的な取組を進め自己肯定感を育てる。	・不登校の解消と未然防止に向け、教育相談部会やケース会議で、SCやSSWを活用しながら、具体的な方針を立て実践する。 ・いじめや問題事象の未然防止のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。 ・全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生徒の主眼的な活動を組織していく。	○生徒の状況が安定し、学校全体がたいへん落ち着いた環境の中で教育活動が進められている。1年生男子でささいな諍いから生徒間暴力が多発した。1年生が、人間関係が深まるにつれ大幅に減少した。 △不登校生徒が高止まりしており、生徒の気持ちに寄り添った生徒指導や保護者・関係機関との連携がますます重要である。 △生徒同士の言葉遣いやSNSの使い方により、いじめにつながる恐れがある。
健康(体育)・安全	・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。 ・保健教育を系統的に進める。 ・部活動の充実と体力の向上を図る。	・交通安全指導を徹底する。(交通教室、PTAとの連携) ・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 ・避難訓練(地震・火災・不審者侵入)を実施し安全意識を高める。 ・積極的に部活動に取り組みさせるための指導を進める。	○車との接触事故が減り、生徒の安全意識の高まりが見られる。H30 4件⇒R1 2件(12月末現在) ○保健学習では、助産師、看護師、保健師などの外部人材を活用し、専門家の話により深い学びが得られた。 ○定期的に部活動長会を持つなどして、生徒が主体的に部活動に参加できるようにした。各種大会での好成績につながっている。
研修(資質能力向上の取組)	・新学習指導要領へ対応した研修を充実させる。 ・初任者研修を契機に教職員の資質能力の向上を図る。	・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを目指し、外部講師も招聘しながら研修を進める。 ・全教職員で初任者の育成を図る過程を通じて、自ら研修を深め、併せて教育活動の見直しを進める。	○年3回外部講師を招いて、研究授業を行うとともに講話を聴くことにより、教員の意欲が高まり授業研究が進んだ。来年度以降もぜひ継続したい。 ○計画通り初任者研修を進めることができた。初任者の授業技術の向上はもとより、研修講師を務める教員も改めて道徳教育や人権教育の要諦を再認識できた。
特別支援教育	・障害のある生徒への理解を深め、指導方法を研究する。 ・家庭、地域、関係機関との連携を深める。	・特別支援学級が3学級になったことを受け、より一層特別支援教育の研修を積むとともに、新たに聴覚障害への理解を深める。 ・個別の教育支援計画等を充実させ、生徒支援を進める。	○京都府北部聴覚支援センターや京都府スーパーサポートセンターから講師を招き、聴覚障害理解及び合理的配慮の仕方等の校内研修を行うことができた。 ○個別の教育支援計画(未来シート)の作成により、保護者と学校が一緒になって生徒の支援ができた。このことが不登校の未然防止にも効果的であった。
次年度に向けた改善の方向性	① 令和3年度からの中学校における新学習指導要領の完全実施に向けて、小中一貫教育の手法を用いながら、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりをさらに進めていく。 ② 不登校やいじめの未然防止に向けて、あらゆる教育活動を通じて、生徒同士のつながりを深める取組を進める。同時に、気になる生徒の様子を見逃さない教職員の人権感覚と危機意識を高める研修を継続的に進めていく。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼され、開かれた学校の向上 5 教職員の資質能力の向上 6 大宮学園小中一貫教育の推進		〇教育活動全体を通して話し合い活動や討論活動を積極的に導入し、言語活動の充実に努めることができた。 〇人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育に重点を置いた校内研修を充実させることができた。 〇授業の生徒評価は、「わかりやすい」が28年度85%、29年度89%、30年度88%と継続して高い。 〇生徒の自己有用感を培う取り組みを通して、生徒同士が「協力し合えた」H28 94%、H29 96%、H30 96%と高く評価している。 △学力の定着・向上に向け、授業と連動させた家庭学習の取組や「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の取組を推進していく。	1 質の高い学力の育成 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ・生徒指導の三機能を生かした基礎・基本の定着 2 生徒指導の充実と不登校の未然防止と丁寧な対応 3 人権教育を基盤とした指導の展開 4 特別支援教育の充実 ・校内体制の充実と機能化 ・個に応じた指導の充実 5 信頼される学校づくり ・家庭及び地域との相互連携の推進 ・外部関係機関との連携強化 6 大宮学園運営協議会に向けた動きづくり
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
本市の小中一貫教育の重点等を基盤として 教育課程 学習指導	・小中の接続期(Ⅱ期)の指導方法の研究を通じた授業改善 ・客観的データを活用した課題分析と授業改善 ・「ことばの力」「思いやる心」「つなげる力」を育成する授業づくり ・丹後学の研究と推進 ・家庭学習の習慣化に向けた取組の推進	・大宮学園教員合同の授業研究と合同研修会を実施し、授業改善につなげる。 ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。 ・全国学調及び府診断テスト等の結果を分析し課題改善に向けた授業づくりと補充学習を充実させる。 ・授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。 ・全教科を通して「ことばの力」カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。 ・「ことばの力」カリキュラムを活用し、思考力、判断力、表現力を育成する。 ・地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。 ・家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。	〇視点を持って合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、分科会での協議が有効で、小中互いに学ぶことができた。 〇第1回授業研究会を京丹後市小中一貫授業研究会と兼ねて実施したことで、研究を深めることができた。 〇全国学調及び府学テ等、各種学テ結果を分析し、校内研修で交流を行った。授業改善や補充学習に生かすことで学力の伸長が見受けられた。 〇「言語活用カリキュラム」の活用を図ることとで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。 △特別に支援を要する生徒、基礎基本の未定着の生徒が各学年に在籍しており、支援の在り方について共通認識を持ち、個別の指導を丁寧に行い、基礎学力の定着を図る。

生徒指導	・小中の合同生徒指導部の開催 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・定例の生徒指導部会で、いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築	・学園人権・生徒指導部を通して、連携と情報共有に努める。 ・毎週金曜日に生徒指導部会を開催し、日々の情報共有と指導の一致を徹底する。 ・学校環境適応尺度診断(ASSESS)、生徒アンケートを活用し、教育相談活動を丁寧に行う。 ・生徒指導部と教育相談部会を合同開催するとともに、特別支援教育部との連携も強化する。 ・いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめの根絶に向けた取組を生徒の動きづくりと関連させながら行う。 ・人権教育をすべての指導の基盤にし、生徒同士の信頼関係の構築に努める。	○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組の充実を進めた。 ○生徒指導部と教育相談部の部会を分けることにより、部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化に努めた。 ○いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめ事象を教材化し、全校で防止教育を進めることができた。 △不登校の生徒の出現率は昨年と比べると低くなったが、後半新規不登校の生徒が増えたとともに、不登校状態の深刻化も見られ、大きな課題である。
健康(体育)・安全	・安全教育の充実 ・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施 ・健康教育の充実 ・部活動の推進	・避難訓練や交通マナーの向上に向けた取組を通して、安心安全な学校生活について指導し、生徒自らの安全意識を高める。(大宮こども園との合同避難訓練を実施する。) ・薬物乱用防止教室の開催等による根絶の意識を醸成する。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため日々の部活動指導を大切にする。	○計画的に避難訓練を実施し、身を守る行動について考えさせることができた。 ○薬物乱用防止教室、性に関する学習を通して自分の生き方を考えさせることができた。 △さらに、部活動を通して自己肯定感や自己有用感を醸成させていく指導を行う。
開かれた学校づくり	・地域の教育資源の活用 ・各関係機関との連携と協働 ・学園運営協議会(コミュニティ・スクール)に向けた動きづくり	・小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターを通じて、学園教育支援協議会や地域学校協働活動との連携を強化し、学園運営協議会(学園コミュニティ・スクール)に向けた動きづくりを学園として行う。 ・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。	○絵本の読み聞かせ、総合的な学習の時間でのゲストティーチャー等、地域の方々と学校とをつないでいただき、大変深く学べる機会を作っていた。 △次年度から学園運営協議会(学園コミュニティ・スクール)の動き出しを行い、学園運営について地域との連携をさらに進めていく。
特別支援教育	・組織的な取組の強化 ・個々の生徒の実態と教育的ニーズを把握した指導展開 ・特別支援教育についての理解と認識の深化 ・保護者及び関係機関との連携強化	・特別支援教育コーディネーターを中心に学年団や各担任、サポーター等との連携を強化する。 ・個別の指導計画や教育支援計画を随時見直し支援にあたる。 ・教科部会を行い共通理解を図り、個に応じた指導にあたる。 ・通常学級に籍を置く配慮の必要な生徒への支援の状況を把握し、共通認識をもって支援を行う。 ・保護者との共通理解を図る。	○学年団や各担任、サポーターとの連携により必要な生徒への支援を行うことができた。 ○教員の共通認識を丁寧に持ち、保護者と連携することができた。 △さらに、特別支援コーディネーターを中心に組織的な特別支援教育を推進する。
次年度に向けた改善の方向性	1 大宮小中一貫教育の重点である「連携・体験活動の充実」、特に「効果的・効率的精選と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 2 学力向上に向け学力分析を指導改善に生かすとともに、校内研修や学園研修での授業研究を通して、指導の工夫・改善に取り組む。 3 大きな学校課題である「不登校」の未然防止、改善に向けて、生徒指導及び教育相談機能を強化し、全教職員であたる。 4 大宮学園教育支援協議会から大宮学園運営協議会への円滑な移行を図り、より地域とともにある学校・学園を目指す。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を身に付けさせる。 2 未来を展望し、将来を切り拓く力をすべての子どもに身に付けさせる。 3 思いやりをもち、仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育成する。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育成する。	評価項目	重点目標	具体的方策	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
	教育課程 学習指導 本市の小中一貫教育の基盤として	・「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくりをさらに研究し、実践する。 ・基礎基本の徹底及び活用する力を身に付けさせる指導の工夫改善を図る。 ・家庭学習を習慣化させる。	・少人数グループ研修と、年間3回の全体研修会とを組み合わせる中で、指導の工夫・改善を図り、具体的な実践により教育効果を確かめるサイクルで研究を進める。 ・学習の形態について、特に「対話的な学び」をピックアップし、学校課題である不登校の解消に向けた生徒同士をつなぐ視点を生徒指導の三機能とリンクさせて行ない、「主体的な学び」へとつなげる。 ・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の習慣化を図る。	「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ指導」の展開。 生徒へは、「つながろう仲間と。つながよう心を！」を合言葉に設定し、常につながりを意識して生活させる。 1 確かな学力の向上 (1)「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり (2)「生徒指導の三機能」を生かした授業づくり (3)家庭学習の習慣化 2 豊かな人間性・社会性の育成 「特別の教科 道徳」の研究と充実 3 健康の保持増進と体力の向上 食育の取組や文化部を含む部活動等を通して育成
生徒指導		・「自己指導能力」を育成する。 ・「居場所づくり」と「絆づくり」の理解と共に、これらの指導バランスを図る。 ・不登校を学校課題ととらえ、早期解消と未然防止についての取組を強力に進める。 ・いじめ等、人権侵害を未然に防止する。	・生徒指導の三機能をあらゆる教育活動の中で教員・生徒とともに意識し、両者の相互の取組によって育てていくことを毎回確認する。(居場所づくりと絆づくり) ・「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ」を職員の合言葉とし、職員全員が実態把握、的確な評価と集団への価値化、つながる場の設定を繰り返し積み上げること。 ・個々の役割を明確にする中でチームとしての総合力で取組を推進する。(管理職とコーディネーターが主となり、一番効果的な職員が生徒・保護者への支援等を行なう。)	○小中連携加配が主任を務める学力向上部から授業改善や工夫等に関する定期的なたよりが継続して発行されたことにより年間を通した研修を行うことができた。 ○小学校の学習指導における具体的工夫を中学校(特に1年)の指導へ組み込むことで、生徒が感じる学習面に対する不安や段差解消の取組を進めることができた。 △家庭学習については、次年度も一貫校 PTA の取組とも連携させ、学園全体で取組を充実させたい。 ○生徒指導の三機能を意識した授業を行うことにより、他者との関わりの中で思いを深めたり、自己を認めたりすることがスムーズにできるようになっている。 ○同・異学年の仲間や支えてもらっている家庭や地域との関わりを、具体的な言動としての「つながり」として認識させる中で、他者とのつながりの大切さを理解できる生徒が増え、安定した生活へとつながっている。 △不登校の未然防止と早期対応の取組を、学校内外の専門家とチームを組み、学園としての取組を進めたい。

健康（体育）・安全	・体力の向上を図る。 ・望ましい食習慣を身に付けさせる。 ・安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成を図る。	・新体力テストや全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果を踏まえ、運動部だけでなく、文化部活動における健康増進・体力向上の取組も定期的に実施させる。 ・毎月の食育の日や給食週間の取組をさらに充実させる。 ・避難訓練、非行防止教室等を活用し、自他の命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。	○部活動や体育の授業を中心に、基礎体力の向上はもとより、種目の特性に応じた技能を高めることもできた。 ○望ましい食生活について栄養士を講師に具体的な学習を取り組むことができ、生徒会活動としても充実した。 ○地震から津波発生を想定した避難訓練や非行防止教室、SNS講習会等を実施し安全に対する意識と状況に応じた具体的な行動の仕方を全校生徒で確認できた。
開かれた学校づくり	・PTAや教育応援会等、地域と共にある学校を目指す。 ・信頼関係をベースとした学校づくりを推進する。	・さまざまな組織や団体等と連携する機会を通じて本校の学校教育について説明を行ない、今年度の「学校経営方針」の理解を進めていく。 ・地域の宝である生徒のがんばりや教職員の具体的な取組を、学校だよりやホームページにおける発信と、積極的な学校公開を実施する中で地域との横の連携を深める。	○PTAや学校評議員様をはじめ、各種団体と連携を行う中で、授業や行事で生徒の活動を見ていただいたり、声をかけていただいたりと、生徒にとつて包み込まれているという安心をさらに感じさせることができた。 ○学校だよりの月2回の発行やホームページの積極的な更新等、積極的に発信を行った。
特別支援教育	・個々の生徒や保護者のニーズに合わせた支援を充実させる。 ・個々の生徒に応じた指導の推進と指導方法の工夫改善を図る。 ・校内教育支援委員会の運営を充実させる。	・「障害者差別解消法」の手指の理解とともに、生徒の実態をもとにした保護者との連携を日常的に丁寧に継続して行う。 ・「個別の指導計画」、「教育支援計画」における指導・支援計画を保護者のニーズに合わせて作成し、通常学級に在籍しているであろう生徒も含めて個に応じた指導の推進と指導方法の工夫改善を図る。 ・定期的な校内教育支援委員会の開催とあわせ、内容の充実を図っていく。	○「個別の指導計画」及び「教育支援計画」を作成し、個々の状況に応じた指導・支援を家庭との連携の中で実施することができた。 ○障害の特性などを正しく理解するとともに教職員間で共通した指導や支援等を継続して行うことにより、二次障害の防止だけではなく、学習活動への意欲を高めさせることができた。 △特別な支援の必要な生徒が増加する中、丁寧で正確な見立てと保護者との連携をもとに具体的な支援を取り組む必要がある。
次年度に向けた改善の方向性		・自らを成長させること、他人を認め大切にすることを、他者との関わり（つながり）の中からも感じ、考えさせたい。そのために、授業はもとより、特別活動（学級・学年や学校行事、生徒会活動、部活動等）などすべての教育活動を通じて、ペアやグループなど集団で行う活動を仕組むこと。 ・特に授業においては、単なる知識や技能の習得ではなく、他者とのかわりを通してどんな状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育てる中で、自らの可能性に気付かせ、更なる学びに向かう力や自他を大切にすることの居場所が学校内に出来上がり、学力の向上はもとより、そんな集団を様々な場面で構築できれば、集団内での生徒同士の絆や一人一人にとつての居場所が学校内に出来上がり、学力の向上はもとより、不登校やいじめ事象を未然に防止することにもつながるのではないかと考えている。 ・上記の内容については、網野学園保幼小中一貫教育の経営方針の柱の一つとしても、具体的な取組へと落とし込んで実践していく。 ・新学習指導要領の移行前年となるため、学習指導と評価に係る研修と具体的な取組、さらには確実な移行措置を実施していく。	

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
開校6年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。		昨年度は、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にして、落ち着いた学校生活に取り組み、学習、部活動、様々な行事・取組で力を発揮した。校風も落ち着き、しっかりしたものとなってきた。さらに、自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組む力をつけさせたい。		丹後中学校開校6年目にあたり、個々の生徒が本物を目指し、生き生きと挑戦する学校にする ～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉に進める～ ○生徒の可能性へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。 ○教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動すること で、本物を目指す。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
本市の小中一貫教育の諸計画として	教育課程 学習指導	・全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、生徒指導の三機能を生かした授業改善を行い、「ことばの力」を育成し、確かな学力の定着へ向けた実践を行う。 ・目標と指導と評価の一体化した取組を、「算数・数学」の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・ねらいを明確にして、ドリルや家庭学習課題に継続して取り組ませる。	○授業に生徒指導の機能を活かすためのチェックリストを全教職員が活用し、学期ごとに教員間での工夫内容の交流など研鑽に努めた。 ○年3回の小中学校授業公開を行い、生徒指導の三機能を生かした授業とは、どのような授業かを目指し、「国語」「社会」「数学」の授業研究を通して、丹後学園全体で研究ができた。	
	生徒指導	・授業中のみならず業間指導を全教職員で丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 ・いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果を基に組織的対応・指導に努める。 ・SNSや薬物等に係る「非行防止教室」や講演会を計画的に実施し、自他を大切に、正しく判断し行動する力を育てる。	○自己決定の場や自己存在感をいかにして与えるか、共感的人間関係をどのように育成するかの具体の指導について研修を進め、休み時間や空き時間など、あらゆる教育活動の場で生徒に寄り添い、自己指導能力の育成につなげることを重点に、年間取り組むことができた。 ○生徒指導部会・教育相談部会を時間内に設定し、週ごとの指導の方向性を明らかにして教職員全員で指導にあたることができた。いじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行う。さらに、全教員による「相談タイム」を学期ごとに行い、いじめの未然防止、早期対応につなげた。	

健康（体 育）・安全	・体を鍛えることで、忍耐力など心の強さも育てる。また、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。	・部活動の指導を学校生活の向上につなげ、体育系・文化系部活動かかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。 ・丹後小中一貫校 PTA 並びに本校 PTA・丹後学園教育応援会等との連携を強め、あいさつ運動や登下校指導を実施する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、常に危機意識を持ち指導にあたる。また、ねらいをしっかりと持たせた避難訓練を実施する。	○大会や試合、発表や作品の作品展等、日々の頑張りを発表する場として、また、礼儀やマナーを学ばせる場として部活動の指導にあたることもできた。 △さらに、生徒の安全安心な学校生活のために、危機意識を持って指導にあたる。 △喫緊かつ重要な課題提起を狙って、SNS 教育講演会を丹後学園として実施することを計画したが、実施できず、継続課題である。 ○丹後こども園との合同避難訓練は今後も継続し、自己肯定感を育む学習につなげる。
開かれた 学校づく り	・保護者・地域への学校公開等を計画的に行い、開校6年目の教育を理解していただく機会とする。 ・学校だより等の地域への回覧・全戸配布や、学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。	・入学式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、「丹後学園教育応援会」との連携を活かして、いただいたご意見や感想を今後の学校経営に活かす。 ・地域の取組に積極的に参加し、中学校の状況を伝えると同時に丹後小中一貫教育を広く発信していく。 ・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのために、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。	○学校や学園の行事や取組は広く案内をし、学校での生徒の頑張りを励ましていただくような環境づくりに努めることができた。 ○市の教育フォーラムにおいて、丹後学園の取組を広く発信することができた。また、「応援会」主催の子育て講演会の開催など、地域の教育力向上につながる連携が充実した。来年度も継続していきたい。 ○公民館事業など、地域で発表する場には積極的に生徒が参加し、地域の中で地域の子どもとしてできる場を今後も作っていく。 △学校支援ボランティアの方々に継続して行っていただけけるよう、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努める。
特別支援 教育	・生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人ひとりの特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。 ・関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。	・個別の指導計画や教育支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を、保育園中の一貫性・連続性を大切にしながら行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、校内委員会などの組織的な適切な支援を実施する。 ・校内研や研修会などを通して指導の充実を図り、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。	○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、的確な個々の課題をすべての教員が共有し、応じた指導や支援を行うことができた。通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、関係機関と連携を図りながら、共通理解のもと支援を行うことができた。 △さらに、支援の充実のための環境づくりと指導の充実が必要である。
次年度に向けた 改善の方向性	・地域に開かれた学校づくりをさらに進め、地域からの支援などが反映できるような仕組みを考えていく。 ・丹後学園の保幼小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かし、学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努める。 ・新学習指導要領にもとづいた教育課程づくりや授業改善を進める。		

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立弥栄中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
困難な出来事であろうとも、問題解決に向けて習得した学びをもとに、考えをめぐらし適切な改善策を仲間と共に力を合わせる人間性を涵養する。 ・仲間と共に描いた夢や希望をあきらめることなく、実現しようとする生徒の育成	評価項目	重点目標	具 体 的 方 策	自ら課題を見出し、解決策を仲間と共に協議し合うことのできる環境整備をする。 ・基礎学力の定着（主張できる力、反論や応答できる力の育成）をめざす ・異なる意見を踏まえ、折り合いをつけることのできる話し合い活動をめざす ・互いが認め合える仲間関係の構築をめざす 成果と課題（自己評価）
	教育課程 学習指導 本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	・文面を読み取り、じっくり考え、理解した内容をもとに発信できる力をつける。	・主語と述語を正確にとらえ、表記されている内容や発言の意図を理解できたか検証する。 ＊学びの定着を図る小テスト、単元テスト等の実施 ＊仲間と課題の改善策を練り、最適解の探究 ＊テスト結果の分析、教え直し	○国文法の習熟により読解力が向上してきた。 ○仲間と教えあうことが定着し、英語の基本問題に意欲的に取り組む生徒が増えた。 ○放課後学習が奏功し、課題未提出者が減った。 ●熟考すべき問いを盛り込んだ試験の作成が要る。
	生徒指導	・学校全体でいじめ、不登校の未然防止、迅速且つ丁寧な対応を行う。	・定期的ないじめアンケートや担任等による個別面談を行い、生徒の状況把握に徹する。 ＊いじめ対策委員会の定例化、生徒の状況交流 ＊生徒指導の3機能を生かした教育実践の検証 ＊生徒指導部会、教育相談部会との連携	○日常的に生徒と面談する機会を設け、良好な関係づくりを図った。関連分掌との連携も行った。 ○各自が探求したことを発表することができた。自信も出てきた。 ●将来を見据え、生徒の可能性をさらに発揮させること

健康（体育）・安全	・基本的な生活習慣の確立のもと、心身ともに健康な生活を過ごす。	・毎朝のランニングで健康な体づくりをすること、学習意欲に弾みをつける。 ＊マナーの習得（思いやり、協力、時間厳守、感謝） ＊身に付けた体力を部活動に生かし、自信をつける ・安心安全な学校生活を過ごす。 ＊集団生活をととして、危機回避能力の習得 ＊避難訓練の実施、危機意識の高揚	○時間厳守して、朝のランニングを継続させた。 ○偏食をなくし、健康な体と心を意識した生活ができた。 ○安全で安心できる学校生活ができた。 ●PC,TV,ゲーム等の時間を自分自身が制御できる力に身につくよう指導を継続させる。
研修	指導者としての資質向上をめざした校内研修を行い、日々の実践に生かす。	・授業づくりにかかわる研修 ＊課題解決型学習の推進 ・生徒の自尊感情の醸成につながる研修 ＊目標設定を行い、適切な指導と評価の実践	○課題設定し、探求し、深い学びにつながる指導により生徒は自らの考えを広く発信することができた。 ○生徒をいかに理解するのか、学習内容について理解させる道筋や適切な評価方法を研修し、授業に生かした。 ●生徒のまとめあげた考え（仮説）を検証させるまでには至っていない。
特色ある学校づくり	小学生と中学生の交流活動を行い、中学生としての自覚と責任をみにつける。	・中学校の行事、授業に招待する ＊合唱祭、体育祭、特別活動、部活体験、体験授業 ・児童会役員と生徒会役員と協議し、取組を行う。 ＊挨拶の取組	○小学生は、中学校の行事の参観のみならず、中学生とともに参加し、中学生になった自分自身をイメージする機会となった。 ●小中の事前打ち合わせ等、教師と生徒ともに十分な時間が持てなかった。
次年度に向けた改善の方向性	1 課題解決型学習をととして、自らの考えや発信できる力を見つけさせる。 2 良好な人間関係を構築させるために異年齢の活動を活発にさせる。 3 生徒の実態を把握し、個に応じた指導方法について校内研修を進める。 4 小中連携、保護者、地域、関係機関とも連携を密にし、生徒の成長を支援する。		

令和元年度 学校評価 自己評価報告書

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にすする学校を目指す。 ○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧に取り組むが系統的に実践を積み上げる。 1 生徒の自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する。 2 学力の充実・向上方策を共有し、全教職員で実践を進める。 (1) 学ぶ意欲・対話的で深い学びを実現する授業改善、言語活動の充実 3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ、地域とともにある学校づくりを目指す。	重点目標 1 地域の特性を生かした教育課程の編成、教科横断的な教育活動の推進 2 授業実践力の向上 3 家庭学習時間の確保	○学校行事、生徒会活動、日常的教育活動において、生徒理解及び指導の充実と努め、生徒の自己有用感・自己肯定感が高まった。 ○校内授業研究会を実施し、授業改善の視点、具体的な実践の共有を図り、授業改善が進展した。学力補充の取組を充実するとともに、異年齢による教え合の学習を毎学期実施した。生徒の学びに向かう力の向上、学力の伸長を図ることができた。 ○特別な支援を要する生徒の授業中の実態を把握し生徒・保護者に丁寧に対応することで、授業及び学級経営等での配慮・支援に結びつけることができた。 ○問題事象等、早期発見・早期対応に努め、校務分掌を活用した複数対応により早期に解決を図った。 ○「情報機器の安全な取扱い」に関する講演会を生徒及びPTAを対象に実施し、生徒のトラブルも減少している。 △「家庭学習ががんばり週間」を活用し生徒のメデイアコンテロール力の向上に努めたが、更に家庭学習の充実に入れる必要がある。 △関係機関等と連携を図り不登校の改善に努めたが、新規不登校の減少及び不登校生徒の改善に課題が残った。		＜久美浜学園＞ 指導の重点：学力向上 ○基礎・基本の徹底 ○言語活動の充実 (授業づくり) ○家庭学習時間の確保 1 課題や具体的方策の明確化と進捗管理 (1) 課題 ア 学ぶ意欲、規範意識の醸成 イ 学力の充実・向上 ウ 不登校の未然防止と解決 (2) 指導の重点 ア 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進 イ 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進 ウ 特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実 2 開かれた学校づくり (1) 地域の特性を生かした総合的な学習の時間の充実 (2) 地域や保護者への情報発信と「久美浜学園学校地域連携推進協議会」の学園運営協議会への移行の取組
評価項目 本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として 教育課程 学習指導	重点目標 1 地域の特性を生かした教育課程の編成、教科横断的な教育活動の推進 2 授業実践力の向上 3 家庭学習時間の確保	具体的方策 ◇丹後学の充実：1 年地域調べ(京丹後・久美浜)、2 年職場体験・立志式、3 年福祉体験(サロン活動、介護体験、提言) ◇教科、道徳科、特別活動と関連付けた教育の実施 ◇校内授業研「(主体的・対話的で深い学び)を実現する授業」、公開授業(道徳科、各教科)の実施、補充学習の充実、教え合い学習の実施 ◇各教科の週末課題、「家庭学習頑張り週間」等の取組による、メデイアコンテロール力の向上、家庭学習の質的向上		成果と課題 (自己評価) ○各学年のテーマを設定し丹後学を実施した。発表形態を学年発表とした。 ○教科、道徳科、特別活動等と関連づけた教育活動により、学ぶ意欲、規範意識の向上が図れた。 ○学力向上に係る校内研修(授業研究を含む)を5回実施し授業改善に努めるとともに、保護者対象のICTを活用した授業公開の機会を設定した。 ○補充学習の質的向上、全校教え合い学習等により学力の回復を図った。 △家庭学習習慣の定着を図るため、家庭学習の手引きの活用、自主学習ノートの取組、メデイアコンテロール力の向上の取組を進めたが、さらに家庭学習の充実に力を入れる。

生徒指導	1 人権教育、道徳教育、法やルールに関する教育の推進と規範意識の醸成 2 いじめの未然防止と解消 3 自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成 4 不登校（不登校傾向生徒）の解消と未然防止 5 関係諸機関との連携強化	◇人権学習、道徳科等の指導の充実 ◇生徒との対話の重視、学校行事及び生徒会活動における事前指導の充実 ◇「はあとほっとタイム」の実施回数増加 ◇「情報機器の安全な取扱い」の指導及び講演会の実施 ◇主要部会の定例化（生徒指導「いじめ対策」、教育相談）、「気づき」・「今週の気になる生徒」の発行 ◇関係諸機関と連携した非行防止教室の実施 ◇教育支援センター「麦わら」、まなび・生活アドバイザーの巡回派遣、特別支援サポートセンター巡回相談等の活用と専門性の向上	○人権感覚の向上、道徳性に係る成長につながるよう、学年で統一した指導を展開した。 ○学校行事、生徒会活動等において、生徒の主体性を伸ばすため、生徒との対話を大切に生徒理解及び指導の充実に努めた。 ○生徒の実態把握、情報の共有により問題事象、いじめ事象の早期発見・早期対応に努め、複数対応により保護者の理解を得ながら解決を図った。 ○非行防止教室を計画どおり実施できた。 ○「はあとほっとタイム」を給食の時間を活用してほぼ毎週実施し、生徒のよき行いを評価し自己肯定感の向上を図った。 △関係機関等と連携を図り、家庭訪問、別室指導等不登校への取組を強化して、不登校生徒数が増加するなど、不登校の解消に課題が残った。
健康（体育）・安全	1 部活動の充実と達成感の向上 2 緊急時対応訓練の充実 3 食育指導、健康教育、安全教育の充実	◇部活動方針を踏まえた部活動指導の実施 ◇緊急時対応訓練の実施（火災、不審者、地震） ◇食育、交通安全教室、喫煙防止教育、薬物乱用防止教育、生命のがん教育、性に関する教育等の実施	○部活動方針を踏まえた計画的な部活動が実施できた。部活動に対する生徒の意欲も高い。 ○緊急時非難訓練を実施し、緊急時への対応の意識を高めた。 ○交通安全教室、健康教育、食育を計画的に実施し、外部講師、府市の事業の活用により内容が充実した。
特別支援教育	1 校内指導体制の機能化 2 障害のある生徒に対する個に応じた指導の充実	◇アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づき指導・支援の実施 ◇発達障害のある生徒の実態把握、有効な手立ての蓄積 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化	○発達障害のある生徒の実態把握に努め、授業中の支援と通級指導による支援を関連づけ、学年部と連携した指導・支援の充実に努め、授業や学級経営等での配慮・支援に結びつけた。 ○生徒の変容により、保護者の理解が深まるとともに、信頼関係を築くことができた。
開かれた学校づくり	1 信頼される学校づくり 2 双方向の情報交流を活かした学校改善	◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ◇たより、HP等による情報発信 ◇学校地域連携推進協議会の学園運営協議会への移行の取組、地域学校協働活動の推進、地域連携による教育活動の実施	○迅速、誠実、丁寧な対応により、保護者、地域から一定の信頼を得られた。 ○学校だより・学園だよりの発行、HPの更新等により、タイムリーな情報発信に努めた。 ○学校地域連携推進協議会を年3回実施し、各組織の取組や学園の取組に対して意見交換するとともに、「久美浜を支える人づくり」について協議した。学園運営協議会への移行の準備を行った。
次年度に向けた改善の方向性	久美浜学園小中一貫教育により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を積み上げる。 ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善による学力の向上 ②好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 ③不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善		

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 (京丹後市立峰山こども園)

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
“笑顔でつながろう。みんなの力でとて!!” — はなそう・つたえよう・みんなのおもい — (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。	○峰山学園、関係機関と連携を持ち、職員の研修や保護者との懇談や面談を重ねることで園児一人一人が安定した生活や活動を進める上で言葉の大切さを伝えていくことができた。また、話すことや聞くことを意識し行動することができるようになった。 ○園児一人一人が主体的に取り組めるような言葉かけや環境を整えることで人や物への関わりを意識しながら行動できるようになってきた。 △保護者・地域に開かれた園として信頼関係に努める。 △乳幼児保育教育の研修を深め実践につなげる。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) (1)幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2)自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3)幼児の実態や発達に合わせ支援し、共に育ち合う集団をつくる。 (4)保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (5)峰山学園(園から小中一貫教育)の連携を進める。
評価項目 小中一貫 教育の推進 (保幼小 接続)	重点目標	成果と課題(自己評価)
○『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 (1)意欲を持って自ら学ぶ子ども(知) ・友だちとのかかわりながら遊びや生活を展開する。 (2)思いやりのある子ども(徳) ・あいさつをする。 ・保育者や友だちと話をし、話を進める。 (3)進んで心と体を鍛える子ども(体) ・保育者や友だちといろいろな運動遊びに挑戦する。	具体的方策 (1) 峰山学園経営会議を通して子ども達の実態から課題を見つけ、共通の目標を持つ。(ことば力・聞く力・話す力からのコミュニケーション能力を育てる) (2) 中学校との連携 ・福祉体験での交流・参観交流 (3) 小学校との連携 ・発表会(生活・音楽)鑑賞・参観と連絡会 ・運動会見学・散歩・体験入学・保育参観と研修会 ・小1スタートカリキュラムの考察と検討実践 (4) 私立園との交流 ・5歳児交流会・峰山学園担任会 (5) 高校生との連携 ・花の種植えと交流	○峰山学園の経営会議において各学校・園の状況の報告を受け、自園でどのように乳幼児保育を進めていくのが良いのか課題を明確にすることが出来た。特にことばの力では、各年齢や個々の実態に合わせて話す・聞く・話し合い・実践へと進めていくことができた。 ○異校種連携や交流では、参観や担任会・合同研修などを通して園児や生徒の状況を縦の繋がりとして園児も職員も学ぶことができた。また、関係機関ともスムーズに連携を持つことが出来、学びと実践につながっていくことができた。 △私立園との交流は、経営上の違いがあるものの乳幼児保育者として職員同士の研修交流を5歳児だけでなく各年齢で計画的に進めていくことが必要と感ずる。

教育課程	○幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。 ○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。 ○自分の思いや考えを表現したり行動できる力を養う。 ○日常的に園内外の安全指導・安全対策に留意する。	(1)園内外の自然の中で発見や感動を持つ。 (園内)・砂・泥・水遊び・プール遊び・遊具であそぶ ・園内の草木・野菜・花づくり・小動物の飼育 (園外)・散歩(農道を歩く・公園で遊ぶ)・遠足 ・よもぎ摘み・小動物捕り ・泥んこあそび(田植え・稲刈り)など (2)あいさつ運動・元気に挨拶を交わし一日を始める。 (3)登園時間や子ども達の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。 (4)活動や行事に向けての話し合いの時間や場を持つ。 ・自分を知り、友達の良さに気付ける生活や遊びを進める。 ・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。 (5)散歩・交通教室などで交通ルール・集団でのルールをもとに考えたり知らせたりする。また、保護者会と交通安全・危機管理について学び合う。	○園舎の周りは、田畑に囲まれ近くには京丹後警察や京丹後鉄道が通っているなど、自然環境と園児が興味関心の持てる公共施設に恵まれ、生活に必要な感動体験を通して豊かなことばの力へとつなげることができた。 ○「一日の始まりは朝の挨拶から」を職員一人一人が丁寧に対応することで園児の状況を日々、しっかりと把握することができた。早期延長保育を受けている園児も多いため、職員間の連携もしっかりとついで保育教育を進めることができた。 ○個々実態に合わせて、クラスや年齢・行事や活動に合わせ集団としての内容を園児や職員と相談しながら進めていくことでそれぞれが達成感と充実感を味わうことができた。 △大規模園であり各年齢の人数も多いが、幼児教育も前の乳児保育を改めて捉え方や個々への対応について学び個々の対応や支援のもと適切な関わりを行うことが必要である。
子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるよう支援する。	(1)子育て相談(随時) (2)園庭開放(毎週金曜日) (3)園開放(月2回) (4)預かり保育 (5)支援センターの利用 (6)一時預かり制度の利用	○いつでも相談を受けられることが出来るように園児の実態を把握し、担任から状況報告や連絡相談を密におこない対応することができた。 △引き続き、相談を受け連携を取っていく。
家庭・地域との連携	○自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 ○人とかかわりの中での言葉の使い方・必要性や大切さに気づき楽しむ。	(1)登園時間を9時までとし、集団としての生活リズムや活動の楽しさを知らせる。 (2)園での様子をたよりやホームページなどで発信し、保護者や地域の方とともに教育保育を進めていく。 (3)保護者・地域・社会人講師を迎えて様々な体験をする。 ・絵本の読み聞かせ・野菜の苗植と定植・稲作り ・運動あそび・音楽鑑賞・交通教室・ALTとの交流	○生活リズムを整えることが園児の成長発達のために必要なことを保護者に伝え、毎日決まった時間に朝マラソンや体操を行い、体を目覚めさせてきたことでスムーズな集団生活が進んでいった。 ○ホームページで園の活動や様子を情報発信することができた。 △早期・延長保育を受ける園児が多いこと、職員の勤務体制により、個人面談や懇談会など保護者との連携を進めていくが、個人的に声をかけて欲しい保護者が多く、引き続き、子育て相談ができる方法を考えていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	○職員間の報告・連絡・相談を徹底し、全職員の連携を密にする。 ○0歳児～5歳児の一人一人の捉え方と発達を育む。 ○園児の発達や状況を把握し、保護者や関係機関との連携を持ち、教育保育を進めていく。		

[illegible]

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立網野こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
(1) 園児自らが環境に関わり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。				どきどき わくわく きらっ！ ひとりひとりがかがやいて ～仲間とつながりながら 夢中になって遊ぶ子どもをめざして～ ・楽しいこども園生活を過ごす ・主体的な遊びや生活をくり広げる ・人となりが合うことの喜びを味わう
(2) 自分の思いや考えを表現したり、行動したりする力を養う。				
(3) 園児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。				
(4) 常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。				
(5) 地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。				
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	・「網野学園」のめざす子ども像をもとに、学園の基本方針を理解しながら取り組を進める。 ・園児と児童の交流の機会や保育教諭と教師の研修の場を重視し、相互理解を深める。 ・学園のアプローチプログラムに園の独自性を加えて実践し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながりを明確化していく。	・リーフレットを活用したり、小中一貫教育に関する会議や研修等に積極的に参加したりして、全職員で共通理解する。 ・運動会やマラソン大会、学習発表会等の学校行事を見学させてもらったり、園行事にも参加依頼をしたりする等して、交流が深まるようになる。 ・アプローチプログラムを活用して日々の保育実践を検討し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とつなげて捉え、検証していく。	○ 全体研修会や学年部会には積極的に参加するよう職員に誘い掛け、勤務体制に支障がない程度に参加できた。 ○ △網野学園全体研修会後の懇親会に全職員が参加し、小中学校の先生方と交流できたことは、校種間でも好評価だった。小中一貫教育の意識が深まっていることを感じた。しかし、教育保育面でのつながりには、まだ周知や実践できていないところがあるので、今後は、不足のところを検証していきたい。 ○ 5歳児を中心に、交流する機会が多くもてた。特に小中学校の先生方に発表会を最後まで参観してもらえたことは、園の教育保育を伝える絶好の場となった。 ○ △5歳児の指導計画や担任会の中で、実践記録やDVD視聴等を利用し、「10の姿」を系統立てて検証していった。今後は園内の接続にも反映させたい。アプローチプログラムは、市全体で見直しの時期になっているので、園内の特性を活かしたのものも検討したい。	

教育課程	どきどき わくわく きらっ！ ひとりひとりがやがやいて 仲間となつて遊ぶ子ども 夢中になって遊ぶ子どもを めざして～ ・楽しい園生活を過ごせるように する。 ・主体的、対話的な活動をくり広 げられるような環境づくりを する。 ・人とつながら合うことの喜びを 味わえるようにする。	・一人一人の園児と心をつなぎ、個々が安定でき る園生活を創造する。 ・自らが健康や生活に関心をもち、リズムある生 活が習慣になることを意識させる。 ・園児が主体的に協同的な遊びを展開するような 直接体験の場や思考をくぐらせながら遊ぶ機 会を大切にすること。 ・集団でなければできないこと、大勢ですると楽 しいことに気付かせ、周りの友達や人に関心を もたせる。 ・友達のよさや友達と一緒に過ごす心地よさを感じ させ、人とつながらることの喜びを味わわせ る。	○△要支援児が多い中、教育支援会議、年中児発達サポー ト事業、3歳児検診等をきっかけに、保護者との面談を数 多くもち、医療や療育機関等につなげることができた。 園児の安心安定にもつながらているが、家庭の事情もあ り課題が継続しているところもある。 ○△園生活に慣れ、スムーズに生活を進めたり伸び伸びと活 動したりするようになった園児が多いが、家庭生活の状 況が原因で、不安定さが見られることもある。 ○△4歳児を中心に、協同性や思考をくぐらせる遊びや活動 を重視してきたが、園としての教育保育の基盤をつく ていくことに難しさを感じる。 ○運動会や発表会という大きな行事を経験する中で、「友 達と一緒に楽しい」「同じことがやってみよう」「やっ てよかった」という意識につなげることができた。 ○協同的な活動や遊びをすることで、各年齢や異年齢のつ ながりが深まり、個々の力や集団としてのよさが見られ るようになった。 ○△発達の課題のある園児や言葉による伝え合いがしにく い園児にとっては、友達のよさをスムーズに受け止める ことが難しいようだったが、友達とつながることに喜び びを感じられるようになってきた。 ○全クラスの懇談会に参加し、保護者の雰囲気をつかんだ り、こども園開園当初にあたっての協力依頼をしたりす るなどの機会をもった。 ○保護者からの相談を受けてアドバイスをしたり、要望を 聞き、できる範囲で柔軟に対応したりしていった。 ○園開放だけでなく、毎週金曜日を園庭開放日にしたこと で、子どもだけでなく保護者同士が関われる場となつて いる。 ○毎月の園内自主研修が定着し、正職員だけでなく、臨時 やパート職員の参加も見られるようになり、園全体と しての資質向上につながっていると感じる。また、職員 の方から提案したいと進めた研修もあり、その主体性 に意識の変容を感じた。 ○△週案や反省、実践資料等の視点や書き方については一定 の成果が見られるが、ねらいや見通しの持ち方に曖昧さ もあり、引き続き職員集団の研鑽が必要である。
子育て支援	・園だより、クラスだより、懇談 会等で保護者に園児の様子を 知らせ、家庭と連携し、「共育 て」をめざす。 ・園開放により、未就園の親子の 保育体験を行い、子育ての安心 安定を図る。	・クラス懇談会を開催し、子育てに関することを 考えたり振り返ったりする場とする。 ・保護者の話や相談に耳を傾け、一緒に課題解決 に向けて進めていく。 ・月2回「園開放日」を設け、園児と交流したり、 楽しく遊べる雰囲気や環境を設定したりする。	・エピソード研修やワークシヨップ等の園内研修 を通して「3つの資質能力」や「幼児期の終わ りまでに育てたい10の姿」等が実践に活かさ れているかを明確化、言語化、可視化する。 ・月案や週案の立案、反省を通して、日々の具体 的な実践例をあげて環境構成や保育教諭等の 援助の在り方等を探っていく。(PDCA サイク ルの重視)
(A) 研修 (教員の資 質向上)	・幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領の理解に努め、保育教 諭等の資質向上をめざし、園内 研修の充実を図る。 ・「主体的で対話的な深い学び」 を実現する保育を推進する。		
次年度に 向けた 改善の 方向性			網野こども園開園にあたり、教育保育面、施設面、保護者との信頼関係、園児の特性と内面理解、職員同士の関係性等、様々な課題解決に向け て園長としての方向性を示してきたが、十分ではないものの、網野こども園としての基盤が確立してきたのではないかと考える。次年度は、さらに 職員相互の主体性を重視した教育保育につなげるよう、組織体制を考慮したい。また今年度の保護者アンケート結果や学校評議員のからの評価等 を全正職員に周知し、改善のポイントを定め、自己評価を通して意識付けたり研鑽を積んだりしていきたい。

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔 京丹後市立丹後こども園 〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
一人一人が生きていきと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなななえがお！」をテーマに、人とかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。	前年度の成果と課題 ・5歳児を中心に年間を通して、様々な運動遊びに挑戦した。運動に苦手意識のある園児も、友達の頑張る姿に刺激をうけたり、保育者が励ましたり見守ったりする中で意欲をもち取り組めた。5歳児の姿に憧れて4歳児、3歳児がやってみようとする姿につながった。 ・情緒の安定を図り安心して話す、相手の思いを聞くことに重点を置き保育教諭は丁寧な関わりを心掛けた。しかし複雑な家庭環境もあり、安定を図ることは難しいこともあった。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を園内研修で学びあった。遊びの中で育っている姿や関わり方の工夫など保育者間で話し合うことができてよかった。しかし研修時間の持ち方や内容等はまだまだ十分ではない為、工夫が必要である。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) 合言葉「笑顔まんたん ゴーゴゴー！！ ～遊ぼう 笑おう 伝えよう～ ・様々な活動を通して人と人とのつながり、いたわりや優しさ、思いやりの心を育み、心豊かな人間性、社会性をもつた幼児を育成する。 ・聞く力や話す力が身に付くよう、計画的に取り組み、自分の思いを言葉で表現するなど言葉の力の向上を図る。 ・保護者や地域との連携、また丹後学園保幼小中連携を深め、様々な体験や活動を積極的に取り入れ、たくましく健やかな体と心をもつた幼児の育成に努める。
評価項目	重 点 目 標	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	重 点 目 標 ・『丹後学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき、取り組みを進める。 ・保幼小中の連携を密にし、スムーズな接続を図る。	成果と課題 (自己評価) ○丹後学園接続部会で行ったスタートガイドカリキュラムの研修、保育参観や0期～1期における指導の系統性を小中学校の先生方と一緒に学び合ったことは、今後の幼小接続に活かされる。 ○なかよし交流会の取り組みの中で、小学1年担任の先生と、5歳児担任がそれぞれねらいをもち一緒に活動を進めることが出来た。体験入学までに、何度も交流する機会があり例年に比べ小学校への期待や楽しみが高まっていた。 △活動内容については1年担任、5歳児担任が話し合う時間をつくる必要がある。

教育課程	・多くの体験を通して心身ともにたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ幼児を育成する。 ・遊びを通していたわりや優しさ、思いやりの心を育む。 ・言葉の力の向上、人の話を聞く、自分の思いを伝えることが、できる力を養う。 ・自分から進んで挨拶や返事ができるような環境をつくる。	・体を使った遊び（体操・リズム運動・散歩・なわとび・竹馬・固定遊具等）を積極的にとり入れる。 ・小動物の飼育、栽培物の世話と一緒に行う。 ・異年齢活動（チーム活動、クッキング、運動会に向けての活動等）を通して年下児へのいたわりの気持ちをもったり、年長児に対して憧れの気持ちをもったりできる環境設定を考える。 ・絵本や物語などに親しむことで、言葉の力を豊かにする。 ・保育者が園児の話にしづかりと耳を傾ける。	○年間を通して、年齢や発達に合わせた運動遊びをとり入れ行なった。意欲的に取り組む園児の姿を大切にし、保育者は寄り添い自信となるよう援助をした。運動に苦手意識のある園児も友達の良い姿を励まし、言葉かけにより、やってみようとする姿になった。5歳児の姿をいろいろな場面や行事の中で見ること、3・4歳児は親しみや憧れの気持ちをもち、兄弟のような関係を育むこともできた。 ○5歳児の挨拶当番が玄関で「おはよう」と登園してきた園児や保護者を迎えるなかで、挨拶が浸透してきた。保護者にも好評であった。 ○△乳児クラスは保育参観の後、保護者同士が話をする場をつくり、子育てについて交流できた。幼児クラスでは機会をつくることができなかった。 ○支援センターへ園児が出向き、歌や踊りの交流や行事の様子を見てもらうなど交流を図った。 ○要支援児の保護者と何度も面談を行い、園児の発達や指導の方向性を保護者と共通理解して援助を行った。特に保健師と園との連携を密に行う中で情報交流もでき、保護者支援やいろいろな関係機関に繋げることができた。
子育て支援	・保護者や未就園児の保護者のコミュニケーションの場をつくり、子育ての安定を図る。 ・支援を要する園児に対しての支援策を園全体で考える。	・懇談会など、保護者同士が子育ての悩みなどを出しあえる場をつくる。 ・子育て支援センターや園開放、園庭開放により未就園児との交流をもつ。 ・子育て講演会への参加を呼びかける。 ・預かり保育、一時預かり保育制度を活用し、子育てに疲れや悩みを抱えている保護者支援を行う。 ・支援を要する園児に対して保護者や保健師、他機関とも連携をとり園全体で支援していく。	○△外部研修は、保育事情により参加人数が限られたので、職員会議で研修報告を行うようにした。 ○△園内公開保育を行う回数は少なかつたが、実践交流を多く行なった。そのなかで主体的な遊び、環境構成について悩みを出し合った。まだまだ環境の工夫については、課題も多く、学びを深めていかなければならない。 ○各学年で保育について話し合うための学年会議の時間をつくり、園児の支援や保育の方向性を共通理解するようにしたこと、保育者間の連携ができてきた。 ○職員で考えを出し合い、遊びのコーナーをつくり園児が好きな遊びを選択できるようにした。
研修	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき保育実践をする中で、乳児から幼児へと育ちを見通した保育がすすめていけるよう全職員で学び合う。	・さまざまな研修に多くの職員が積極的に参加できるよう勤務体制の組み方を工夫する。 ・園内研修を積極的に組み入れ、園内公開保育やエピソード研究を行うなかで、0歳児からの年齢ごとの育ちがどのように「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながっていくのかを考え、全職員でよりよい子どもたちの育ちを育てていく。 ・乳児の発達を踏まえ、乳児が主体的に生活していくための保育者の援助の仕方や、環境の整え方を学び合う。	○△外部研修は、保育事情により参加人数が限られたので、職員会議で研修報告を行うようにした。 ○△園内公開保育を行う回数は少なかつたが、実践交流を多く行なった。そのなかで主体的な遊び、環境構成について悩みを出し合った。まだまだ環境の工夫については、課題も多く、学びを深めていかなければならない。 ○各学年で保育について話し合うための学年会議の時間をつくり、園児の支援や保育の方向性を共通理解するようにしたこと、保育者間の連携ができてきた。 ○職員で考えを出し合い、遊びのコーナーをつくり園児が好きな遊びを選択できるようにした。
次年度に向けた改善の方向性	・園児一人一人が安心安定で過ごす環境を整え、遊びの中で様々な環境に関わり、「やってみよう」と心動かし主体的に活動する子どもを育てたい。 ・これまでに続けてきた挨拶運動、異年齢活動、運動遊びを次年度も取り入れ健康な体づくりや、思いやりの心を育んでいきたい。 ・地域の人や伝承文化を大切にして、自然体験や感動体験を味わう中で地元愛を育てていきたい。		

令和元年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立弥栄こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
「とんどち だいすき つながるえがお」 ～やっつけてみたい！明日もやりたい！夢中にな って遊ぶこどもをめざして～ ○さまざまなことに心を動かし、心豊かな子 どもを育てる。 ○生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康 な心と体を育てる。 ○身近な人や地域とのかかわりを持つ力を 育てる。	前年度の成果と課題 ○異年齢活動や異年齢交流を行う中で、豊かな人間関係を 結ぶ力を育むことができた。 ○主体的に活動し、様々な体験活動を楽しみながら、体力 づくりや生き生き基礎を培うことができた。 ○弥栄学園小中一貫教育の推進により、園小の連携を充実 することができた。 △ホームページ、各種たより、参観など家庭や地域との連 携の工夫を図っていく。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) ・子ども自らが様々な人や自然とのかかわり、また、 体を十分に動かして遊ぶ中で、心を揺り動かさ れるような体験をし、豊かな感性を養う。 ・自らの健康や生活に関心を持ち、生活習慣の基 礎を培う。 ・人との関係を築く力をつけるために、あいさつ や自分のことは自分でする力を育てる。 ・弥栄学園(小中一貫教育)の連携を図り、円滑 な接続ができるよう交流や研修を進める。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策
小中一貫教 育の推進 (保 幼 小 接続)	○『弥栄学園』の連携 ・故郷を愛し、主体的に学び、心 豊かで、たくましく生き抜く子 どもの児童生徒の育成 ・自分からやってみようという 意欲をもって取り組む子ども も(知) ・思いやりのある子ども(徳) ・進んで体を鍛える子ども(体)	成果と課題(自己評価) ○経営会議で共通理解を図り、主体的な活動を進 めていくことができた。また、その都度情報交 流したことで就学に向けての引継ぎがスムー ズにできた。 ○異校種交流を行う中で、生活や学びの見通しを もち、憧れの気持ちをもちたりに触れる ことができた。 ○園・小・中の教職員合同研修で弥栄こども園で の公開保育をしたことで具体的な指導を見て いたことができた。また、こども園からも授業研 究に参加させてもらうことで、より共通理解するこ とができた。 △1年生との交流活動は、就学に向けての安心感 につながったが、交流活動の事前の会議が不十 分だった。
教育課程	・園内外の自然の中で五感を通して遊ぶ。 (園内) 砂、泥遊び、プール遊び、園内の草花、クッ キング活動、虫捕り、小動物の飼育 (園外) 丹後王国食のみみやこ・弥栄運動公園・水辺公 園・稚鮎の放流など ・自然や自然物を取り込んで遊ぶ。 (草花・砂・水・泥・木の葉・木の実・雨・雪など)	○年間を通じて園外保育や戸外活動を中心に自 然に関わり発見や感動体験を重ね、豊かな心や 感性の育成につながった。 ○畑作りという土台づくりから始めたことで、よ り食への関心や感謝の気持ちをもち、心が きた。

	○自分の思いや考えを様々な方法で表現したり、行動できる力を養う。	・自らの健康や生活に関心をもち、リズムある生活が習慣になることを意識できるようにする。 (生活点検表・登園時間) ・体を動かし指先を使い、体と心のバランスがとれた体力づくりをする。 ・絵本や読み聞かせを通して言葉の表現を楽しんだり、友だちの思いや自分の思いを伝える機会を多くもつ。 ・異年齢での交流を深める。 ・地域の方々や高齢者との交流を通して親しみの気持ちをもつ。	△生活点検表や個人懇談等で、子どもや保護者に意識をもってもらおうようにしたが、まだ不十分であるので今後も引き続き取り組んでいく。 ○活動の前後の振り返りや話し合うことによつて、友達のことを知ったり、自分の考えを伝えようとする子どもが増えた。 ○年間を通して異年齢の活動することによつて、相手の立場にたった言葉のかけかた等、思いやりの心を育むことができた。	△生活点検表や個人懇談等で、子どもや保護者に意識をもってもらおうようにしたが、まだ不十分であるので今後も引き続き取り組んでいく。 ○活動の前後の振り返りや話し合うことによつて、友達のことを知ったり、自分の考えを伝えようとする子どもが増えた。 ○年間を通して異年齢の活動することによつて、相手の立場にたった言葉のかけかた等、思いやりの心を育むことができた。
子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い、楽しく子育てができるように支援する。	・子育て相談 ・園開放(月2回) ・預かり保育 ・支援センターの利用 ・一時預かり制度の利用 ・ホームページ、各種により、参観などで子どもの成長を伝える。	○毎日担任が丁寧に子ども様子を伝えたり、月末には写真を貼り出し子どもの成長を共に喜ぶことができた。 △担任とのコミュニケーションは十分にとれていたが、保護者同士が話す機会が少なかった。クラス懇談会なども考えていきたい。	○毎日担任が丁寧に子ども様子を伝えたり、月末には写真を貼り出し子どもの成長を共に喜ぶことができた。 △担任とのコミュニケーションは十分にとれていたが、保護者同士が話す機会が少なかった。クラス懇談会なども考えていきたい。
家庭・地域との連携	○人とかかわりの中で生きる力を育む。 ○あいさつや自分のことは自分でする力を育てる。	・登園時間を9時までとし、集団で行動することの大切さや楽しさを知る。 ・社会人講師を迎えて様々な体験をする。 (読み聞かせ・お茶会など) ・弥栄分校との交流(保育体験や花の種まき など) ・高齢者との交流 (サロンとの交流・祖父母参観)	△担任が9時まで登園して十分体を動かすことの大切さを保護者に伝えてはいるが、意識の低い保護者がいる。引き続き取り組んでいく。 ○地域の方と交流することで様々な体験をすることができた。 ○△園内での挨拶の習慣は身につけているが、自分から挨拶をする、思いを伝えるということに引き続き取り組んでいく。	△担任が9時まで登園して十分体を動かすことの大切さを保護者に伝えてはいるが、意識の低い保護者がいる。引き続き取り組んでいく。 ○地域の方と交流することで様々な体験をすることができた。 ○△園内での挨拶の習慣は身につけているが、自分から挨拶をする、思いを伝えるということに引き続き取り組んでいく。
次年度に向けた改善の方向性	○弥栄学園の目指すことも像の育成に努め、つながりのある教育活動を充実させていく。 ○弥栄ことも園の教育について、便りやホームページ、行事などの機会に保護者や地域に情報発信していく。 ○認定ことも園教育・保育要領に基づき、一人一人の育ちに合わせた援助・支援の充実、環境構成をしていく。			

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔京丹後市立かぶと山こども園〕

評価項目	重点目標	本年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	○『久美浜学園』の『教育目標』の「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子ども」の育成」 『目指す子ども像』に向けて教育内容の相互理解を深め、一貫性のある指導を行う。 ○保育所園小学校と連携し、学園テーマく主体的・対話的で深い学びの実現を意識した「言語活動の充実」を追求し、自ら考えを深める子どもを育成する。	前年度の成果と課題 ○こども園近辺の自然の中で毎日遊んだり、散歩したりし、全園児の体力増進に努めた。冬季の感染症も大流行には至らず、元気に過ごせた。 ○研究テーマを設け、遊びの環境や保育者の関わりを工夫してきた。一人一人の自発性を大事にしなが、一人一人に寄り添った保育を心がけた。また、クラスや学年の会議を通して環境や園児への関わりを工夫し、共通理解することには保育の質の向上にもつながった。 ○「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちのチャレンジャーに関わることで、地域の方とも関わる機会がもてた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方がつながるきっかけ作りができた。さらに保護者会と一緒に、「子育て」「親育ち」を目指したい。 △「挨拶をする」「話を聞く」「健康的な生活習慣を身につける」「親子で絵本に関心をもつ」園児が増えるよう様々な方策や工夫をしていきたい。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) ○園児が安心して活動に取り組む、自己発揮できる環境やかかわりを工夫し、自己肯定感や自己有用感を育む。 ○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境構成を工夫する。 ○自分の思いや考えを言葉で表現できる力を育む。 ○家庭や地域と連携して規範意識や道徳性・社会性の芽生えを育む。 ○特別な配慮を必要とする園児に対し、適切な支援が受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。 ○久美浜学園として『目指す子ども像』『教育目標』に向かい、保育の質の向上と連携に努める。 ○子育て支援と家庭教育力向上を目指し努力する。
		具 体 的 方 策 (1) 久美浜学園を通して子どもたちの実態を交流し、共通の『目指す子ども像』や『教育目標』に向けて一貫性のある指導をしていく。 (2) 小学生や中学生との交流を行う。 (3) 小学校との連携 ・運動会見学・体験入学・授業体験・プール体験・学習発表会見学・マラソン大会応援・園外保育等 (4) 保幼小の連携 ・合同研修会・教師、保育教諭、保育士の交流・アプローチプログラムとスタートカリキュラムの評価と改善・入学までにつけたい力と入学後に継続したい取組の明確化・学力向上(保幼小から低学年に向けての言葉の力の育成)の授業と事業等	成果と課題(自己評価) ○「久美浜学園」夏季研修会では、昨年度よりさらに乳幼児保育の中で非認知的能力を大事にしている保育について交流できた。 ○小学校プールでの「チャレンジプール」「1年生との交流」「2年生との交流」「学習発表会」等、体験入学までに小学校を体験することは、教師や小学生と交流し、顔なじみになり、就学に向けて安心感と期待感に繋がっている。 ○中学生と吹奏楽演奏会や職場体験で交流した中で、「考える」「協力する」「言葉で伝える」「園児に積極的に関わる」力を中学生が持っていることを知り、学園の取組の成果を感じた。 ○普段から小学校への園外保育を行い、園児も職員も小学校を身近に感じている。 ○保育所・園と合同で研修を行い、質の向上に努めた。

教育課程	○主体的・協同的に活動する力を育てる。 ○自己肯定感を育む。 ○自分の思いや考えを表現し、人と関わる力を養う。 ○自らの健康やリズムある生活に関心を持ち、基本的な生活習慣や態度を身につける。 ○人権尊重・規範意識や道徳性・社会性の芽生えを培う。	(1) 様々な体験や人との出会いの機会を設定する。 ・自然の中で、五感を豊かにする。 ・様々な行事参加や体験活動をする。 ・園児が遊びや生活の中で主体となるような環境構成を工夫する。 ・異年齢交流をする。 (2) 感動体験をする機会や言葉で思いを伝え合う機会を設定する。 (3) 挨拶を奨励する。 (4) 絵本や物語に親しむ機会を設定する。 (5) 自立心を育てるような機会の設定をする。	○全園児が各年齢なりにこども園近辺の自然の中で遊べたり、散歩したりする等「健康な心と体」作りを元気に過ごす保育に徹した。感染症も大流行せず、園児、聞く力が弱い園児が多かったが、体幹を鍛えることで落ちつき、集中する力も表れてきた。 ○「ぼくもわたしたちもみんな大好き」～包みこまれている安心感の中で、のびのびと生きる子どもをめざして、研究テーマに環境や保育者の関わりを工夫してきた。乳幼児一人一人の理解と、特性や個性を十分大事にしなが、一人一人を受け止め寄り添い、認める関わり、保育を心がけた。保健師や学校教育課臨床心理士との連携により、乳幼児について共通理解することは保育の質の向上にも繋がった。 ○職員が温かい雰囲気、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になるよう努めた。保護者と話す機会を設け、信頼関係の構築に努めた。 ○学園としての取組である「家庭学習頑張り表」を通して親子の生活習慣に対する意識が昨年度より向上した。 ○子どもにも一生懸命に向かう保護者、参観中や集会で静粛でマナーも良い保護者が増えたと思う。役員も立候補が多く、保護者の主体性を嬉しく感じる。 △提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援の工夫が課題である。 ○保護者会本部役員を中心に「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちのチャレンジに関わったり、地域の方とも関わったりすることが定着してきた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がる機会にもなった。また、自治会と計画し、サロンの園行事参加を通して世代交流ができた。
子育て支援	○保護者の気持ちに寄り添い、安心して子育てができるよううに支援すると共に保護者が子どもの成長に気付き子育ての喜びを感じられるようにする。 ○家庭の教育力向上を図る。	(1) こども園でおしやべり会・子育て相談(随時・毎月) (2) 園開放・園庭開放 (3) 預かり保育、一時預かり保育の活用 (4) 支援センターの利用 (5) 子育て講演会 (6) 懇談会・保育参観・給食参観 (7) 誕生児と保護者への紙芝居や絵本の貸し出し 等	○職員が温かい雰囲気、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になるよう努めた。保護者と話す機会を設け、信頼関係の構築に努めた。 ○学園としての取組である「家庭学習頑張り表」を通して親子の生活習慣に対する意識が昨年度より向上した。 ○子どもにも一生懸命に向かう保護者、参観中や集会で静粛でマナーも良い保護者が増えたと思う。役員も立候補が多く、保護者の主体性を嬉しく感じる。 △提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援の工夫が課題である。 ○保護者会本部役員を中心に「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちのチャレンジに関わったり、地域の方とも関わったりすることが定着してきた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がる機会にもなった。また、自治会と計画し、サロンの園行事参加を通して世代交流ができた。
家庭・地域との連携	○家庭地域との連携と子育て支援を行う。 ○保護者同士や保護者と地域がつながり、園と協力して「久美浜を支える人」育成の土台づくりを行う。	(1) 田植え体験・稲刈り体験ボランティアの活動 (2) 交通安全ボランティアの活動 (3) 絵本の読み聞かせボランティアの活動 (4) お茶会ボランティアの活動 (5) 保護者会の協力 (6) 久美浜学園家庭教育委員会との連携 等	○保護者会本部役員を中心に「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちのチャレンジに関わったり、地域の方とも関わったりすることが定着してきた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がる機会にもなった。また、自治会と計画し、サロンの園行事参加を通して世代交流ができた。
次年度に向けた改善の方向性	・質の高い乳幼児教育と職員のチーム力を向上させていけるよう工夫していく。 ・「健康な心と体作り」「心も体も安心・安全な環境作り」「学習意欲や主体的活動」への取組について保護者会と連携し、家庭教育力の向上を目指す。 ・提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援を工夫し、親子の自己肯定感を育てる。	・「健康な心と体作り」「心も体も安心・安全な環境作り」「学習意欲や主体的活動」への取組について保護者会と連携し、家庭教育力の向上を目指す。	・「健康な心と体作り」「心も体も安心・安全な環境作り」「学習意欲や主体的活動」への取組について保護者会と連携し、家庭教育力の向上を目指す。